理學博士
農學士 松村松年著（後編）

大日本害蟲全書

東京 合資會社 六盟館

大正
4. 4. 21
内交

例言

一、本書には本邦産蝶類に屬する害蟲四十五種、蠅類に屬する害蟲五十九種、甲蟲類に屬する害蟲三百十種及び蜂類に屬する害蟲四十二種、合計四百五十六種を記載せり。

一、本書には著者の所藏せる害蟲の全部を説明せり、但だ二三の害蟲編に記載せる害蟲にして學名調査のなきもの若くは其地位の判然せざるものは茲に記載せず、他日其判明するの時を待ちて發表すべし。

一、本書には臺灣産害蟲の重要なるものを記載せり。

一、本書に挿入せる圖版の總數は廿八枚、以て害蟲の代表者を網羅し得たるを信ず、唯だ同屬に係るものにして圖畫により其識別に困難なるものは省畧せり。

一、卷尾に學名、和名及び害蟲の食物の索引を附し搜索に便ならしめたり、又食物の索引の章には太字を以て學名及び和名を記載し、本邦に於ける重要害蟲と比較的重要ならざる害蟲とを區別し置きたり。

一、本書の圖畫は東北帝國大學農科大學助手大國督氏の健筆に成るものなれば爰に謝意を公表す。

大正三年十二月

東北帝國大學農科大學
昆蟲學教室に於て
理學博士　松村松年識

大日本害蟲全書　後編

目次

各論

蝶亞目

拝蝶科……一―三

一　いちもんじせゝり　二　おほちやばねせゝり

小灰蝶科……三―一四

一　うらなみしゞみ　二　むらさきしゞみ　三　うらぎんしゞみ

四　からすしゞみ　五、みどりしゞみ　六　おほみどりしゞみ

七　めすあかみどりしゞみ　八　うらじろしゞみ

九　みづいろをながしゞみ　一〇　をながしゞみ

一一　むもんあかしゞみ　一二　あかしゞみ

一三　うらなみあかしゞみ　一四　とらふしゞみ
燕蛺蝶科……一四——一六
天狗蝶亞科……一四——一六
一　てんぐてふ
蛺蝶科……一六——一八
蛇目蝶亞科……一六——一八
一　このまてふ　二　ひめじやのめ
蛺蝶亞科……一八——三四
一　くじやくてふ　二　きべりたてば　三　ゑるたてば
四　ひをどしてふ　五　きたてば　六　しーたてば
七　あかたてば　八　ひめたてば　九　こむらさき
一〇　おほむらさき　一一　ごまだらてふ　一二　ふたすぢてふ
一三　こみすぢ　一四　おほいちもんじ
粉蝶科……三四——三八
一　もんしろてふ　二　すぢぐろてふ　三　えぞしろてふ

鳳蝶科……三八——四八
一　ながさきあげは　二　もんきあげは　三　くろあげは
四　からすあげは　五　きあげは　六　あげは
七　くろたいまい　八　しろをびあげは
双翅目
蝨蠅亞目
蝨蠅科……四八——五一
一　うましらみばい　二　いぬしらみばい
三　ひつじしらみばい　四　あをばとしらみばい
短角亞目
家蠅科……五一——六五
一　しやうじやうばい　二　むぎもぐりばい
三　いねきいろはむぐりばい　四　いねむぐりばい

五 いねあをむぐりばい 六 なむぐりばい 七 ひめいへばい
八 だいこんばい 九 ひめくろばい 一〇 おほいへばい
一一 いへばい 一二 くろいへばい 一三 きんばい
一四 おほきんばい 一五 おびきんばい 一六 くろばい
一七 てくろばい 一八 さしばい 一九 しまばい
二〇 ひめしまばい 二一 こしまばい 二二 かひこのうじばい
牛蠅科……六四——六八
一 うまばい 二 ひつじばい 三 うしばい
虻科……六八——七三
一 ごまふあぶ 二 あかはねごまふあぶ 三 めくらあぶ
四 くろめくらあぶ 五 ひげながさしあぶ 六 こしろふあぶ
七 あかうしあぶ 八 うしあぶ 九 あかあぶ
一〇 きばらあぶ 一一 きいろあぶ
水虻科……七三——七五
一 ひけながみづあぶ

長角亞目

大蚊科……七五——七七
一 ひめきりうじがゞんぼ 二 おほきりうじがゞんぼ
蚊科……七七——八〇
一 うすか 二 くろか 三 はまだらか
搖蚊科……八〇——八三
一 ぬかが 二 おほぬかが 三 いねゆすりか
蚋科……八三——八五
一 きあしぶゆ(ぶよ) 二 あしまだらぶゆ 三 おほぶゆ
四 ひめぶゆ

微翅目

蚤科……八五——八三
一 のみ 二 いぬのみ 三 いんどのみ

四 とりのみ　五 ねずみのみ　六 おほねずみのみ

鞘翅目

瓢蟲科……八九―九〇
一 にじゆうやほし(一名てんたうむしだまし)
二 おほにじゆうやほし
擬瓢蟲科……九〇―九一
一 きいろてんたうむしだまし
金花蟲科……九一―一二四
一 かめのこはむし　二 ひめかめのこはむし
三 いねのとげどげ(一名鐵甲龜)四 かたびろとげどげ
五 だいこのみはむし　六 おほだいこのみはむし
七 むぎのみはむし　八 むぎのるりのみはむし
九 くはのみはむし　一〇 きすぢのみはむし
一一 あゐのみはむし　一二 むぎながのみはむし

一三 あさのみはむし　一四 かみなりはむし
一五 すぢかみなりはむし　一六 こかみなりはむし
一七 くははむし　一八 ふたすぢひめはむし
一九 ほたるはむし(一名あゐのうらむし)
二〇 りんごはむし(はんのきはむし)
二一 くろうりはむしもどき二二 あとぼしはむし
二三 うりはむし(爪守)　二四 くろうりはむし(くろうりばい)
二五 いちごはむし　二六 やなぎるりはむし
二七 だいこはむし　二八 ひめだいこはむし　二九 ふぢはむし
三〇 とほしはむし　三一 どろのきはむし(どろはむし)
三二 るりはむし　三三 やなぎはむし　三四 はくかはむし
三五 よもぎはむし　三六 ばらるりはむし
三七 くろぼしはむし　三八 きぼしるりはむし
三九 ぶだうさるはむし　四〇 りんごのこふきはむし
四一 かさはらはむし　四二 いもさるはむし

四三　こいもさるはむし　四四　あかがねさるはむし
四五　いねどろはむし(泥負蟲)
四六　すげはむし(一名おほねくひはむし)　四七　ねくひはむし
天牛科……一二四——一五九
一　るりかみきり　二　りんごかみきり　三　きくすねかみきり
四　あさかみきり　五　ごまだらかみきり　六　くはかみきり
七　しろすぢかみきり　八　のこぎりかみきり
九　うすばかみきり　一〇　くろかみきり　一一　さびかみきり
一二　おほくろかみきり　一三　まるくびひらたかみきり
一四　おほまるくびかみきり　一五　えぞまつかみきり
一六　よつぼしかみきり　一七　ほそかみきり
一八　はいいろかみきり　一九　あかはなかみきり
二〇　くろすぢはなかみきり　二一　くびあかかみきり
二二　おほあをかみきり　二三　あさかみきり
二四　くろひらたかみきり　二五　ほたるかみきり

二六　びろうどかみきり　二七　せんのかみきり
二八　ひげながかみきり　二九　よつぼしひげながかみきり
三〇　いたやかみきり　三一　ひげながごまだらかみきり
三二　ねじろかみきり　三三　しなかみきり
三四　はんのあをかみきり　三五　かつらかみきり
三六　しなのくろふかみきり　三七　はんのかみきり
三八　とぼしかみきり　三九　くはごまだらかみきり
四〇　べにかみきり　四一　くはとらかみきり
四二　ぶだうとらかみきり　四三　ことらふかみきり
四四　きすぢとらかみきり　四五　たけのとらかみきり
四六　しろおびかみきり　四七　あかねかみきり
四八　すぎかみきり　四九　ひめすぎかみきり
五〇　るりぼしかみきり　五一　やまかみきり
小蠹蟲科……一五九——一八三
一　まつのひめこしんくひ　二　まつのこしんくひ

三　すものこしんくひ
五　にれのおほこしんくひ
七　にれのこしんくひ
九　にれのひめこしんくひ
一一　ひばのこしんくひ
一三　おほやちたもこしんくひ
一五　あかえぞこしんくひ
一七　はんのこしんくひ
一九　からまつちびこしんくひ
二一　りんごちびこしんくひ
二三　きいろちびこしんくひ
二五　やつばこしんくひ
二七　からまつこしんくひ
二九　りんごまるこしんくひ
三一　はんのまるこしんくひ
四　うめのこしんくひ
六　みつとげこしんくひ
八　ゆみばらこしんくひ
一〇　ひのきのこしんくひ
一二　やちたもこしんくひ
一四　とどまつこしんくひ
一六　ひめあかえぞこしんくひ
一八　とどちびこしんくひ
二〇　くはちびこしんくひ
二二　すぎちびこしんくひ
二四　ひのきちびこしんくひ
二六　まつかはこしんくひ
二八　くすまるこしんくひ
三〇　くはまるこしんくひ
三二　まつまるこしんくひ

長蝨蟲科……一八三——一八八
一　つがながしんくひ
二　たけのながしんくひ
三　ふたつのながしんくひ
四　こなながしんくひ
豆象科……一八八——一九〇
一　まめざう
二　おほまめざう
長角象鼻蟲科……一九〇——一九二
一　ひめひげながざうむし
二　こひゝひげながざうむし
象鼻蟲科……一九二——二二三
一　こくざう
二　ひめざうむし
三　だいこんざうむし
四　あさのざうむし
五　さるざうむし
六　まだらあしざうむし
七　いちござうむし
八　くりしぎざうむし
九　なしのちよきりざうむし
一〇　いたやはまきざうむし
一一　ぶだうめざうむし
一二　おとしぶみ
一三　りんごひめおとしぶみ
一四　ひめおとしぶみ

一五　ひめくろおとしぶみ
一六　いねざうむし
一七　いねのあかざうむし
一八　ありもどきざうむし
一九　おほくちかくしざうむし
二〇　やなぎしりじろざうむし
二一　おほざうむし
二二　まつのきぼしざうむし
二三　まつのおほざうむし
二四　りんござうむし
二五　あいのざうむし
二六　おほごばうざうむし
二七　ごばうざうむし
二八　こふきざうむし
二九　ちびあをざうむし
三〇　りんごあをざうむし
三一　りんごこふきあをざうむし
三二　りんごひげながあをざうむし
三三　おほあをざうむし
三四　ふさすぐりざうむし
三五　まつのとびざうむし
三六　あしながざうむし
三七　れゐすざうむし
三八　ちやいろこふきざうむし
三九　うすあをこふきざうむし
四〇　しろこなざうむし
四一　しらほしまるざうむし
四二　あらけざうむし
四三　はひいろざうむし
四四　くすざうむし

四五　わたざうむし
四六　たいわんおほあをざうむし
四七　くすあなあきざうむし
四八　かんしよざうむし
四九　をがさはらざうむし
五〇　しらふへうたんざうむし
異節類
偽歩行蟲科……二二三―二二五
一　こめのごみむしだまし
二　くわしのごみむしだまし
花搔科……二二五―二二六
一　あさのはなのみ
大花蚤科……二二六―二二七
一　きくひおほはなのみ
擬天牛科……二二七―二二八
一　をがさはらかみきりもどき
偽葉蟲科……二二九―二三〇
一　はむしだまし
二　おほはむしだまし

地膽科……二三〇——二三一
一 まめはんめう
五節類
竹蠹蟲科……二三一——二三二
一 たけのしんくひ
郭公蟲科……二三三——二三五
一 あかくびほしかむし　二 あかあしほしかむし
三 るりほしかむし　四 たばこかつかうむし
筒蠹蟲科……二三五——二三六
一 つまぐろつつしんくひ
番死蟲科……二三六——二四〇
一 けまだらしばんむし　二 たけのしばんむし
三 けぶかしばんむし　四 もみのしばんむし
五 じんさんしばんむし　六 たばこしばんむし
標本蟲科……二四〇——二四一

一 へうほんむし　二 せまるへうほんむし
叩頭蟲科……二四二——二四五
一 かばいろこめつき　二 かんしよとびこめつき
三 かんしよきこめつき　四 かんしよふながたこめつき
五 かんしよづぐろこめつき　六 かんしよくろけしこめつき
七 かんしよけしこめつき　八 たいわんけしこめつき
九 たいわんたてじまこめつき一〇 しらきさびきこり
吉丁蟲科……二四五——二四七
一 なみがたちびたまむし　二 けやきながたまむし
金龜子科……二四七——二五九
一 あをかなぶん　二 まめこがね　三 どうがねぶいぶい
四 おほすぢこがね　五 さくらこがね　六 ひめこがね
七 ひめすぎこがね　八 ならちやいろこがね　九 こふきこがね
一〇 くろこがね　一一 ちやいろびろうどこがね
一二 びろうどこがね　一三 きこがね　一四 ちやいろこがね

一五　くろまるこがね
一七　なへどこあかこがね
一九　かぶとむし
一六　ひめちやいろびろうどこがね
一八　たいわんかぶとむし
二〇　せまだらこがね

鞘翅蟲科……二五九——二六五
一　ちびまるかつをぶしむし　二　はなまるかつをぶしむし
三　ひめまるかつをぶしむし　四　ちびまるかつをぶしむし
五　しもふりまるかつをぶしむし　六　ひめかつをぶしむし
七　かつをぶしむし　八　とびかつをぶしむし
九　げあかかつをぶしむし　一〇　ほらじろかつをぶしむし

扁蟲科……二六五——二六九
一　こなひらたむし　二　かくむねひらたむし（かくむねこくぬすと）
三　ちびかくむねひらたむし　四　こかくむねひらたむし
五　くろをびひらたむし　六　たばこひらたむし
七　こめのひらたむし　八　こたばこひらたむし

細堅蟲科……二六九——二七一

一　ほそかたむし

穀盜科……二七一——二七二
一　こくぬすと

出尾蟲科……二七二——二七三
一　くりやけしむし　二　くろはなけしきすひ

隱翅蟲科……二七三——二七四
一　はなむぐりはねかくし

龍蝨科……二七四——二七七
一　げんごらうだまし　二　くろげんごらうだまし
三　こげんごらうだまし　四　くろげんごらう
五　げんごろう　六　まるこがたげんごらう
七　ふちとりげんごらう　八　こがたのげんごらう

歩行蟲科……二七七——二七九
一　ごみむし　二　こごもくむし　三　おほごもくむし
四　ごもくむし

膜翅目

食葉類
樹蜂科……二七九——二八五
一 くろきばち　二 まつのおほきばち　三 まつきばち
四 からふときばち　五 こるりきばち　六 ひらあしきばち
七 くびながばち　八 かはかみくびながばち
葉蜂科……二八五——二九三
一 かぶらはばち　二 まつのはばち　三 はこねまつはばち
四 まつのきはばち　五 さくらひらたはばち
六 まつひらたはばち　七 りんごはばち　八 ちうれんぢはばち
九 なしあしぶとはばち　一〇 さくらあしぶとはばち
蟻科……二九三——二九五
一 おほあり　二 くろおほあり　三 とびいろけあり
四 あかあり　五 くろくまあり　六 おほづあり

七 きあり　八 いへあり　九 ひめいへあり
胡蜂科……二九五——三〇二
一 きいろすずめばち　二 もんすずめばち
三 こがたのすずめばち　四 すずめばち
五 ひめすずめばち　六 ひめもんすずめばち
七 きちびくろすずめばち　八 くろすずめばち
蜜蜂科……三〇二——三〇七
一 おほはきりばち　二 ねじろはきりばち
三 をきなはきりばち　四 しろをびひめはきりばち
五 くまばち　六 をきなはくまばち　七 たいわんくまばち

害蟲學名索引……一——一一
害蟲和名索引……一二——二四
被害物索引……二五——九七

大日本害蟲全書 目次終

大日本害蟲全書 後編

理學博士 松村松年著

蝶亞目

一 いちもんじせゝり 拂蝶科 Hesperidae.

Rhopalocera.

Parnara guttatus Brem. (第二百六十九圖1・2・3・)

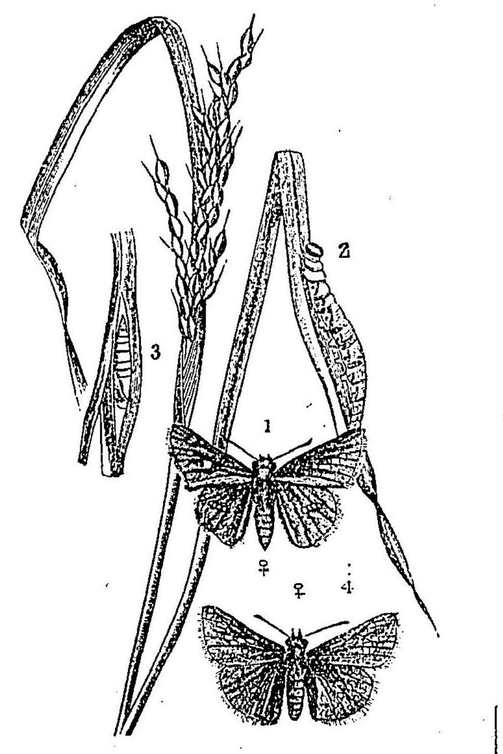
特徵 成蟲 體翅黑褐、少しく綠色を帶ぶ、前翔には弧狀に並列せる八個の白色半透明紋あり、其第三室にあるもの方形にして最大なり、後翅には四個の白紋を裝ひ一列をなす、體長六分乃至七分、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲 體は淡綠色にして稍〻紡錘狀をなし、小黑紋散在して之より黑色の短毛を生ず、頭は大にして黃褐、兩側に黑褐色の長短二縱線を裝ふ、體長一寸餘。

第二百六十九圖

いちもんじせゝり

(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 蛹
(4) おほちやばねせゝり



經過 東京地方にありては年二回の發生をなす、幼蟲の儘越年し、第一回の蝶は六月、第二回は八月下旬より九月中旬に現はれ、葉上に一個宛卵子を產下す第一回の幼蟲は八月より九月に亙りて稻葉を食害し、第二の幼蟲は普通山間にありて竹葉を食とす、幼蟲は絲を吐き葉を綴りて巢を造り、之より頭を出し食害す、成長すれば嫩葉を綴合して其內に蛹化す、廣く全國に分布し、九州にては三回、臺灣にては四五回の發生をなす。

2

驅除法 網を以て蝶を捕ふべし、**がゞいも、いけま**、其他の花に集來するの性あり、又水田一反歩に付豫め一升の石油を注ぎ置き、大なる竹櫛を以て捲葉を梳り、幼蟲を水田に落して死滅せしむべし。

(二)おほちやばねせゝり Parnara pellucida Murr. (第二百六十九圖4)

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は頭小にして觸角少しく長く、後翅に於ける四個乃至五個の白紋は一列に並列せざることなり、體長五分五厘乃至六分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども、背線は褐色なり。

經過 同前、但し此の種は重に竹葉を食ひ、稻葉を害すること稀なり。

驅除法 同前。

小灰蝶科 Lycaenidae.

(一)うらなみしゞみ Lampides boeticus L. (第一圖1)

被害植物 いんげん、なたまめ、ふぢまめ。

3

特徴 成蟲 雄の翅は藍紫色を呈し、外緣暗色、緣毛灰白、後翅の內緣に灰白の軟毛を密生し、後緣に二個の黑藍紋あり、尾狀の一附屬物を出だす、雌の翅は暗色、前翅の中央は紫藍色を呈し、後翅の外緣に近く灰白線あり、翅の裏面は灰色にして七個の白色波狀線あり、體長四分、開張一寸一分。

幼蟲 體は綠色、稀に褐色のものあり、背線は赤褐、兩側に濃綠の斜條を並列す、氣門線は灰白、頭は小にして褐色、躰は短大にして稍紡錘狀に近く、背上は穹狀に膨大す、脚は小にして歩行の狀は蛞蝓に似たり、體長六分。

經過 本邦にありては年二回の發生をなす、卵子の有樣にて越年し、翌春孵化し、豆莢內に入りて其種子を食害し、老熟すれば葉若くは枝上にて蛹化す、蛹は垂蛹なり、七月上旬乃至下旬に現はる、九州地方には稀ならず、小笠原島には普通なり。

驅除法 網を以て蝶を捕ふべく、花圃を作り之を誘引するを可とす。

(二)むらさきしゞみ Arhopala japonica Murr. (第一圖2)

被害植物 血橘樫。

特徴 成蟲 翅は黑褐、中室及び其下方の一面は紫藍色、裏面は暗褐にして光澤を帶び、中央に近く濃色の一帶を有し、外緣には濃色紋を一列に連ぬ、前翅の中室に一個、後翅底に近く數個の濃色紋ありて、何れも淡色緣を有す、體長四分五厘、開張一寸。

(三)うらぎんしゞみ Curetis acuta Moor. (第一圖3)

被害植物 藤。

特徴 成蟲 雌雄により彩色及び翅形を異にす、翅は黑褐にして、雄にては中央橙紅色、雌にては青白色、但し雌にては此紋小なり、又後翅の前緣及び外緣は灰白、裏面は銀白色にして小黑點を散在す、雄にては前翅の前緣角雌の如く突出せず、體長四分五厘乃至五分、開張一寸二分乃至一寸五分。

幼蟲 暗綠色、頭は小にして黃褐、口部は紅褐、背線は暗綠色、亞背線は白色、各節斜走するを以て連續せず、初めの數節は膨大し、第十一節の背上には二本の管狀突起ありて其末端は暗褐、刺戟を與ふれば紫黑色にして末端白色の總毛悉く突出す、體長五、六分(名和氏に據る)。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春一個づゝ產卵す、卵子は菊花狀をなし灰綠なり、幼蟲は黃綠にして背面銀色を帶び、老熟すれば胸部に一糸を

懸け蛹化す、蛹は綠色にして、翅部淡色、胸背にはスペード様の灰色紋を裝ふ、成蟲は八九月頃現はれ、時に道路の馬糞に集まり其液汁を吸收するを見る、臺灣地方にありては河床の濕地に群集することあり、本邦にては其數多からざるを以て未だ害あるを知らず。

(四)からすしゞみ Thecla w-album Knoch. (第一圖4)

被害植物 楡、榆、椋、苹樹。

特徴 成蟲 翅は黑褐、斑紋を缺く、裏面は暗褐、前翅に近く白色の一横帶ありて第二脈の處にて少しく曲れり、後翅にはW字形の白帶を裝ひ、外緣には柿色紋を横列し、各紋の内側に黑色の半環あり、外側には一黑紋を裝ひ、更に其外側に白帶あり、體長三分五厘、開張一寸。

幼蟲 綠色、各節の兩側に白色の斜線あり、體下は淡綠色にして少しく暗褐の小斑を裝ふ、一見蛞蝓に似たる所あり、楕圓形にして黑紋を有す、頭は褐色、體長六分乃至七分に達す。

經過 蛹の有様にて地中若くは地際に越年し、翌春五月頃現はれ、八月頃迄種々の花上に來集す、成蟲は半球狀、赤褐色の卵子を葉下に二個宛産下す、蛹は黄褐、

翅鞘の部分は暗色、晩秋札幌地方にありて種々の植物に蛞蝓様の幼蟲を見るもの多くは是れなり。

(五)みどりしゞみ Zepliyrus taxila Brem. (第一圖5)

被害植物 赤楊。

特徴 成蟲 雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は黑色、緣毛は白色、雌は暗褐、或ものは前翅の中央に淡色紋を有す、種類により中室及び其下方の一紋は瑠璃色を呈することあり、又夏生の雄は瑠璃色の大紋を有す、裏面は暗灰色、前緣の外緣に近く一白帶あり、又外緣には下方擴大せる暗色の一帶あり、後翅には稍W字形に近き白紋を裝ひ、後緣角に二個の橙黄紋あり、第二室にあるものは中央に黑點を有す、外緣に近く三條の灰白帶あり、内方の二帶は太けれども餘り判然せず、體長四分、開張九分乃至一寸一分。

經過 成蟲は六月下旬―七月上旬頃より現はれ、二匹相集まりて爭鬪するを見る屢々なり、余は未だ幼蟲を知らずと云へども、グレザー氏の説によれば、既に七月より現はれ赤楊の葉を食すと云ふ、幼蟲は綠色にして前種に酷似するものゝ如し、年二回の發生をなす、第二回は八月の中旬に現はる。

(六)、おほみどりしゞみ　Zephyrus orientalis Murr.（第一圖6）

被害植物　楢・櫟（ナラ・コナラ）。

特徴　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、外緣は細くして黑色、後翅の內緣は暗褐、其緣毛は灰白、雌にありては暗褐、前翅の中央に灰色の一斜紋を裝ふ、裏面は灰色、前翅の外緣に接し第二脈に達する太き一白帶を具へ、其外側に暗色の不明帶ありて其兩側は灰白、後翅にW字形の太き白帶ありて其外側に更に三白帶を有し、一は外緣に位す、內緣角及び第二室の一紋は黃赤、後者の中央に黑紋あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸四分。

幼蟲　余は未だ幼蟲を見たることなし、「グレザー」氏の說によれば、灰色にして暗褐紋を裝ひ、各節の兩側は甚だしく突出すと云ふ。

經過　年一回の發生、六月下旬より八月頃現はれ、前種と同樣の性質を有すれども、詳細なる點に至りては未だ不明、札幌地方に極めて普通なり。

(七)、めすあかみどりしゞみ　Zephyrus brillantina Stgr.（第一圖7）

被害植物　櫟（コナラ）。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、色は少しく濃厚にして、前翅及び後翅緣は廣く黑色、後翅の尾狀突起は少しく短し、裏面は一層濃色、中室の橫脈上に暗色の短橫條ありて其兩側は白色、後翅の白帶は第七脈の處にて多くは內方に彎曲す、前翅の白帶は廣し、雌は前翅の中央に楕圓形の柿色紋を有す、體長五分、開張一寸三分乃至一寸四分。

幼蟲　銅褐色、背線は暗色、各節の接合部は淡色、各節の兩側に淡色の斜條あり、體長七八分。

經過　年一回發生、經過未だ明瞭ならざれども、成蟲は七月中旬より八月中旬に亙りて現はる、其數前者の如く多からず。

(八)、うらじろしゞみ　Zephyrus saphirina Stgr.（第一圖8）

被害植物　櫟。

特徴　成蟲　雌雄彩色を異にす、雄は鑛物性の綠色、光線の工合にて少しく紫色を帶ぶ、外緣は黑色、後翅にありては外緣は廣く黑色、雌は全面暗色、裏面は灰白にして少しく銀色を帶ぶ、前翅の外緣に近く暗色の二橫帶あり、後翅にも亦三條の暗色帶あれども甚だ明瞭ならず、內緣角及び第二室の末端に黃紋を裝ふ、內緣角及び尾狀突起は暗色、體長四分、開張一寸一分乃至一寸二分。

經過　年一回發生、經過末だ判然せざれども、幼蟲が槲の葉を食することは確實なり、札幌地方にありて普通の種類なれども、喬木に多きを以て捕獲困難なり、七月上旬乃至中旬に現はる。

(九)みづいろをながしゞみ　*Zephyrus attilia* Brem.（第一圖9）

被害植物　槲・柏・楢・楡。

特徴　成蟲　翅は暗褐、緣毛は白色、後翅の外緣に細き白帶あり、其內方に五六個の白紋二列に連なり、尾狀突起は黑色にして長く、其內緣及び末端は白色、裏面は蒼白、暗褐の紋條あり、前翅の横脈に長方形の濃色紋を具へ、其外側にも亦一帶あり、下方に至り少しく內方に屈曲す、其外側に二列の紋列ありて、內方にあるものは短くして第二室に達す、餘り判然せず、外側にあるものは判然し、第一室にある紋は大なり、尙外緣に判然せざる暗色の一帶を具ふ、後翅の中央にV字形の一帶を有し、外側に判然せざる三帶ありて、中央にあるものは紋列をなす、後緣角に二個の橙黃紋ありて、第二室にあるものは中央に黑點を有す、體長三分五厘乃至四分、開張九分乃至一寸。

幼蟲　淡綠色にして背上に黃色の紋條あり。

經過　蛹の有樣にて越年するものゝ如し、幼蟲は新芽を食す、六月上旬頃より蛹化し、六月下旬乃至七月上旬羽化す、東京地方に普通なり。

(一〇)をながしゞみ　*Zephyrus enthea* Jans.（第一圖10）

被害植物　胡桃。

特徴　成蟲　體翅暗黑色、前翅の横脈上に濃色の一紋あり、其外側は淡色、但し種類により裏面の斑紋の表面に透現することあり、後翅の尾狀突起長く、其末端は白色、裏面は白色、外緣は暗色、前翅には約七個の黑紋を裝ひ、翅底に近き二個は大なり、外緣角に近く柿色の小紋二個あり、後翅には四條の紋列ありて、前半にあるものは黑色、後半にあるものは暗灰色、內緣角は柿色にして其中央に二黑紋あり、體長四分乃至五分、開張一寸一分乃至一寸二分。

幼蟲　全體淡綠色にして判明なる斑紋を缺き、老熟すれば六七分に達す。

經過　年一回の發生、蛹の有樣にて越年するものゝ如し、成蟲は七月上旬乃至八月中旬現はる、其發生地にありては日に數十を得ること難からず、本州にては甚だ多からざれども、北海道には普通なり。

(一一)むもんあかしゞみ　*Zephyrus jonasi* Jans.（第一圖11）

被害植物　櫻・楢・柁。

特徴　成蟲　翅は黄赤(柿色)、雄の翅端の褐色なるものと然らざるものとあり、後翅の尾狀突起は黑色、其末端は白色、雌にては前翅廣く褐色、裏面は表面より少しく淡色、外緣に近く暗黄の一帶ありて後翅の同帶に連續す、其外側は黑褐、其外緣は淡黄、外緣には不明なる淡色の波狀線を具ふ、横脈上に暗黄の一短線あり、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過　未だ判然せず、成蟲は八月上旬現はる、札幌地方にありては櫻林に普通なり、余は未だ幼蟲を見たることなしと誰も、櫻の新芽を食することは確實なり

(三)あかしゞみ　Zephyrus lutea Hew.（第一圖12）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に似たれども少しく淡色にして、前翅の末端は褐色、後翅の尾狀突起及び後緣角の二紋は黑褐、裏面は淡色、前翅に四條の白横帶ありて横脈上にある二個は短し、其外側にある二帶は平行して波狀をなす、何れも其間室は濃色、外緣にある一帶は上方に於て判然せず、下方の外側に黑條あり、外緣は濃色、後翅に三條の白帶ありて中央の二帶は平行し、外緣に近きものは波狀をなす、其外緣に黑色の半環あり、外緣は廣くして濃色、後緣角及び第二室に黑紋を具ふ、其外側に不明なる黑帶あり、體長四分五厘、開張一寸二分乃至一寸三分。

經過　前種と同時に現はれ、同樣の害をなす、「ザイッ」氏の記載によれば、滿洲地方にありては櫻を食すれども、其大部は寄生蠅に侵害せられありと云ふ、東京地方には普通なれども、札幌地方にありては前種よりも少し。

(三)うらなみあかしゞみ　Zephyrus saepestriata Hew.（第一圖13）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、裏面に約九條の黑帶を横走するを以て容易に區別することを得べし、體長四分五厘、開張一寸三分乃至一寸四分。

經過　六月中旬東京地方に普通なる種類なれども、未だ其幼蟲を見たることなし、札幌地方にありては七月中柁に普通なり。

(四)とらふしゞみ　Deudorix (Rapala) arata Brem.（第一圖14）

被害植物　萩。

特徴　成蟲　翅は淡き黑藍色、裏面の斑紋を透視し得べし、後翅の後緣角に圓形の附屬突起ありて眼狀紋をなす、其中央は朱色、周圍は黑色、緣毛の一部は白色、

尾狀突起は黑色、末端は白色、裏面は黃白、翅底及び斑紋は暗色、外緣に近く太き三帶を裝ひ、橫脈上に一紋あり、後緣角は橙黃色、四個の黑紋を裝ふ、內緣に二個の黃白斜條あり、體長三分、開張一寸二分。

經過 未だ判然せざれども、蛹の有樣にて根際に越年するものゝ如し、成蟲は五月乃至六月現はれ、第二回の成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はる、後者にありては裏面の斑紋褐色なり、之を var. tyrianthina Butl. と云ひ、幽暗なる溪流附近に普通なり、未だ其幼蟲を發見せざれども、成蟲の萩の葉に產卵するを以て見れば、其食草たるや明らかなり。

小灰蝶一般の驅除法

一、網を以て成蟲を捕ふべし、二、幼蟲は石油乳劑の二十倍液にて容易に驅除し得べし、三、秋季根邊の不要物を集めて燒棄すべし、四、花に集まる性ある蝶を誘引するには花圃を仕立つべし。

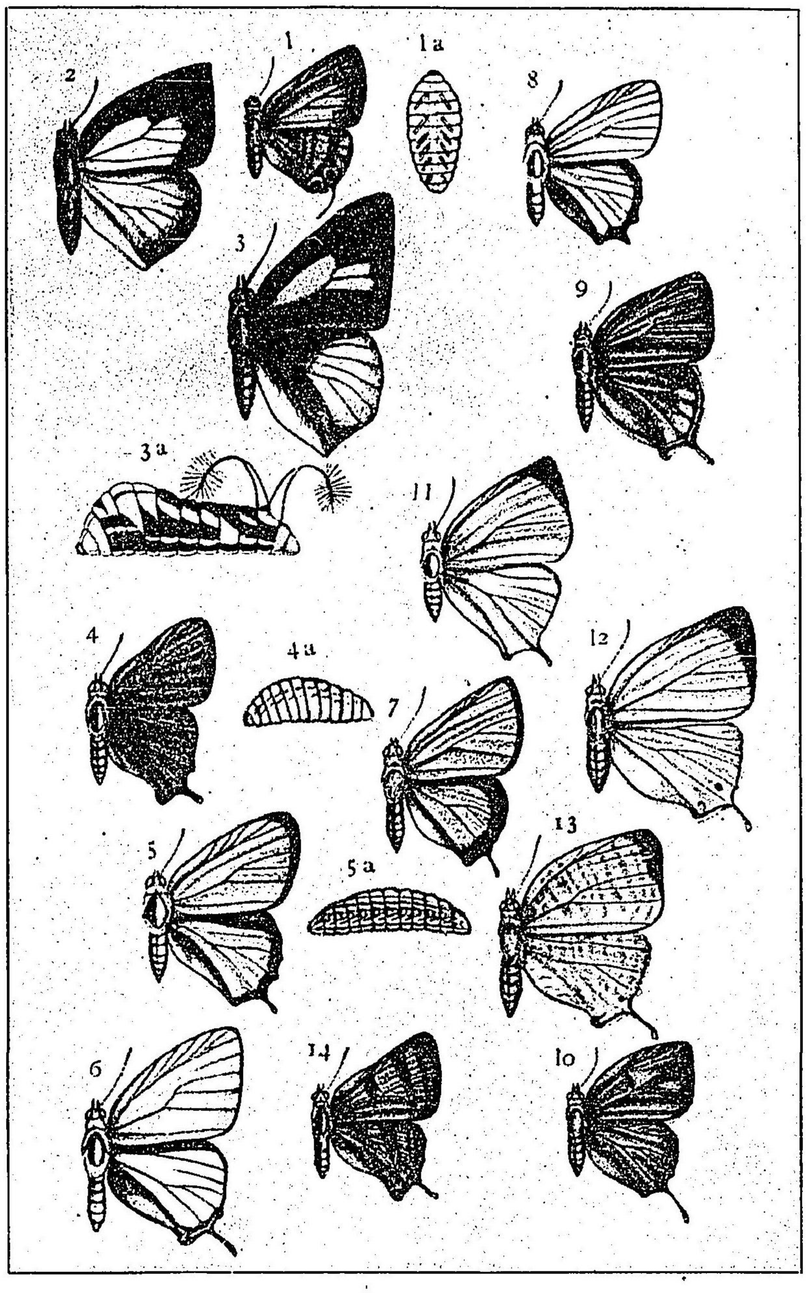
燕蛺蝶科（つばめがをとしてふ） Erycinidae.

天狗蝶亞科（てんぐてふ） Libytheinae.

第壹圖

1. Lampides boeticus L. うらなみしゞみ (P. 3)
   a. 幼蟲
2. Arhopala japonica Murr. むらさきしゞみ (P. 4)
3. Curetis acuta Moor. うらぎんしゞみ (P. 5)
   a. 幼蟲
4. Thecla w-album Knoch. からすしゞみ (P. 6)
   a. 幼蟲
5. Zephyrus taxila Brem. みどりしゞみ (P. 7)
   a. 幼蟲
6. Zephyrus orientalis Murr. おはみどりしゞみ (P. 8)
7. 〃 brillantina Stgr. めすあかみどりしゞみ (P. 8)
8. 〃 saphirina Stgr. うらじろしゞみ (P. 9)
9. 〃 attilia Brem. みづいろをながしゞみ (P. 10)
10. 〃 enthea Jans. をながしゞみ (P. 11)
11. 〃 jonasi Jans. むもんあかしゞみ (P. 11)
12. 〃 lutea Hew. あかしじみ (P. 12)
13. 〃 snepestrinta Hew. うらなみあかしゞみ (P. 13)
14. Deudorix (Rapala) arata Brem. とらふしゞみ (P. 13)

第壹圖



蝶亞目

(一)てんぐてふ　Libythea celtis Leich. var. lepita Moor. (第二圖1)

被害植物　朴・李。

特徴　成蟲　翅は暗褐にして黄赤紋を裝ふ、前翅の中央に鍵形の長紋を具へ、其外側に圓形の一大紋あり、第四、第五、第六及び第七室に各一個の斑紋ありて、後三室にあるものは白色なり、前緣角の下方は著しく突出し、鉤狀に下向す、後翅の中央に大横紋ありて內方に細まる、後緣は鋸齒狀をなす、裏面は灰褐にして、斑紋は表面と同樣なれども餘り判然せず、下唇鬚甚だしく延長せるを以て「てんぐてふ」の名あり、體長六分、開張一寸五分。

幼蟲　綠色、頭は褐色若くは黄綠色、小黑紋を散在す、背線は白色、亞背線の處に黑紋を裝ふ、氣門上線は淡紅色若くは紫紅色、氣門は黑色、腹面は淡色、天鵞絨樣の短毛を密生せる爲め「きてふ」の幼蟲に酷似す、體長一寸內外。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春三月頃より現はれ、新芽に一個づゝ產卵す、八月頃より成蟲を見る、時々甚だしく發生することあり、李の葉を以て飼育するを得べしと雖も、野外にありては朴を食するのみ、蛹は初め淡綠なるも、次第に暗色となり、翅鞘緣は淡色なり。

驅除法 蝶は水邊に集まるの性あるを以て網を以て捕ふべし、蛹は綠色なれども、注意すれば發見すること難からず、幼蟲には廿倍液の石油乳劑を用ふべし。

蛺蝶科 Nymphalidae.

蛇目蝶亞科 Satylinae.

(一)このまてふ Melanitis leda L. (第二圖2)

被害植物 稻・甘蔗・竹。

特徵 成蟲 翅は暗褐、前翅の第三室に大なる黑紋を具へ、其內側に黃色の弦月形紋あり、第四室に白紋ありて其內側は黑色、其上方に黃色紋あり、後翅に四個の眼狀紋を具へ、第二及び第三室にあるものは大なり、裏面は表面より少しく淡色、暗褐の小波狀線を密布す、前翅に四個の眼狀紋を裝ひ、第三室にあるもの大なり、後翅の中央に暗褐の一帶を具へ、外緣に近く六個の眼狀紋あり、第二及び第六室にあるもの大なり、變種甚だ多く、斑紋及び形狀を異にするものあり、體長五分五厘乃至六分、開張二寸四分乃至二寸八分。

幼蟲 體は紡錘狀に近く黃綠色を呈す、背線及び亞背線は濃綠色にして判然

す、腹面は淡色、頭は第一二節より大きく、黑褐にして黑條を具へ二突起を裝ふ、尾節には二本の太き刺狀突起あり、全體に短長兩種の白毛あり、體長一寸六分內外。

經過 年發生の回數は判然せず、九州地方にては年二回、臺灣にては春夏秋の三季間何時にても見得るを以てこれを推するに、少くも年四回の發生をなすものゝ如し、成蟲は禾本科植物殊に稻の葉上に一個づゝ產卵す、幼蟲は葉緣に沿うて食害し、老熟すれば尾節を葉に附着し垂下して蛹化す。

(二)ひめじやのめ Mycalesis gotama Moor. (第二圖3)

被害植物 稻・竹。

特徵 成蟲 翅は暗色、中央に不明の淡色帶あり、前翅に二個の黑色蛇目狀紋あり、其周圍は黃色を呈す、而して下方にあるものは約四倍大なり、後翅の裏面に六個の眼狀紋あり、體長五分乃至六分五厘、開張一寸乃至一寸八分。

幼蟲 淡綠、多數の顆粒突起を散在す、頭は黃褐、兩側に二黑條あり、後頭の中央は黑色、鬼角狀の二突起を出す、其前方は黑色、二條の背線及び各節にある四環線は白色、尾端に葉狀の二附屬物あり、「いちもんじせゝり」の幼蟲に酷似すれど

も葉を捲くことなし、體長一寸一分。

經過 年二回の發生をなす、第一回は六月、第二回は八月、經過未だ判然せざるも蛹の有様にて越年するものゝ如し、蛹は垂蛹にして葉下に垂下す、初めは淡綠にして羽化前には淡黑となる、成蟲は葉に一粒づゝ產卵す、主として竹を食し、稻を害することは稀なり。

附言 之に酷似せるものにて、こじやのめ(M. perdicas Hew.)と稱するものあり、其幼蟲は同じく稻及び竹葉を食す、前種よりも少しく小形にして翅に淡色の中央帶を缺き、後翅の表面に一個、裏面に七個の眼狀紋を裝ふ、前種と混同して棲息す

蛇目蝶一般の驅除法

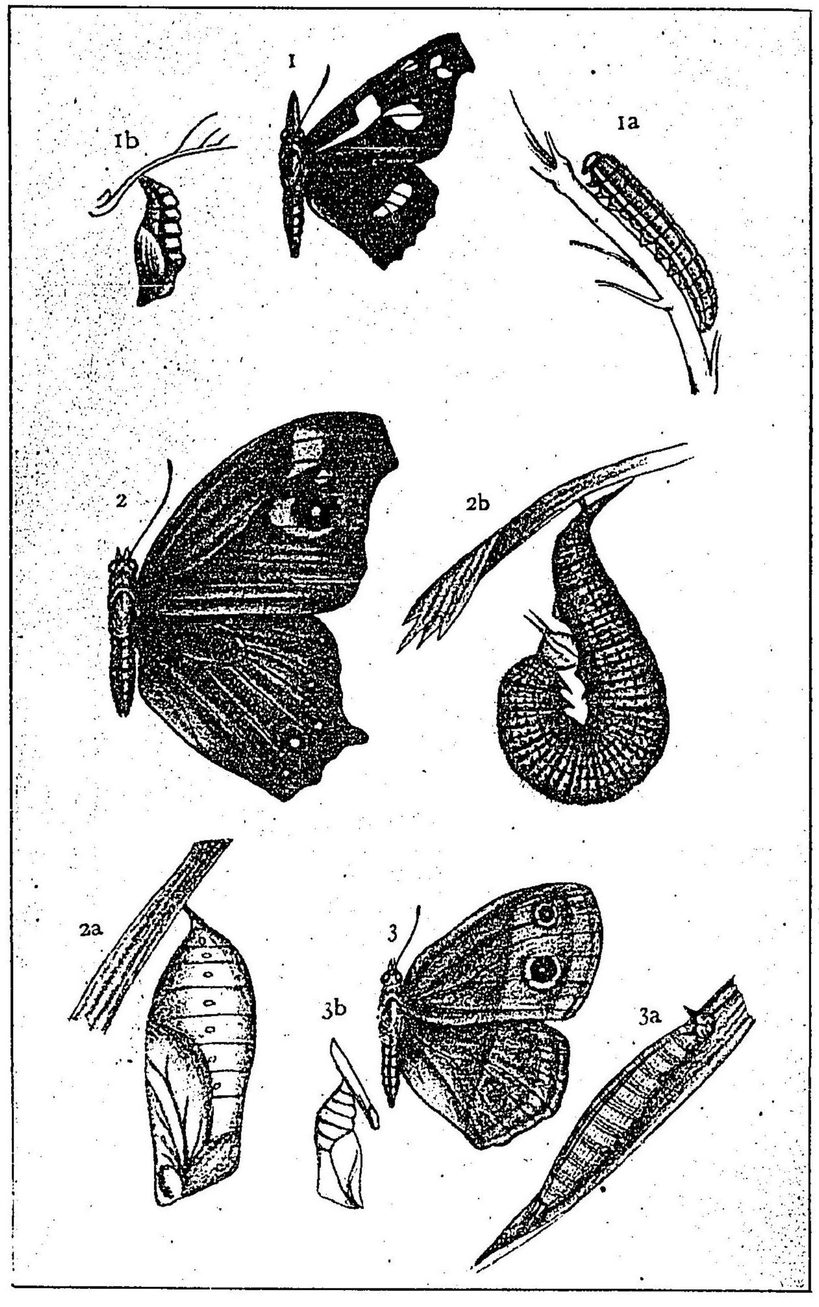
一、網を以て成蟲を捕ふべし、二、蛹は葉下に垂下するものなれば注意して搜索すべし 三、幼蟲は掬網を以て捕ふべし 四、水田の場合にありては一反歩に凡一升位の石油を滴下し、其上に幼蟲を落し込むべし。

蛺蝶亞科 Nymphalinae.

第貳圖

1. Libythea celtis Laich. var. lepita Moor. てんぐてふ (P. 15)
   a. 幼蟲 b. 蛹
2. Melanitis leda L. このまてふ (P. 16)
   a. 幼蟲 b. 蛹
3. Mycalesis gotama Moor. ひゑじやのめ (P. 17)
   a. 幼蟲 b. 蛹

第貳圖



蝶亞目

(一)くじやくてふ Vanessa io L. (第三圖1)

被害植物 葎草・蕁麻。

特徴 成蟲 翅は美麗なる朱色、前翅前縁の基部に短黄線を並列す、中室にある一紋及び其外側にある三角形の大紋は黑色、翅端に大なる孔雀紋様の眼狀紋あり、其内方は黄色、外方は黑色にして青藍色を混じ、中央は赤褐、上方は黑色、又中央に近く三個の青白紋を裝ふ、尙第二及び第三室に青白の一點あり、後翅の外縁に近く大なる孔雀紋様の黑き眼狀紋ありて、其周圍は廣く暗灰色、中央は青藍色、其内方に離れて大なる弦月様の黑褐紋あり、外縁は暗褐、裏面は黑褐、黑色の小波狀線を密走し、後翅の中央には太き一波狀線あり、體長六分、開張一寸九分乃至二寸三分。

幼蟲 黑色、小白點を散在す、腹脚は黄褐、頭及び刺毛亦黑色、體長一寸五分乃至一寸七分。

經過 年一回の發生、成蟲の有様にて越年し、翌春食葉に集合して産卵す、卵子は綠色にして饅頭狀に近く縱隆あり、老熟すれば食草に垂下して蛹化す、蛹は褐色にして少しく綠色を帶び、腹部に銀色紋を裝ふ、七月より九月に亙りて成蟲

の發生を見る、札幌地方に普通なる種類にして葎草の葉を食害すること大なり。

(二)きべりたてはゞ　Vanessa antiopa L.（第三圖2）

被害植物　柳・白楊・樺・楡。

特徴　成蟲　翅は黑紫色、外緣は黃色、黑褐の小紋を散在す、其內側に太き黑帶ありて其中央に藍色の楕圓紋を橫列す、前翅の前緣には黃色の小紋を並列し、外緣に近く稍〻大なる二黃紋あり、裏面は黑褐、黑色の小波狀線を密布す、外緣は白色、黑褐の小紋を散在す、中央には黃色の一點あり、體長六分、開張二寸乃至二寸四分。

幼蟲　黑色にして白色の短毛を粗生す、刺毛は黑く、第二節にあるものは分支す、頭は黑色にして顆粒突起多し、第三節より第十二節迄各一個の黃褐紋ありて第六節乃至第八節にあるもの最も大なり、胸脚は黑色、腹脚は黃褐體長一寸七分乃至二寸。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春葉下に產卵す、卵子は綠色楕圓形にして縱隆あり、七月より九月に亙り成蟲となりて出現す、壽命長し、札幌地

方にありては甚だ普通の種類にして、往々全く柳葉を食ひ盡すことあり。

(三)ふるたてはゞ　Vanessa l-album Esp.（第三圖3）

被害植物　柳・楡・樺・すぐり。

特徴　成蟲　翅は柿色、外緣及び斑紋は黑褐、翅端に近く白紋を裝ふ、外緣には判然せざる黃色の二波狀線あり、後翅の前緣に近く一白紋ありて第六及び第七室に跨り、其兩側は黑褐、外緣に黑褐帶ありて第三室の所にて屈折す、其外側は黃色、內側に黃色紋を列す、裏面は灰色、翅底の半部は黑褐、後翅にL字形の白紋あり、體長六分五厘乃至七分、開張二寸乃至二寸二分。

幼蟲　體は褐色、背上に二本の太き黃白縱線あり、但し各節相連續せず、兩側には黃白の綾樣紋あり、氣門黑色、刺毛は黃色にして各數本の黑色枝を出す、脚及び腹面は淡黃褐、頭は褐色にして黃紋を散在し、分枝を有する二刺あり、體長一寸七分。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉下に產卵するものゝ如きも卵子は未だ發見したることなし、幼蟲は喬木に住するを以て、其幼蟲の集合性なるや否やを知らず、老熟したる幼蟲の地上を匍匐するを見ることは屢〻なり、

札幌地方にありては七月中旬老熟し、八月上旬羽化す。山間に普通なる種類なれども捕獲困難なり。河畔の石上に靜止して喧を負ふもの多し。

(四)**ひをどしてふ** Vanessa xanthomelas Esp. (第三圖4)

被害植物 楡・朴・柳。

特徴 成蟲 翅は赤黄色、翅線は廣くして黑色、前翅の翅端に近き前緣に黄白紋を裝ひ、外緣に藍色鱗あり、後翅の中央に近く大黑紋を具ふ、外緣は暗褐色にして廣く藍色の弦月紋を連ぬ、裏面は黑褐色にして外半は色淡く、外緣に於ける青紫色の紋は相連りて條をなす、翅緣には凹凸多し、中室には一小黄紋あり、體長六分―六分五厘、開張二寸―二寸四分。

幼蟲 黑色、全面に黄色の小斑散在す、但し氣門に近きものは縱線をなせり、第四節より以下は各節に一褐紋を裝ふ、刺毛は黑色、腹脚は暗赤色、頭及び胸脚は黑色、體長一寸四分。

經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に産卵す、卵は球形にして縱横に溝あり、初め綠色後黑色となる、六月上旬蛹化し次て羽化す、本州には普通なれども北海道には稀なり、歐洲にありては年二回の發生をなす。

(五)**きたてば** Polygonia c-aureum L. (第三圖5)

被害植物 大麻・葎草。

特徴 成蟲 翅は柿色、暗黑紋を散在す、後翅の第二・第三及び第四室に黑褐の眼狀紋を具へ、其中央は青藍色、裏面は淡黄褐色、褐色の小波狀紋多く、前翅の中央に褐色圏を有する三紋を裝ひ、後翅の中央には金色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸八分―二寸。

幼蟲 余は未だ幼蟲を見たることあらざれども、しーたてばに酷似すと云ふ。

經過 年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春新芽に集合して卵子を産卵するものゝ如し、夏日發生するものを普通種となし、秋季出づるものは變種にして之を var. pryeri Jans. と云ふ、色は淡色にして斑紋少く、裏面は暗色にしてあまり斑紋判明ならず、本州及び臺灣には普通なれども、未だ北海道に於て之を捕獲せしことなし、臺灣にありては年三回の發生をなす。

(六)**しーたてば** Polygonia c-album L. (第三圖6)

被害植物 黄麻・苧麻・葎草・楡・すぐり・忍冬・榛等。

特徴 成蟲 翅は柿色、黑褐紋を散在す、前翅には約九紋を裝ひ、中室の横脈にあ

るもの及び其外側にあるものは大なり、外緣廣く黑褐、後翅に三紋を裝ひ、外緣に近く二條の平行せる黑褐の波狀帶あり、裏面は暗黃色、褐色若くは黑褐の綾樣紋を裝ひ、後翅には白色のC字形紋あり、體長六分、開張一寸六分—一寸八分。

幼蟲　初めは暗綠、頭及び刺毛は黑色、成長すれば褐色、初めの六節は背上に於て赤黃殘部の各節は灰白、刺毛は白色及び黃色、兩側にあるものは體色に同じ、頭は暗色にして刺毛ある二突起を裝ふ、體長一寸一分—一寸二分。

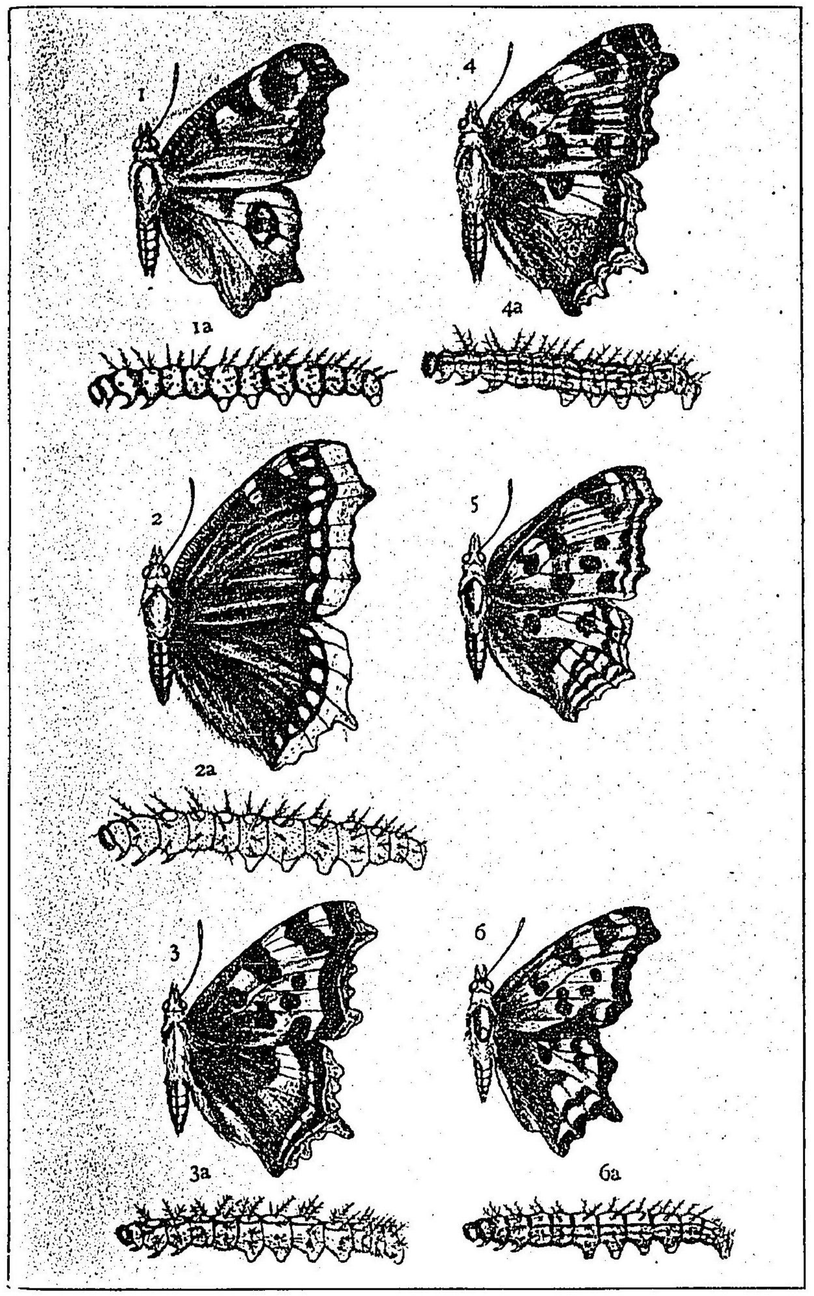
經過　年二回、稀に三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春新芽に產卵す、卵子は青綠色、楕圓形にして上面は平たく、縱溝あり、蛹は赤褐色にして褐紋を裝ふ、後胸背に銀色紋ありて深く凹陷せり、頭突起は平たく切斷狀に終はる、秋季發生するものは變種にして、之を var. lamigera Butl. と云ひ、外緣の凹凸更に一層深く、後翅の外緣は廣く天鵞絨樣の褐色にして、其中央に五個の黃色紋を裝ふ、裏面は暗褐なり、本邦に普通なる種類にして、晝間は楡、其他櫟、楢、梔、榉等の殼斗科植物の樹幹より出づる液汁を吸收し、黃昏路上に喧を負ひ、翅を開閉するの性あり。

(七)あかたてば　Pyrameis indica Herbst.（第四圖1）

第參圖

1. Vanessa io L.　くじやくてふ (P. 19)
   a. 幼蟲
2. Vanessa antiopa L.　きべりたてば (P. 20)
   a. 幼蟲
3. Vanessa L—album Esp.　えるたてば (P. 21)
   a. 幼蟲
4. Vanessa xanthomelas Esp.　ひをどしてふ (P. 22)
   a. 幼蟲
5. Polygonia c—aureum L.　きたてば (P. 23)
6. Polygonia c—album L.　しーたてば (P. 23)
   a. 幼蟲

第參圖



蝶亞目

被害植物　苧麻黄麻ラミー其他纖維植物。

特徴　成蟲　前翅前緣角の二分の一は黑色にして、之に數個の白紋を裝ふ、中央に柿色の大紋を具へ、其内に三個の黑紋あり、翅底及び後緣は暗褐、後翅は暗褐、外緣は柿色、之に黑紋の二列あり、體長七分乃至八分、開張一寸七分乃至二寸。

幼蟲　灰黑、二個の黄色背線ありて斷續す、氣門上下線は黄色にして、上線は斷續す、腹面は黄褐、少しく赤色を混じ、中央に暗色の縱線を裝ふ、氣門黑色、周圍黄色、各節に六個乃至七個の有枝の刺ありて、背線及び氣門上下線にあるものは黄色、他は暗色、頭黑色、白色の顆粒突起を有し、之より暗色毛を出だす、脚は黑色、體長一寸五分。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年す、翌春葉裏に産卵す、卵は楕圓形、暗綠にして淡色の網狀溝あり、六月中旬老熟す、蛹は灰色若くは褐色にして二列の棘狀突起を具へ、中に其金色を呈するものあり、胸背の中央に一個、兩側に各二個の稜狀突起あり、此他にも尙小突起あり、蛹は尾端を以て葉下に垂下す、第二回の幼蟲は十月中旬老熟し、次で蛹化し羽化すること前の如し、蝶は九月上旬現はれ、黄昏路上に暄を負ふもの普通なり。

(八)ひめたてば　Pyrameis cardui L.（第四圖2）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども小形なり、前翅三分の一は黑褐、後翅底の半部は暗褐、外半は柿色、三列の黑紋ありて其内方に更に一個の暗褐紋を裝ふ、前種よりも更に多き種類なり、體長六分乃至七分、開張一寸九分。

幼蟲　暗褐、背線黑色、亞背線黄色にして斷續す、氣門下線は太くして黄色疣狀をなす、氣門の後方に各一個の黄紋あり、腹面は淡赤褐、白色の短毛を粗生す、各節の刺は前種に似れども黄色、第二節及び氣門上に於ける刺は暗黑なり、頭黑色、顆粒狀の突起を具へ之より白毛を生ず、體長一寸四五分。

經過　同前、卵子は鷄卵形にして綠色を呈し、縱隆條を有す。

(九)こむらさき　Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff.（第四圖3）

被害植物　柳・白楊。

特徴　成蟲　翅は黑褐、中室は柿色、之に四個の黑紋あり、第二室に柿色の二紋を具へ、外側にあるものは其中央に黑褐紋を裝ふ、尙各室に二個若くは三個の柿色紋を有す、後翅の中央に柿色をなせるく字形の横帶を具へ、外緣には柿色の

紋列あり、第二室にある一紋の中央は黑色、雄は光線の工合により美麗の紫色を現はす、雌は紫色を帶ぶることなし、體長七分―八分、開張二寸―二寸三分、原種は略同樣の斑紋を有すれども、其色澤は灰白なり。

幼蟲　體は綠色、黄色の顆粒突起を散在す、頭の前端に角狀の二大突起を裝ひ、末端は黑色なり、初めの四節に二條の黄色縱線あり、第六節より第十節迄各節の兩側に黄色の斜條あり、各節の接合部は黄色、尾端の突起は赤黄、腹部及び脚は少しく青色を帶ぶ、頭は綠色、老熟すれば一寸三四分に達す。

經過　年一回發生し、幼蟲の有樣にて越年す、翌春潛伏處より出で新芽を食害す、五月下旬乃至六月上旬蛹化し、二週間を經て羽化す、卵子は一個づゝ葉下に產下せらるゝものにして、綠色若くは黄綠色をなし、圓柱形にして縱隆あり、蛹は淡綠色にして各節の接合部は黄色なり、成蟲は七月中旬頃より現はれ、櫟・槲・其他楡の如き樹幹より出づる液汁を吸收す、早朝道路の馬糞若くは牛糞上に靜止し、其液汁を吸收することあり、晝間は高く飛翔し時々下り來るを以て、これを待ちて捕獲し得べし、本邦何れの地に於ても普通なり。

(一〇)おほむらさき　Sasakia (Euripus) charonda Hew.（第四圖4）

被害植物　朴・楡。

特徴　成蟲　翅は黑褐色にして白色及び黄色の大紋を散在す、雄にては翅底の大半紫藍色にして其上に白色の斑紋あり、雌雄ともに後翅の內緣角に紅赤紋を裝ふ、雌にては翅の裏面帶綠黄色なれども、雄にては銀色を帶びたる部分あり、體長一寸一分―一寸五分、開張二寸五分―三寸五分。

幼蟲　體は綠色、黄白色の小顆粒紋散在し、白毛を裝ふ、頭及び尾節に二個の角狀突起ありて頭部にあるものは大なり、尙第二・第五・第七及び第十節に各二個の突起あり、老熟すれば體長二寸餘に達す。

經過　年一回の發生、前種に同じく幼蟲の狀態にて樹幹の空隙もしくは落葉下に越年す。六月乃至七月中旬に蛹化し、蝶は七月中旬より八月中旬迄目擊し得べし、常に高く飛翔すれども、時々槲・楡其他殼斗科植物より流出する樹液を吸收せんとして下り來るを以て捕獲し得べし、卵は球狀にして稍〻球狀を呈し、網狀溝あり、常に數十相集合して枝もしくは葉裏に產附せらる、九月頃より幼蟲を見得べし、蛹は綠色にして側扁、頭部に一個の角狀突起あり、體長一寸五分。

附言　拙著千蟲圖解第四卷百四十七頁に此の幼蟲は竹を食すと記したれ

ども誤なるを以て茲に訂正す。

(二)ごまだらてふ　Diagora (Hestina) japonica Feld.（第四圖5）

被害植物　朴・楡・柳。

特徴　成蟲　翅は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、前翅に三列の淡青白紋横列し、內方にあるものは四個にして大に、中列に五個、外列に三個あり、翅底に二三條の白線を縱走す、後翅の中室中央の横紋列及び內緣は淡青白、尙外緣にも白色の小紋列あり、體長七分―乃至八分、開張二寸三分―二寸六分。

幼蟲　綠色にして「こむらさき」の幼蟲に酷似すれども、頭部に於ける角狀突起は長く、上方三分の二は黑色にして其末端に至り二分す、尙第七節の背上には二個の後方に向へる黄色の棘狀突起あり、第五及び第十節の背上にも亦小突起あり、體長一寸三四分。

經過　年二回乃至三回の發生をなす、幼蟲の有樣にて樹枝上に越年し、翌春新芽を食す、第一期の成蟲は五月下旬、第二期は七月下旬乃至八月中旬、第三期は九月中旬より十月上旬、北海道及び東北地方にありては二回の發生にして、第一期は七月上旬、第二期は八月下旬乃至九月上旬なり、臺灣にては發生回數更に

多かるべし、卵は綠色にして球形、葉裏に產下せらる、蛹は垂蛹にして樹枝其他葉裏に垂下す、淡綠にして側扁、頭に二個の角狀突起あり、各節の兩側に白斜條を裝ひ、全面に白粉あり、長さ一寸一分、北海道にありては柳及び楡をも食すれども、本州にありては單に朴を食す、

(三)ふたすぢてふ *Neptis coenobita* Stoll (*Neptes lucilla* F.) var. *magnaba* Rühl. (第五圖1)

被害植物 こごめばな(珍珠花)、えぞはぎ。

特徵 成蟲 翅は黑褐、二條の白帶あり、第一は中室にありて細く、三線と一線とよりなり前後翅を貫く、中央帶は廣くして七紋より成り、前翅の五紋に連續す、前緣角に近く三白紋あり、前翅裏面の中室には數個の白紋を裝ひ、後翅の外緣に近く弦月形の白紋列あり、體長五分—六分、開張一寸五分—一寸八分。

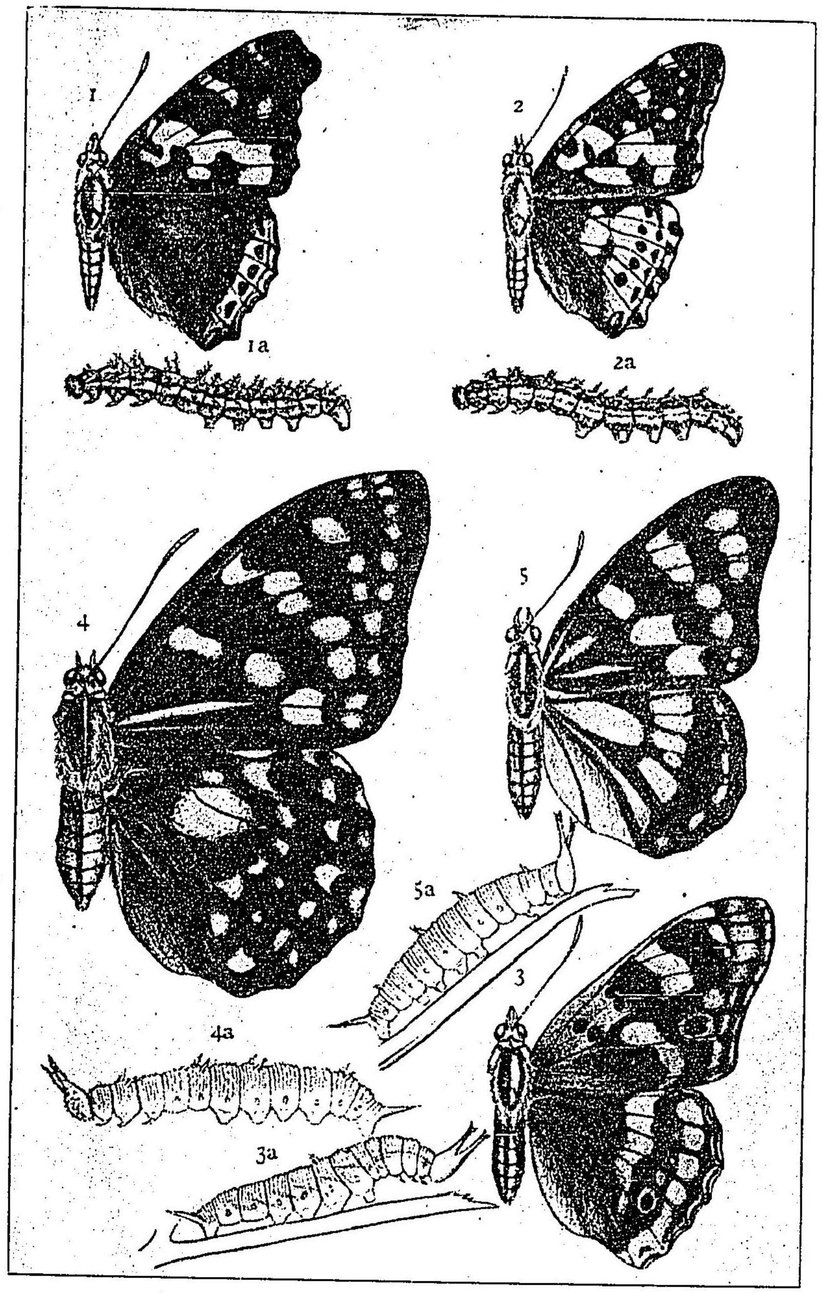
幼蟲 赤褐、背線は暗色、第二、第三、第五及び第十節の背上に各二個の褐色栓狀突起あり、又各節の兩側に暗色の斜條あり、淡色線によりて限界せらる、氣門上線は黃色、腹面は淡色、黃色の小紋を散在す、頭は黑褐、小黃斑あり、體長一寸三四分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春六月乃至七月蛹化し次て羽化

第四圖

1. Pyrameis indica Herbst. *あかたてば (P. 24)
   a. 幼蟲
2. Pyrameis cardui L. ひめたてば (P. 26)
   a. 幼蟲
3. Apatura ilia Schiff. var. clytie Schiff. こむらさき (P. 26)
   a. 幼蟲
4. Sasakia (Euripus) charonda Hew. おほむらさき (P. 27)
   a. 幼蟲
5. Dingora (Hestina) japonica Feld. ごまだらてふ (P. 29)
   a. 幼蟲

第四圖



す、蝶は飛翔すること緩漫なるが故に、花上に於て捕獲すること容易なり、蛹は淡褐、背上に於ける龍骨様の突起は高し、兩側には褐色の綾様紋を具へ横皺多し、翅鞘の部分は甚だしく突出す、長さ五分五厘、札幌地方に普通なる種類なり。

蝶亞目

(三)**こみすぢ** Neptis hylas L. (*Neptis aceris* F.) var. intermedia Pryer. (第五圖2)

被害植物 萩。

特徴 成蟲 翅は黒褐、前後兩翅を貫く三條の白帶あり、第一は中室にありて二分せられ、第二は後翅の三分の一の處を斜走し前翅の白紋に連續す、第三は後翅の三分の二の處にありて六個の白紋列より成る、第二及び第三帶の間並に外緣に近く判然せざる灰色の一横帶あり、體長四分—五分、開張一寸四分—一寸八分。

幼蟲 初めは褐色、判然せざる疣狀突起を具へ、頭に二角狀突起あり、第三齡後は體に三雙の栓狀突起(第二・第三及び第十一節)を生ず、其中前方にある二雙は棘狀をなし、後方にあるものは後方に向ふ、第三節にあるもの最も大なり、第五節に二個の肉狀突起あり、背線は白色、第三節より(第六七節に於ては脚の處迄延長す)第十一節に跨りて鞍様の白色若くは灰綠の斑紋あり、此斑紋の兩側に

暗色の斜條あり、頭は褐色、下方廣く上方小にして二突起を裝ひ、之に剛毛あり、體長一寸三四分。

經過 年二回の發生、第一回は五六月、第二回は七八月、第二回のものは第一回のものより翅帶廣し、稍〻老熟したる幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化しついて羽化す、蛹は灰黄色にして形前種に酷似すれども、背上に銀色紋を裝ひ、頭に角狀突起あり、蛹期二週間、卵子は葉下に一個つゝ產下せられ、綠色にして、指冠形をなし、六角形の小室を以て蔽はれ、八日乃至十日間にて孵化す、本邦何れの地方にも普通なり。

(四)おほいちもんじ Limenitis populi L. (第五圖3)

被害植物 白楊、柳。

特徵 成蟲 翅は暗褐色にして少しく青色を帶ぶ、白紋及び白帶を裝ふ、前翅の中室に一白紋あり、各室に一個若くは二個の白紋あり、外緣には判然せざる暗色の二横帶を並行し、其內側に柿色の横線を有することあり、後翅の中央に一白帶を裝ひ、其外方に柿色紋を横列し、各其前後に暗色紋を列す、外緣に判然せざる暗色の一帶あり、裏面は柿色、內緣及び外緣は淡き暗綠色、體長七分—八分、

開張二寸五分—二寸八分。

幼蟲 綠色、第四、第六、第八及び第九節は殆ど暗褐、第五節及び第七節の背上に綠色の二紋ありて小白點を散在す、各節の背上に一雙の疣狀突起ありて短黑毛を生じ、第一節にあるもの最も大なり、頭は前方赤褐、兩側黑色、二突起を具へ、更に少しく縊れたる二個の黄環あり、體長一寸七八分。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年す、幼蟲は梢上にありて葉を筒狀に捲き、翌春新芽を食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、蛹は黄色にして褐色の雲狀紋と黑色の小紋を裝ふ、頭及び胸部に瘤狀突起を具へ、翅鞘は大にして突出し、第一腹部には黄褐の斧狀突起あり、體長七分、成蟲は七月中旬乃至八月下旬現はる、北海道に普通なる種類にして特に北見地方にありては數十を得ること難からず、多くは雨後道路の水を吸收せんとして來り、平時は河畔の石上に靜止す。

蛺蝶亞科一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、但し蝶を捕ふるには豫め花圃を設け置き花上に來るものを捕ふべし、又殼斗科植物の樹幹より滲出する液汁を吸收するを以て、此

種の樹木に注意すべし、又此等の木に豫め糖液を塗抹し置き、之に誘引して捕ふるも便法なり、糖液には醋酒其他香氣あるものを混ずるを宜しとす、牛酪其他馬糞・牛糞等に集まるの性あるを以て注意すべし、又雌雄何れにても可なるが囮(オトリ)を用ひて誘殺すべし。

二、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、特に幼時は三十倍液にても容易に驅除し得べし、又粗布にて手袋を造り、之を以て幼蟲を捻り殺すべし。

三、時々葉下を檢し蛹を搜索して殺すべし、蛹は食葉下に垂下するを常とす。

粉蝶科 Pieridae.

(一)、もんしろてふ Pieris rapae L. (第五圖4)

被害植物 蘿蔔・蕪菁・甘藍・蔬菜其他十字花科植物。

特徵 成蟲 體は黑色、翅白色、前翅底の半部及び前緣は灰白、翅端及び稍〻中央にある二紋は黑色、後翅の前緣にも亦一黑紋あり、裏面は淡黃、後翅の前緣は黃色、雄にては前翅中央の二黑紋甚だしく判然せず、時に全く之を缺くものあり、體長六分—六分五厘、開張一寸八分乃至二寸一分。

幼蟲 綠色、背線・氣門線及び氣門上線は黃色、但し氣門線は斷續せり、氣門は黑色、腹面は黃綠、頭は綠褐、全面に無數の小褐紋散在し、之より黑色及び白色の短毛を密生す、體長一寸三四分。

經過 年二回若くは三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹にして、灰黃・綠褐若くは暗褐の諸色あり、三條の黃線あるを常とす、又體には黑褐の小紋を散在す、羽化前は白臘色を帶ぶ、頭には楔狀の突起を具へ、胸背の中央には縱隆あり、翌春四五月頃羽化し、黃色の卵子を一個宛葉下に產附す、數日に亙りて產卵するの性あり、卵子は約二週間を經て孵化す、隨つて幼蟲の出づる時期一樣ならず、第一回の蛹は普通葉下にあれども、第二回の幼蟲は老熟すれば籬垣・板塀・軒下等に隱所を求めて蛹化し越年す。

驅除法 網を以て蝶を捕獲すべし、此の種は黃昏・菜圃附近の叢中に集まるの性あり、花園を作り之を集めて捕ふるも亦一法なり、幼蟲には石油乳劑の二十倍液を灌注すべし、除蟲菊の粉末に四十倍の木灰を混じ撒布するも亦大効あり

(二)、すぢぐろてふ Pieris napi L. (第五圖5)

被害植物 同前。

特徴 成蟲 翅白色、前緣及び翅脈の一部は灰黑、前緣角第一室及び第三室にある各一紋は暗黑、但し種類により此等の紋を缺くものあり、後翅は前緣に一暗黑紋を裝ひ、第三乃至第六脈の末端は暗黑、體長五分乃至七分、開張一寸三分乃至二寸。

幼蟲 少しく褐色を帶びたる綠色、兩側は少しく淡色、氣門線は黃色、氣門黑色、赤黃の周緣を具へ、全體に白色及び黑色の小點を散在し、短毛を密生す、前種に酷似す。

經過 前種に酷似す、卵子は黃色なれども少しく綠色を帶び、蛹は稍〻大なる黑紋を散在し、翅鞘緣は黃色を帶び、頭及び胸背突起の稍〻大なる等は重要なる異點なり。

驅除法 同前。

(三)えぞしろてふ Aporia crataegi L. (第二百七十圖)

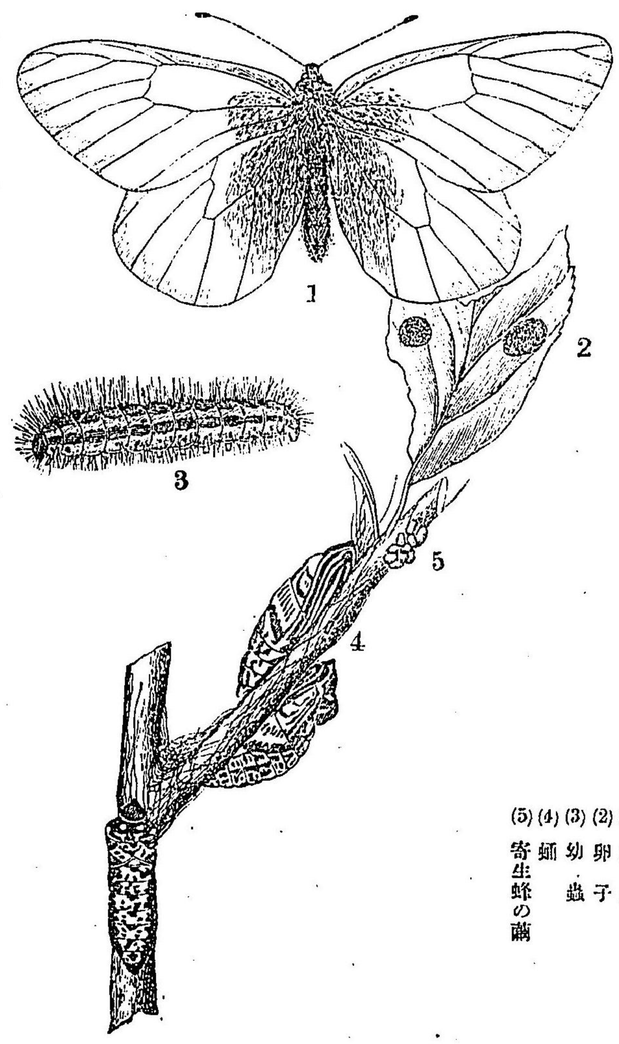
被害植物 苹樹、山榅(サンザシ)(稀に梨、梅、海棠)。

特徴 成蟲 翅は白色、翅脈外緣及び翅底は黑色、灰白毛を密生し、觸角の末端は黃白、體長八分、開張二寸三分乃至二寸六分。

第五圖

1. Neptis coenobita Stoll. (lucilla F.) var. magnata Rühl. ふたすぢてふ (P. 30) a. 幼蟲 b. 蛹
2. Neptis hylas L. (aceris F.) var. intermedia Pryer. こみすぢ (P. 31) a. 幼蟲 b. 蛹
3. Limenitis populi L. おほいちもんじ (P. 32) a. 幼蟲 b. 蛹
4. Pieris rapae L. もんしろてふ (P. 34) a. 幼蟲 b. 蛹
5. Pieris napi L. すぢぐろてふ (P. 35) a. 幼蟲

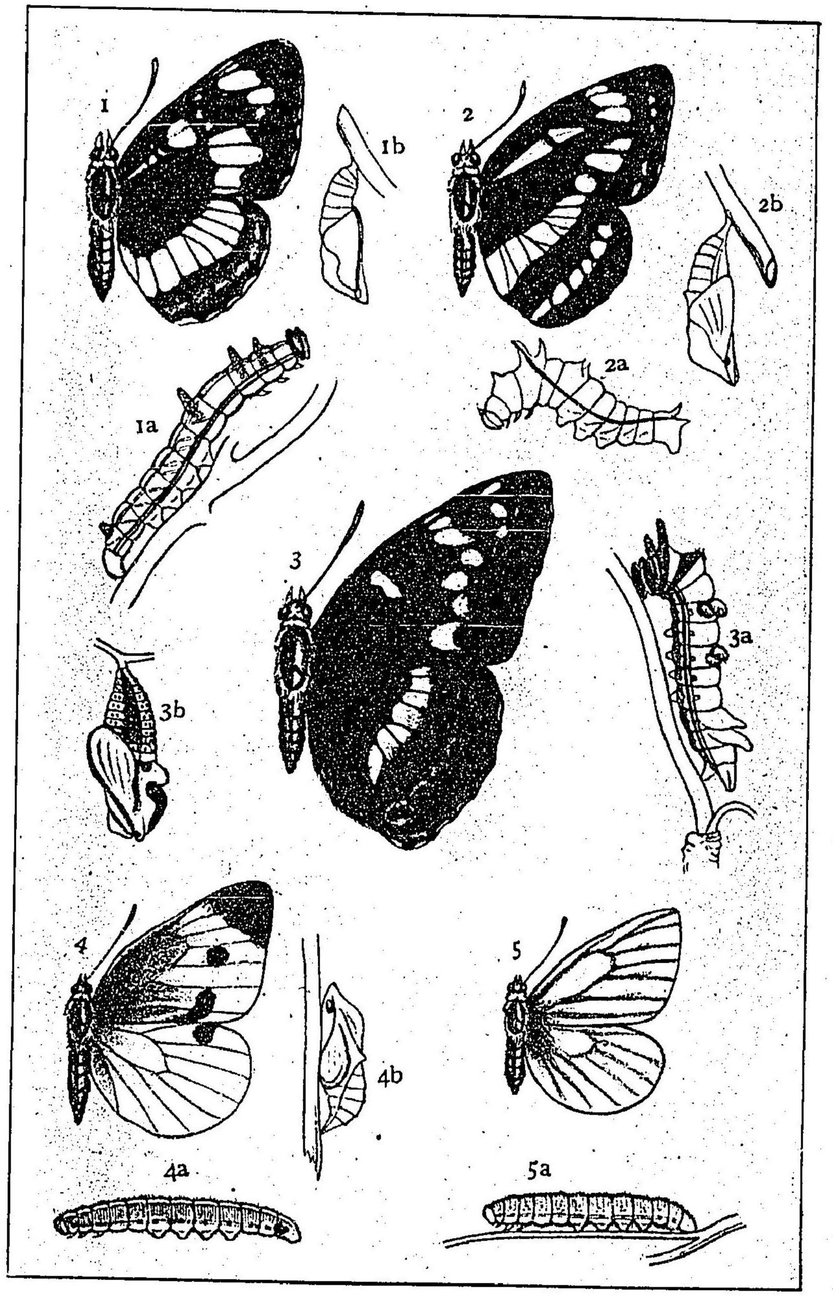
第二百七十圖　ふてろしぞえ



(1) 成蟲
(2) 卵子
(3) 幼蟲
(4) 蛹
(5) 寄生蜂の繭

幼蟲　背線及び亞背線は黑褐色にして少しく紫色を帶ぶ、頭第一節及び尾節の硬皮板、氣門、脚及び其外側の瘤起は黑色、白色の長毛を密生し、背上にて黃褐の短毛あり、體長一寸二分乃至一寸四分。

第五圖



經過　年一回の發生、幼蟲の有樣にて枯葉の中に越年す、翌春巣より出てゝ新芽を食害し、六月上旬に至りて蛹化す、蛹は黄白、黑紋及び黄紋を散在す、氣門線は黄色、常に數個相集合し絲を以て枝上に縊らる、六月中旬乃至下旬羽化す、蝶は黄色なる長形の卵子を葉下に集合して產す、其數百數十、卵子は短き紡錘狀にして約二十五條の縱溝あり、八月中旬頃孵化したる幼蟲は食害すること少く枯葉内に數匹相集まりて越年す、冬期梢上に枯葉の垂下せるは多くは其越年せるものなり、翌春に至り溫暖の日は出てゝ食害すれども、寒冷の日は其巣に歸りて蟄居す、蝶の運行は遲鈍にして花蜜を吸收す、其害割合に大なり。

驅除法　冬期樹梢に垂下せる枯葉を採り去るべし、六月上旬乃至中旬枝上に集合して蛹化せるものを殺すべし、蝶發生の時期は網を以て捕ふべく、花に集まるの性あるを以て豫め花圃を作りて誘引すべし、幼蟲には石油乳劑なれば二十倍、魚油乳劑なれば三十倍の水を混じて撒布すべし、郭公鳥は好んで之を食す。

鳳蝶科　Papilionidae.

(一)、ながさきあげは　Papilio memnon L.（第六圖1）

被害植物　柑橘類

特徵　成蟲　多形種にして三形あり、第一種は黑色にして後翅少しく黑藍色を帶び、青鱗を撒布し、尾樣突起を有せず、第二種は黑色なれども白色の部分多く後翅に白色の六楕圓紋を裝ひ、尾樣突起を缺く、第三種は第二種に酷似すれども尾狀突起を有し、臺灣に普通なり、何れも前翅の翅底に紅色の一紋を具へ、後翅底の裏面に暗紅の三紋を裝ふ、九州地方に稀ならず、體長一寸乃至一寸三分、開張三寸五分乃至四寸九分。

幼蟲　體は暗綠にして前方に瘤狀突起を具へ、前方に赤色條あり、尙淡褐の斜條を裝ふ、其形宛然一種の天蛾の幼蟲に似たり、體長一寸七分乃至二寸五分。

經過　年三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は四・五・六、第二回は六・七・八、第三回は八・九・十月に跨りて現はる、卵子は黄綠にして一個宛葉下に產せらる、幼蟲は初めは黑色、白紋を裝へる「くろあげは」に似たり、蛹は帶蛹にして灰綠若くは灰褐、時に綠色なるものあり、何れも黄紋と黄條を裝ふ、九州地方に多く、好んで花に集來す、

(二)、**もんきあげは** Papilio hecatus L. (第六圖2)

被害植物 柑橘類。

特徴 成蟲 體翅黑色、後翅第四・第五・第六及び第七室に黄白の大紋ありて、中央にある二紋は大なり、内緣角に暗紅色の弦月形を裝ふ、後翅裏面の各室に弦月形の橙黄紋ありて、第二室には二個あり、前翅裏面の中室に五個、後翅に白色鱗の三縱條を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張四寸乃至四寸五分。

幼蟲 綠色、第三節及び第九節に光澤なき黑色の斜條を裝ひ、第五・第七及び第八節には天鵞絨様の黑色斜條を有す、腹面は灰白なり、體長一寸五分乃至二寸二分。

經過 年三回發生し、蛹の有様にて越年す、蛹は綠色、帶蛹にして角様の二突起を有す、卵子は黄綠にして一個宛葉下に產附せらる、卵子より孵化せる當時は黑色にして白紋を裝ひ鳥糞に似たり、第一回の蝶は四月より五月、第二回は六・七月、第三回は八・九の兩月に跨りて出て、花に集來するの性あり。

(三)、**くろあげは** Papilio demetrius Cram. (第六圖3)

被害植物 柑橘類。

特徴 成蟲 前翅暗色、中室に五條、各室に一條の黑線を縱列し、第一室には二條を裝ふ、後翅は黑色、内緣の末端に近く橙黄の一環紋を裝ひ、第二室に弦月形の一橙黄紋あり、尤も種類により此紋の判然せざるものあり、裏面の各室端に橙黄の弦月紋ありて、第三・第四及び第五室にあるものは小なり、雄にありては濃色にして後翅の前緣黄白となり、體長六分乃至八分、開張三寸乃至四寸五分。

幼蟲 暗綠色、第三節の兩側に黑色の眼狀紋を裝ひ、其中間に四個の環紋あり、第七節の氣門上には各一條の斜走せる黑線あり、第八節の背上にて波狀をなす、第九節の氣門上にも亦同様の斜條あり、背面にて相合す、以上の黑線上には灰白の部分あり、尙第五節乃至第十一節の兩側に楕圓形の白紋ありて黑輪を有す、初めは黑色にして白紋を裝ふ、體長一寸七分乃至二寸一分。

經過 年三回の發生、蛹の有様にて越年す、蛹は暗褐、頭部に長き角様の二突起を有し左右に開く、胸部の突起は甚だ高からず、腹背は少しく弓狀をなし、第三腹節は廣く左右に突出し、其局部は他よりも濃色なり。

(四)、**からすあげは** Papilio bianor Cram. (第七圖1)

被害植物 柑橘類、黄檗木。

成蟲　體は黑色、翅は黑色、青藍色若くは青色の鱗毛を密生す、前緣及び翅脈は黑色、前翅後緣に近く天鵞絨樣の黑紋あり、第三・第四の脈上にも亦同樣の軟毛あり、外緣は白色、後緣の中央に青藍色の鱗毛多く、外緣は黑色、其內に青藍色の弦月紋あり、內緣角に黑紋ありて其內側は赤色、外側は白色、變種多し、體長八分乃至一寸一分、開張二寸五分乃至四寸五分。

幼蟲　「くろあげは」の幼蟲に酷似す、綠色、第二及び第三節の背上に黑斜條あり、第四及び第五節の接合部に天鵞絨樣の黑帶を有する等「くろあげは」に異ならず、體長六分乃至八分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年する等「くろあげは」と略、同樣なり。

(五)、きあげは　Papilio machaon L.（第七圖2）

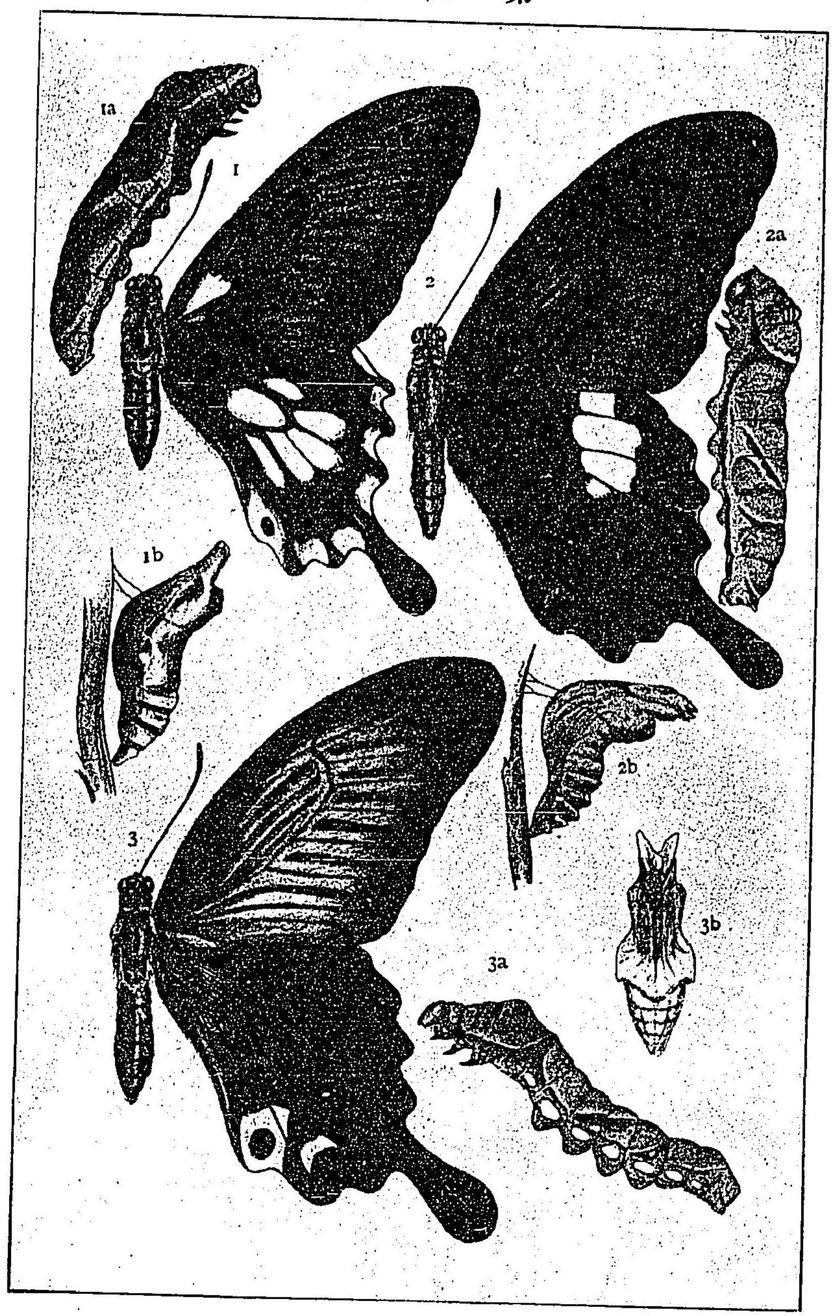
被害植物　胡蘿蔔・防風・茴香（ウイキヨウ）。

特徵　成蟲、體は淡黃色にして背上に太き黑線を縱走す、前翅は黑色、三列の黃紋あり、上列にあるものは三個にして、其中二個は中室にあり、中央を斜走せるものは八個、第七室にあるものは中央に黑紋を裝ふ、外緣に八個の小黃紋を橫列す、後翅底の大半は黃色、翅底の內緣及び脈は黑色、外緣は天鵞絨樣の黑色、內

第六圖

1. Papilio memnon L.　ながさきあげは　(P. 39)
   a. 幼蟲　b. 蛹
2. Papilio helenus L.　もんきあげは　(P. 40)
   a. 幼蟲　b. 蛹
3. Papilio demetrius Cram.　くろあげは　(P. 40)
   a. 幼蟲　b. 蛹

第六圖



に七個の藍色紋と七個の黄色紋を具へ、内緣角に赤褐紋を有し、其下方に黑紋あり、體長八分乃至一寸一分、開張二寸六分乃至四寸。

幼蟲　綠色、各節の背上に一條の黑帶ありて、内に四個乃至六個の赤褐紋を具へ、第五節より尾端に至る迄氣門部に鈎狀の黑紋を裝ひ、中央に各一個の赤黄紋あり、各關節の接合部及び腹面に散在せる斑紋も亦黑色なり、頭部黄綠、四條の黑條あり、體長二寸。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は三四月より五月に亙り、第二回は五・六・七月、第三回は七・八・九の三ヶ月に跨りて現はる、蝶は卵子を一個宛葉下に產附す、卵は黄綠にして稍〻球狀をなし、數日の後孵化す、初めは黑色にして赤色の突起と白紋を有すれども、成長するに隨ひ固有紋を表はす、蛹は灰褐乃至黄綠にして黄色條あり、頭部より二個の角狀突起を出だし、胸背及び胸側にも亦各一個の小突起あり、幼蟲に觸るゝときは臭角を出だして臭液を滲出す、蝶は甚だ活潑にして百合の花に來るもの多く、時に又一定の場所に飛翔す。

蝶亞目

(六)あげは　Papilio xuthus L.（第七圖3）

被害植物　柑橘類・黄蘗(キハダ)木。

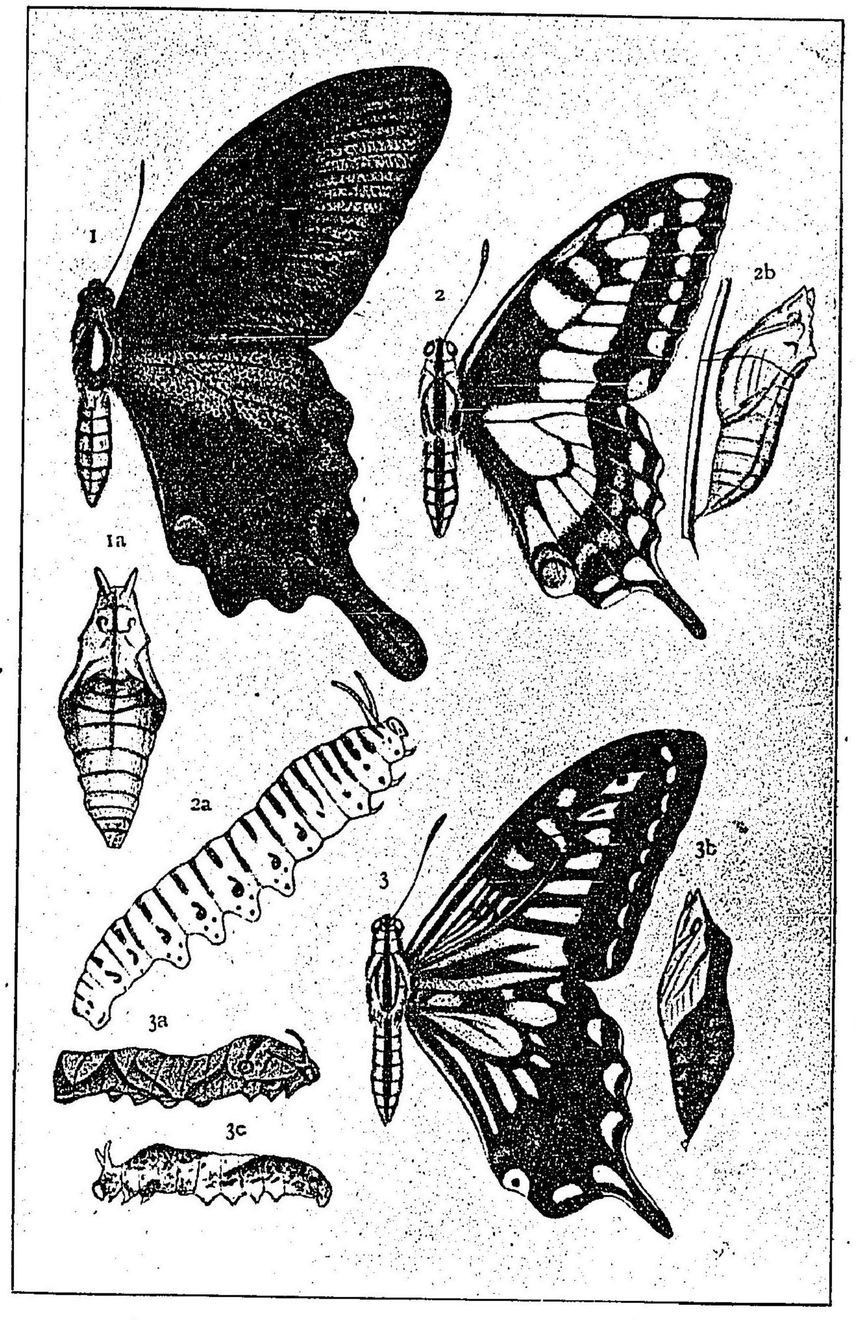
特徴　成蟲　體綠黄、背上に黑縱條あり、尾端に至りて終る、翅は黄色乃至淡綠黄、前翅に黑紋と黑條多く、中室に黑色の縱條と大なる黑横線あり、各室の末端には一黄紋ありて下方にあるものは弦月形をなす、後翅の外緣は黑色、青藍色の鱗毛を各室に裝ひ、斑紋の如き觀をなす、內緣角に橙黄色の大紋ありて其中央に一黑點を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張二寸七分乃至四寸。

幼蟲　暗綠、赤黄紋を散在し、第四・第八及び第九節の背上に最も多し、第三節の兩側に眼狀紋を有し、其中央は黑色、更に黄色の細線ありて二分す、此紋の中間に馬蹄樣の四紋あり、第三・第四の兩節は最も太く、頭部を收縮するときは此の部恰も頭の如く、且眼狀紋を有するを以て特に其然るを覺ゆ、第四節と第五節との縫皺は黑色、之より各一條の細線を出だす、此線は第六節に於て最も深く彎曲し、斜走して第八節の背上に出て、鋭角をなして互に相合す、第七・第八の兩節に於ける斜條の外側は黑綠、第九及び尾節も亦同樣に暗黑を呈する部分あり、尙第四節より第十一節に至る迄兩側に各一個の輪紋ありて、第六・第七の兩節に於けるもの最も大なり、頭は黄綠にして少しく暗色を帶ぶ、體長一寸二三

第七圖

1. Papilio bianor Cram.　からすあげは　(P. 41)
   a. 蛹
2. Papilio machaon L.　きあげは　(P. 42)
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
3. Pailio xuthus L.　あげは　(P. 43)
   a. 幼蟲　*b.* 幼蟲四齡　*c.* 蛹

第七圖



分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹、頭及び背上の突起は前種より稍〻長し、蝶は前種と同時に出づ、卵子は一個宛柑橘の葉下に產下せらる、其孵化したる幼蟲は、初め黑色にして白紋を有するを以て恰も鳥糞の如し、百合の花に集來すること前種に異ならず。

(七)くろたいまい（あをすぢあげは）Papilio sarpedon L.（第八圖1）

被害植物　樟桂。

特徵　成蟲　體は暗黑色、腹側に各二條の白線を縱走す、翅は黑色、前翅の中央に青色紋を縱列し、後緣に至るに隨ひ其太さを增す、後翅には三個の青色紋を縱列し、第二室にあるものは細長し、各室の末端に弦月形の青色紋を裝ふ、後翅裏面の翅底及び第一室より第五室に至る迄各室に一赤紋を有す、體長八分、開張二寸五分乃至三寸。

幼蟲　濃褐色にして灰黃の小斑を散在す、氣門上線は黃色にして小突起より成り、氣門下線は黃褐、體の前方は肥大し、後方に至るに隨ひ次第に細小す、第二節の背上には黃條を橫走し、其兩端は黑紋に終る、頭及び尾節に突起あり、尙第

三節及び第五節に突起あり、體長一寸五分。

經過 年二回の發生、第一回は五六月、第二回は八九月、臺灣にありては三四回の發生をなすものゝ如し、蛹の有樣にて越年す、卵子は常に葉下に一個づゝ產下せらる、蛹は褐色にして胸背上の突起は甚だしく突出す、體長一寸二分。

(八)しろをびあげは Papilio polytes L. (第八圖2)

被害植物 柑橘類。

特徵 成蟲 二形あり、一は帶狀に一列をなせる七個の黃白紋を後翅に裝ひ、他は中室の外方に五白紋を有す、前者は全體暗黑にして各室の末端に弦月形の小白紋を裝ふ、但し種類により紋狀の大なるものあり、後翅の內緣角に橙黃の一弦月紋を裝ひ、其上方に青色鱗を散在す、後翅裏面の各室末端に白色乃至橙黃色の弦月紋を裝ひ、第七室に二紋あり、後者にありては前翅の外半は淡色、後翅の各室は表裏共に橙黃色の弦月紋を裝ひ、第一室及び第二室に各二紋あり、體長六分乃至八分、開張二寸六分乃至三寸二分。

幼蟲 綠色、第三・第五・第七・第八・第九及び第十二節の背上に白色の稜紋を裝へる暗色の鞍狀紋あり、體長一寸三四分。

經過 年數回の發生をなす、臺灣及び沖繩に產すれども、本州には未だ發見したることなし、蛹の有樣にて越年す、卵子は一個宛葉下に產附せらる、蛹は綠色、肩部白色なるもの多し、甚だしく彎曲し、頭部の角狀突起は大にして、胸背にある突起も亦大なり、何れの時期にありても此蝶を見得べし、其害餘り大ならず。

鳳蝶一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、特に花園を設くるときは其捕獲容易なり、特に其集來する花は「くさぎ」「ぼけ」「らんたな」「ふろくす」「ゆり」等なり、成蟲は或一定の場合に必ず廻り來るものなれば、捕獲には其場所を發見すること必要なり、又雨後路上に靜止して水を吸收する性あり、又河畔の水邊或は小山の頂上に居ること普通なり。

二、蛹は常に食葉の近邊にあるを以て搜索すべし、一本の絹絲を以て自體を縊り、俗にお菊蟲と稱するものとなれるを以て、注意せば發見するに難からず。

三、幼蟲は多く葉上にありて食害するものなれば、石油乳劑の二十倍液を遠くより樹全體に灌注すべし、殊に幼時に於て一層の効あり、幼蟲は第一節の背上より黃角を出だすを以て其存在を認むること容易なり、又一種固有の臭

氣によりて其居所を知り得べし、常に臭液を滲出するを以て直接手にて殺すよりも寧ろ鑷子の如きものを以て捕ふべし、粗布にて手袋を造り捕ふるも可なり。

双翅目 Diptera

蝨蠅亞目 Pupipara

蝨蠅科 Hippoboscidae

(一)うましらばい Hippobosca equina Latr. (第九圖1)

被害動物 馬・牛・犬。

特徴 成蟲 體は黄褐、頭・前胸背の斑紋、幷に稜狀部は黄白、翅は透明、脈は黑褐にして太し、脚は淡黄褐、前腿節太く、後腿節の末端幷に脛節に黑褐紋を裝ふ、體長二分。

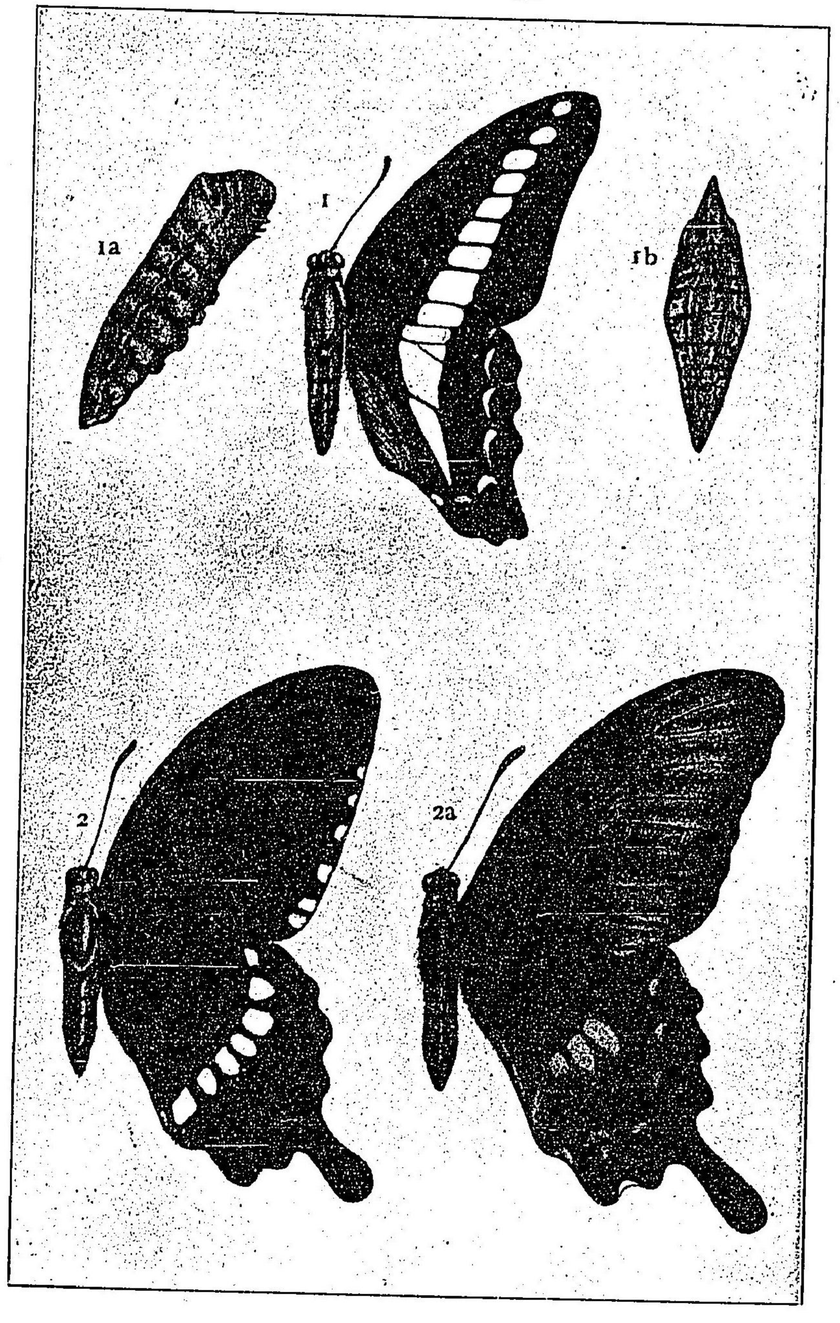
幼蟲 體は白色、成蟲の體内を出づるや直ちに蛹化す。

經過 一年四五回の發生をなす、成蟲は唯一匹の幼蟲を産す、六・七・八の三ヶ月間は何れの時期と雖も成蟲を見得べし、幼蟲は母蟲の體外に出づるや直ちに毛

第八圖

1. Papilio sarpedon L. くろたいまい (P. 45)
   a. 幼蟲 b. 蛹
2. Papilio polytes L. しろをびあげは (P. 46)
3. Papilio polytes L. var. pammon L. しろをびあげは變種

第八圖



間に入りて蛹化す、蛹は球形にして二突起を有し、初めは暗色なれども次第に褐色となり終に光澤ある黑色となる、約四週間を經て羽化す。

驅除法 成蟲は普通馬の尾下臀部及び脛部に靜止するを以て、網にて捕殺すべし、蛹は光澤ある黑色を呈するを以て注意すれば發見するに難からず、尾下共他臀部に一割の「テレビン」油を混じたる蓖麻子油を塗抹し置くべし。

(二)いぬしらみばい Hippobosca capensis Olf. (第九圖2)

被害動物 犬。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども、小形にして淡色、翅脈は翅と同色にして、横脈及び其周圍のみ黑褐なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

(三)ひつじしらみばい Melophagus ovinus L. (第九圖3)

被害動物 羊。

特徵 成蟲 黃褐體下は淡色、體毛及び爪は黑色、單眼、稜狀部及び翅を缺く、眼は甚だ細く、腹部は袋狀をなして膨れ、脚は太く二齒ある爪を有す、體長一分五厘。

經過 年四五回の發生をなす、老熟したる幼蟲は母體より出づるや直ちに土塊若くは羊糞下に潛みて蛹化す、蛹期三週間內外、成蟲となれば羊毛間に入りて

血液を吸收す、其盛に發生せる場合は蟲糞のため毛の綠色を呈するに至ること とあり、又羊は痒を治せんが爲め自體を他物に摩し毛の品質を損すべし、舍飼となすときは甚だしく蕃殖せざれども、野外飼育の場合は發生頗る盛にして大害を加ふることとあり。

驅除法 蛹は土塊間若くは羊糞間にあるを以て、灰汁に石炭酸の少量を混じ撒布すべし、家畜房は常に清潔に保ち、壁板柱等の空隙にも同液を注入すべし、毛間にあるものは胡桃葉を酢に浸漬したるものにて洗滌すべし、又「アルボース」石鹼の溶液に除蟲菊を浸漬したるものにて洗ふも効あり。

(四)あをばとしらみばい Ornithomyia aobatonis Mats. (第九圖4)

被害動物 鳩。

特徴 成蟲 暗黄、前胸背の中央に淡色の縦條を裝ひ、其兩側に各一個の褐紋あり、翅の長さは體に二倍す、腹部は小にして横卵形、頭部に三個の單眼を具へ、脚に三爪を有す、體長一分五厘、翅端まで三分。

經過 年發生の回數は判然せざるも、七八の兩月頃鳩に普通なり、性甚だ活潑にして、直ちに飛去するを以て、注意せざれば捕獲し難し。

驅除法 鷄蝨と同樣の驅除法を行ふべし。

短角亞目 Brachycera

家蠅科 Muscidae

(一)しやうじやうばい Drosophila obscurus Fall. (第九圖5)

被害物 酒・酢・醬油・味噌等。

特徴 成蟲 體は淡黄褐、眼は赤褐、腹部は黑褐、觸角・顏・脚・平均棍及び體下は淡黄、翅は體長より長くして透明、紫色の虹色を表はす、體長七厘內外。

幼蟲 白色、細長にして頭の細小なる等家蠅の幼蟲に異ならず、體長一分。

經過 一年數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春厨房にありて種々の液汁に卵子を產下す、殊に味噌の如きは大害を被ることあり。

驅除法 鳥黏を以て蠅を捕ふべし、幼蟲の味噌其他の液汁に發生する憂ある場合は、胡椒・山椒等の粉若くは葉を入れ置くべし。

(二)むぎもぐりばい Chlorops circumdata Meig. (第九圖6)

被害植物 麥、其他の禾本科植物。

特徴 成蟲 黄色、頭頂、前胸背及び腹部は黑色、前胸背に二個の黄縱條を裝ふ、翅は透明にして少しく紅色を帶ぶ、體長一分五厘。

幼蟲 黄白色、半透明に近し、體長一分。

經過 年二回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春白色の卵子を麥其他禾本科植物の葉上に產下し、穗出づれば之に移りて食害す、六月下旬乃至七月上旬蛹化す、本邦に於ては其害未だ大ならず、蛹は黄色、兩端細小す、蛹期三週間、八月羽化す、第二回の幼蟲は十月上旬現はる。

驅除法 成蟲發生の時期を見計ひ、麥圃に至り掬網を以て捕殺すべし、幼蟲を捕ふべし、幼蟲の加害せる麥葉の局部は黄色に變ずるを以て容易に認め得べし。

(三)いねきいろはむぐりばい Chlorops oryzae Mats. (第九圖7)

被害植物 稻。

特徴 成蟲 體黄色、頭頂の一紋及び後頭は黑色、胸背には三黑條を縱走す、其中央にあるものは胸背の中部に達す、翅は透明、紫色の虹色を表はす、腹背暗黄、基部は黑色、體長八厘。

幼蟲 白色、稍〻紡錘狀に近く、尾端に突起を有す、體長二分二厘。

經過 年發生の回數は未だ判然せざるも二回なるが如し、新潟地方にありて稻を害すること少なからずと云ふ。

驅除法 同前。

(四)いねむぐりばい Oscinis oryzella Mats. (第九圖8)

特徴 成蟲 暗黑、少しく綠色を帶ぶ、觸角は稍〻卵形をなし、端刺に短毛あり、翅は透明、少しく暗色を帶び紫樣の虹色を表はす、平均棍は白色、脚は黑色、中肢の轉節は黄褐、體長八厘。

幼蟲 白色、少しく青色を帶ぶ、形稍〻紡錘狀に近く、前端に黑色の二齒あり、體長一分二厘。

經過 年二回の發生、第一回は五月下旬乃至六月中旬、第二回は六月下旬乃至七月中旬、成蟲は葉內に白色長楕圓形の卵子を一粒づゝ產下す、其數七八十粒ありて數回に之を產卵す、蛹は黑褐、普通莖上に附着す、蛹のまゝにて越年す。

(五)いねあをむぐりばい Siphonella viridiaenea Mats.

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、少しく大形にして綠色一層甚だしく、顏は灰白にして、其前緣は半圓形に刻らる、體下及び脚は光澤なき灰綠色、腿節の末端

及び脛節の基部は黄色、體長一分乃至一分二厘。

經過 前種と同一なるべし、前種と同時に發生したるものなれば、其差異は判然せず。

驅除法 同前。

(六)なむぐりばい Phytomyza nigricornis Macq. (第九圖9)

被害植物 十字科植物・豌豆。

特徴 成蟲 灰黑色、頭は黄色、頭頂に一暗色紋を裝ふ、觸角は黑色、翅は大にして體長より長く、脈は黄白、平均棍は白色、脚は黑色、腿節の末端は暗黄、體長六厘。

幼蟲 白色、稍〻紡錘狀をなせども前端は一層細小す、體長一分。

經過 發生の回數未だ明かならず、六七月頃、十字科植物及び豌豆の如き荳科植物の葉中に蜿蜒たる隧道を穿ちつゝ食害し、老熟すれば葉中に蛹化す、蛹は黑褐にして長さ七厘あり、越年の狀態は判然せざるも、恐らくは他の蠅に同じく成蟲の有樣なるべし。

驅除法 同前。

(七)ひめいへばい Homalomyia canicularis L. (第九圖10)

被害物 室内の食物。

特徴 成蟲 體は灰褐、觸角は黑褐、端刺は羽狀をなす、胸背に黑褐の三縱條あり、翅は透明、少しく暗色を帶び、脈は暗黄、雄にては腹部の兩側は暗黄、雌にては全部灰褐、體長一分八厘乃至二分二厘。

幼蟲 暗色にして長楕圓形をなし、體上及び體側に肉狀の突起多し、體長四分。

經過 年發生の回數は未だ判然せざれども少くとも數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春室内の食物に集り、又時に室内に飛翔す、いへばいの如く大害を加へず、幼蟲は植物性の腐敗物に栖息す。

驅除豫防法 木片に鳥黏を塗り天井より吊り置くべし、又數多群をなして室内に飛翔するものなれば網を以て掬ひ捕ふべし、蠅採罎に砂糖液・酢・酒等を入れて誘引すべし、植物性の腐敗物は燒棄して除去すべし。

(八)だいこんばい Anthomyia flavopicta Mats. (第九圖11)

被害植物 蘿蔔・蕪菁其他の十字科植物及び荳科植物。

特徴 成蟲 體は暗灰色、胸背に判然せざる暗色の縱條を裝ふ、觸角及び脚は黑色、雄にては觸角上に一黄紋あり、雌にては複眼の内側白色なり、翅は透明、基部

少しく黄色を呈す、雄の腹部には一黒條を縱走す、雌は之を缺く、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲　乳白色にして少しく黄色を帶ぶ、體は圓柱形にして判然せざる十二節より成り前方に突出す、判然せる頭部なく、尾端は截斷狀に終り、其下緣に短齒を列ぬ、體長三分。

經過　年三四回の發生をなす、普通成蟲の有樣にて越年し、翌春植物の根際に二百內外の卵子を產す、卵期は十日內外、孵化すれば直ちに根邊に入りて食害す、之に罹りたる蘿蔔は幼蟲分泌液のために腐敗すること速かなり、普通四週間內外にて一代を終る。

驅除豫防法　蠅の出づる時期を見計ひ網を以て捕ふべし、根際に石油乳劑の二十倍液を注入すべし、又第三回間引後石炭酸に百倍乃至二百倍の水を混じ鋸屑に浸し、根際に撒布すべし、"タール"を塗抹せる紙を適宜に切りて根際を掩ひ置くべし。

(九)、**ひめくろばい**　Ophyra nigra Wied.　(第九圖12)

被害動物　人類。

特徵　成蟲　體は光澤ある黑色、眼は小豆樣の赤褐、觸角は黑褐、胸背は光線の工合により少しく藍色を現はす、翅は透明、脈は黄褐、光線の工合にて紅色を現はす、體長二分。

幼蟲　家蠅の幼蟲に酷似す。

經過　便所に普通なる種にして、幼蟲は糞尿を以て食とし、肥料成分を減却すれども未だ害蟲と認むべきものにあらず、其經過未だ詳かならずと雖も、病菌を傳播する重なるものなるべし。

(一〇)、**おほいへばい**　Cyrtoneura stabulans Fall.　(第九圖13)

被害動物　人類。

特徵　成蟲　暗灰色、胸背に四本の黑縱條を具へ、腹部の中央に黑色の一縱條を走らし、褐色の光澤ある斑紋を裝ふ、觸角の中部、小腮鬚、稜狀部の末端及び脚は黄褐、時に黑色なることあり、體長三分乃至三分五厘。

經過　幼蟲は植物性の腐敗物及び馬糞を以て食とし、成蟲の有樣にて越年す、翌春屋內にありて食物に集まり大害を加ふ、又病菌の媒介をなす。

(一一)、**いへばい**　Musca domestica L.　(第九圖14)

被害動物　人類。

特徴　成蟲　體は黑褐顏は黃白、觸角及び小腮鬚は黑色、胸背に四箇の黑縱條を裝ふ、雄にては腹部の兩側に黃褐紋あり、體長(雌雄)二分乃至三分。

幼蟲　白色、長圓錐形にして尾端は截斷狀に終り、之に褐色の二氣門を有す、口部は單に一個の黑色鈎を有するに過ぎず、體は十一個の環節より成り、第三節の兩側に各一個の氣門を有し、體下には疣狀突起ありて運行に便ならしむ、體長四分。

經過　年七八回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春馬糞其他の腐敗物に產卵す、一雌の總卵數は百二十內外、約一週間にて老熟し、次で蛹化す、蛹は赤褐にて圓蛹なり、長さ一分八厘。

(三)くろいへばい　Musca corvina L.

被害動物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、雄にては顏の兩側銀白色、胸背は光澤ある黑色にして更に濃色の判然せざる四縱條を走らす、但し光線の工合により前胸の前方は白色を現はす。腹部は黃褐、第一節背線幷に尾端は黑色、雌にては腹部

黑色、灰白の光澤ある斑紋を裝ふ、體長二分二厘乃至二分五厘。

經過　同前、此害蟲は山間の道路に多く、都市には稀なり。

(三)きんばい　Lucilia caesar L.（第九圖15）

被害物　動物性の食物。

特徴　成蟲　體は金綠色、前胸背の前緣に白粉を裝ふ、複眼は赤褐、顏は上方より見れば銀白色、觸角は黑褐、翅は透明、脈は黃褐、腹部は稍〻球形に近し、日數を經たるものは金黃色を呈す、脚は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、體長二分五厘乃至三分。

幼蟲　白色にして少しく黃色を帶ぶ、體は十一節より成り、尾端の氣門及び口部は暗色を呈す、體長四分。

經過　年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春動物性の食物其他屍骸に產卵す、蛹は初めは赤褐にして次第に黑褐となる、約十日間にて一代を終る、時々生魚と共に人類の胃腑內に入り大害を加ふることあり。

(四)おほきんばい　Lucilia jeddensis Big.

被害物　同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども遙に大形、青藍色にして觸角は黑褐、脚は黑色、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲 同じく前種に酷似すれども、尾端に赤褐の長楕圓紋ありて横置せらる、體長五分。

經過 同前。

(五)おびきんばい Lucilia dux Esch. (第十圖1)

被害物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども金綠色にして、顏及び觸角は黄色、胸背に剛毛少なし、各腹節の末端に紺色帶あり、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲 不明。

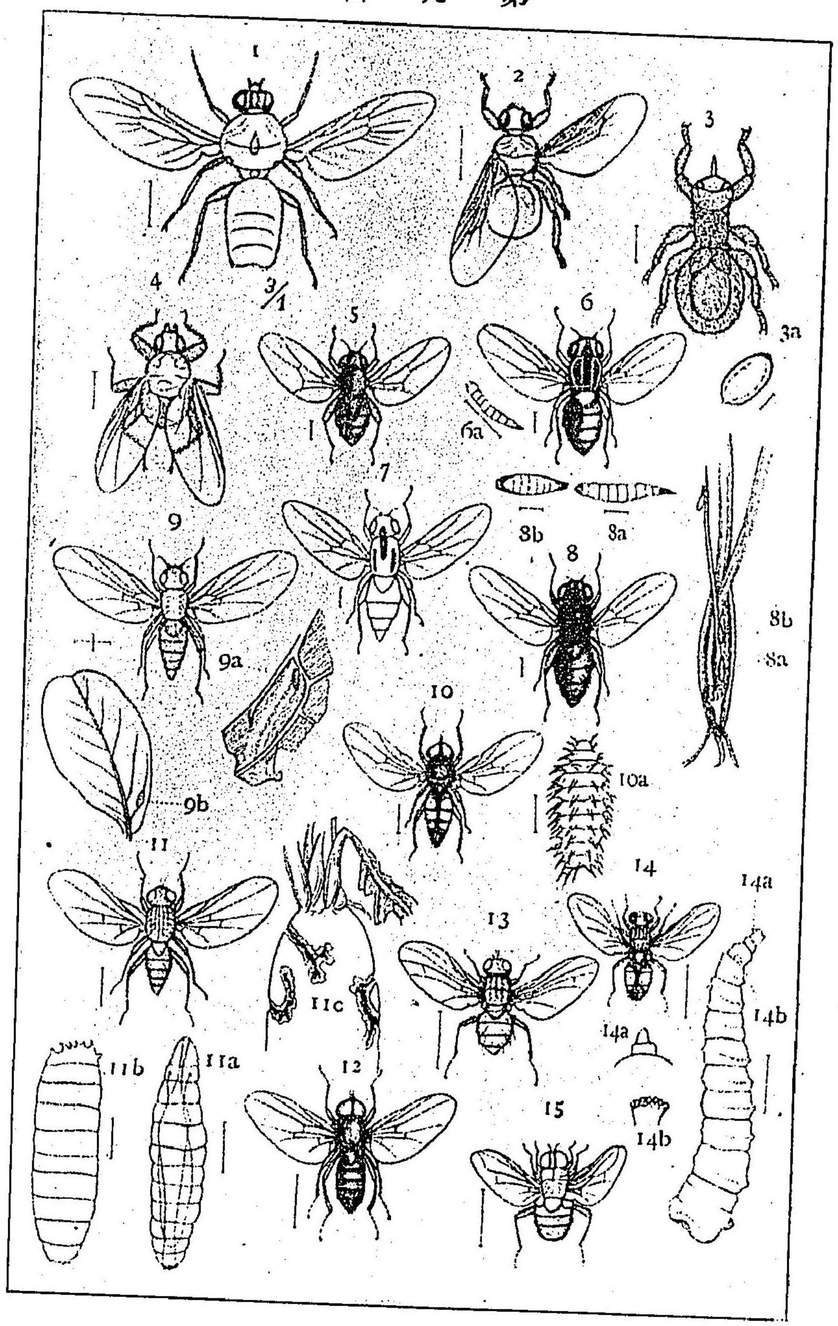
經過 年幾回の發生をなすか判明ならざれども、小笠原島臺灣の如き熱帶地方に產するものなれば、少くも十數回に達すべし、前揭の地方にありては何れの時期にも見得べく、動物性の食物に大害を加ふ、早朝群をなして蜂の如き聲を發す。

(六)くろばい (蒼蠅) Calliphora lata Coq. (第十圖2)

第九圖

1. Hippobosca equina Latr. うましらみばい (P. 48)
2. Hippobosca capensis Olf. いぬしらみばい (P. 49)
3. Melophagus ovinus L. ひつじしらみばい (P. 49)
   a. 蛹
4. Ornithomyia nobatonis Mats. あをばとしらみばい (P. 50)
5. Drosophila obscurus Fall. しやうじやうばい (P. 51)
6. Chlorops circumdata Meig. むぎもぐりばい (P. 51)
   a. 幼蟲
7. Chlorops oryzae Mats. いねきいろはむぐりばい (P. 52)
8. Oscinis oryzaella Mats. いねもぐりばい (P. 53)
   a. 幼蟲 b. 蛹
9. Phytomyza nigricornis Macq. こむぐりばい (P. 54)
   a. 幼蟲 b. 蛹
10. Homalomyia canicularis L. ひめいへばい (P. 54)
   a. 幼蟲
11. Anthomyia flavopicta Mats. だいこんばい (P. 55)
   a. 幼蟲 b. 蛹 c. 被害ノ有樣
12. Ophyra nigra Wied. ひめくろばい (P. 56)
13. Cyrtoneura stabulans Fall. おほいへばい (P. 57)
14. Musca domestica L. いへばい (P. 57)
   a. 幼蟲ノ頭部 b 氣門
15. Lucilia caesar L. きんばい (P. 59)

第九圖



被害物　同前。

特徴　成蟲　灰黑、腹部は藍色、顏は雄黄褐、雌銀白色にして少しく黄色を帶ぶ、口吻鞘は赤褐、觸角は黑褐、第三節の基部は赤褐、前胸の氣門は黄色、脚は黑色、鱗狀瓣灰色、其周圍は白色、體長四分乃至四分五厘。

(ヒ)こくろばい　Calliphora erythrocephala Meig.

特徴　成蟲　前種に酷似すれども遙に小形、顏は赤褐、觸角は黑褐、第三節の基部は灰色、腹部は藍色、背線及び各節の横帶は黑色、體長二分乃至三分五厘。

(ヘ)さしばい　Stomoxys calcitrans L.（第十圖3）

被害動物　人畜、

特徴　成蟲、灰色、頭頂に馬蹄狀の黑紋を裝ふ、顏は黄白色にして金光を放つ、胸背に四個の黑縱條を走らす、腹部は卵形に近く、之に七個乃至九個の大黑紋を散在す、脚は黑色、脛節の基部は赤褐、體長二分乃至二分七厘。

幼蟲　光澤ある乳白色、口部に不等なる二鈎を裝ひ、氣門の周圍は黑褐、尾端の周圍には肉狀の突起多し、體長三分。

經過　年二回の發生をなし、幼蟲の有樣にて、普通馬糞中にありて越年す、第一回

の蠅は五月、第二回は八・九月に互りて現はる、人畜を螫し大害を加ふることあり、殊に牛馬に「ツレバノソーミア」病菌を移殖して大害を與ふ。馬の「フラフラ」病を媒介するを以て注意すべし。

驅除法 林間にありては火繩を携ふべし、蓖麻子油の臭氣は之を驅除し得べし、又家畜房にありては黄昏若くは早朝蠅の靜止する處に除蟲菊の浸汁に「アルボース」石鹼を混じ灌注すべし、又網を以て捕ふべし。

(九)しまばい Sarcophaga carnaria L. (第十圖4)

被害物 肉類。

特徴 成蟲 灰色、顔は光澤ある黄色、頭頂・觸角及び下唇鬚は黑色、眼は赤褐、胸背に五個の黑縱條ありて、兩側にあるものは短し、稜狀部の中央に一個の暗色紋を裝ふ、翅は透明、少しく暗色を帶ぶ、腹部は黑色、各節に四個の灰白紋を裝ふ、鱗狀瓣は白色、脚は黑色、雄にては後脛節に黑色の房狀毛を裝ふ、體長四分五厘乃至五分。

幼蟲 「きんばい」の幼蟲に酷似す、白色にして疣狀突起を散在す、尾端の肛門下に二個の肉狀突起あり、口部の鈎は小にして判然せず、體長三分五厘乃至四分。

經過 年數回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、卵は母體内にて成長し、幼蟲となりて産下せらる、一週間内外にて一代を終る、而して生魚と共に人類の胃腑内に入り大害を加ふることあり。

(一〇)ひめしまばい Sarcophaga melanura Meig.

被害物 同前。

特徴 成蟲 前種に似たれども、形小にして腹部の斑紋は光澤ある淡黄褐、雄の尾端は光澤ある黑色にして灰色の黄紋を裝ふ、雌にては灰色、體長三分七厘乃至四分五厘。

(一一)こしまばい Sarcophaga privigua Rond.

被害物 同前。

特徴 成蟲 「しまばい」に酷似す、形小なれども割合に太し、翅は殆ど透明にして、「しまばい」の如く暗色を帶びず、腹部の斑紋は少しく黄色を帶ぶ、體長三分五厘乃至四分。

(一二)かひこのうじばい Sturmia (Crossocosmia) sericariae Rond.

Tachina cilipes Macq. (第十圖5)

被害動物　家蠶。

特徴　成蟲　體は灰黑、顏は灰白にして銀光を放つ、觸角黑褐、胸背に黑色の五縱條を裝ふ、稜狀部は黃褐、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃褐、鱗狀瓣は白色、雄には腹部の兩側に暗黃の大紋あり、全體剛毛多し、體長四分內外。

幼蟲　體は圓柱形をなし、頭部に向て尖小す、口部に二個の黑色鈎を裝ひ、尾端は截斷狀に終る、橫皺多し、體長六分乃至七分。

經過　年一回の發生、蛹の有樣にて越年す、翌春五月頃羽化し、葉下に二粒乃至三粒の卵子を產下す、一頭の總卵數は六千內外、卵子は普通葉の中肋に沿ひて產下せられ、葉と共に蠶兒の胎內に入る、十分成長すれば蠶體を辭し地下に下りて蛹化す、蛹は黑色なり。

驅除豫防法　蠅は葉上にありて暗を負ふの性あるを以て網を以て捕ふべし、蠶兒の病徵を現はすものは可成別に上簇せしめ、結繭後速に蒸殺して蛆の脫出を防ぐべし。

牛蠅科　Oestridae.

(一)うまばい　Gastrophilus equi F.（第十圖6）

被害動物　馬・牛。

特徴　成蟲　黃褐、頭・觸角・脚及び腹部は黃色、胸背に軟毛を密生し、稜狀部に刷毛狀の長毛を簇生す、翅は灰白半透明、中央の大紋及び翅端の二小紋は暗色なり、各腹部の基部は黃褐、雄にては腹部下方に彎曲し、雌にては最後の二節膝狀に曲折す、體長四分五厘內外。

幼蟲　初めは白色、馬の體內より出てたるときは黃赤色を呈す、前端細く、口に二鈎を裝ふ、體の中央部最も廣く、尾端は截斷狀に終る、各節に二列の棘狀突起列ありて後方に向ふ、體長六分乃至六分五厘。

經過　年一回の發生をなす、九ヶ月乃至十ヶ月間は寄主の體內にあり、蠅は六月より十月に亙りて出づ、成蟲は好んで山の頂上に暗を負ふ、高飛する性あり、雌は七百內外の卵子を馬の體毛に產附す、卵は黃白色にして長さ四厘內外、稍圓柱形にして末端は斜に截斷せられたるが如し、一匹の馬に產附せらるゝ卵數は四百乃至五百、卵子孵化すれば毛間に侵入して皮膚に達し、口鈎を以て孔を穿つ、馬は之が爲めに痒みを覺え、之を舐るに當り幼蟲は舌に附着して口腔內

に入り次て胃腑に達す、後口鈎を以て胃壁に懸り液汁を吸收す、老熟すれば黑色卵形の蛹となり、馬糞と共に體外に出づ。

驅除法 主に放牧せる馬に寄生するものなれば、其驅除豫防困難なり、務めて網を以て蠅を捕へ、又金櫛にて卵子をかき取るべし、幼蟲の胃腑内にあるものを殺すには蓖麻子油を飲ましむべし。

(二)ひつじばい Oestrus ovis L.

被害動物 羊。

特徴 成蟲 體灰黃、黃白及び黑色の斑紋を裝ひ、顆粒狀の突起あり、觸角は黑色、脚は黃褐、翅は透明、脈は黃褐、鱗狀瓣は灰白、體長三分五厘乃至四分。

幼蟲 體は稍〻圓錐形に近く、腹面は平たし、第二節より第十節まで各節の背上に劍狀の横隆起を具へ、其兩側に一双の瘤狀突起あり、又腹面には疣狀突起多し、初めは白色なれども次第に褐色の横紋を有するに至る、體長六分五厘乃至一寸。

經過 年一回の發生をなす、成蟲は七月より十月に亘りて出づ、蠅は胎生兒を鼻孔に產下す、幼蟲は深く鼻孔に入り其内部に寄生するを以て大害を加ふ、約九

ヶ月間にて老熟すれば鼻孔より出て、地上に下りて蛹化す、蛹は六週間にして羽化す、羊の此害蟲に侵さるゝや、鼻孔より一種の分泌液を出だし、頻繁に嚏をなし、同時に呼吸困難の狀を示し、鼻を地上其他種々の物體に摩擦するを以て、容易に其存在を知り得べし。

驅除法 蠅の出づる時期を見計ひ、網を以て捕ふべし、家畜房は可成白色に塗り、以て蠅の存在を知るに容易ならしむべし、蛆の寄生せる徵候を現はす場合には、噬煙草を鼻孔に挿入し、噬の都度共出て來たる幼蟲を殺すべし、砒石劑其他の劇劑を用ふるも蛆は容易に死することなし、蛆の發生夥しくして加害甚だしき場合は、鼻骨を切開して其内の蛆を殺すべし。

(三)うしばい Hypoderma bovis Deg. (第十圖7)

被害動物 牛。

特徴 成蟲 黑色にして軟毛を密生す、顏は灰黃色、胸背に黑色の四縱條を負ひ、横皺の前方に綠黃稀に白色の長毛を簇生す、稜狀部は黃色、後胸背及び腹部は黑色、後者基部の兩側は白色若くは黃色、尾端は赤黃、翅は大にして少しく灰色を帶び、脈は褐色、平均棍は黑褐、體長四分三厘乃至五分。

幼蟲　初めは白色、老熟すれば黑褐にして稍〻梨形を呈し、瘤狀突起多く、又短刺を粗生す、第二節乃至第九節に至る迄各二個の光澤ある疣狀突起を裝ふ、體長七分乃至九分。

經過　年一回の發生をなす、成蟲は七月より九月に亘りて出て、牛の皮膚に產卵す、卵子孵化すれば皮下に蝕入して大害を加ふ、卵子は白色、一端は褐色、長楕圓形にして少しく扁たし、初めは甚だしく加害せざるも、第二齡以後は局部瘤狀に膨れ、其成長と共に瘤も亦大形となり、終に膿化して大害を加ふるに至る、老熟すれば地上に降り蛹化す、蛹は黑色、蛹期は四週間內外。

驅除豫防法　牛の皮膚に蓖麻子油を塗り置くべし、腫物を破りて蛆を除却し、百倍の石炭酸液にて局部を洗滌すべし、蠅は注意して捕獲すべし。

虻科 Tabanidae

(一)ごまふあぶ Haematopota tristis Big. (第十圖8)

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　體は暗褐、眼の上方大半は淡黃褐、下方小部分は黑色、觸角は黑色、第

三節の基部は暗黃褐、顏は灰色、黑色の小點を密布す、小腮鬚は暗黃褐、胸背に三條の灰白線を縱走す、腹部は黑褐、各節の後緣は黃色、翅は暗色、灰色紋を散在す、脚は黑色、脛節の兩端は黃褐、體長三分四厘。

經過　未だ判然せざれども、幼蟲は虻に同じく朽木に棲むものゝ如し。

驅除豫防法　成蟲を捕殺すべし、朽木を取り除くべし、牛馬の場合には蓖麻子油を塗抹し置くべく、林間を旅行するときは火繩を携ふべし。

(二)あかばねごまふあぶ Haematopota rufipennis Big.

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、少しく大にして顏及び小腮鬚は黑色、第三觸角節の基部は赤褐、翅は赤褐を帶ぶ、體長三分五厘。

(三)めくらあぶ Chrysops dispar F. (第十圖9)

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　體は黑色、觸角は黑褐にして長く頭の二倍以上あり、第一節は黃色、頭は黃色、觸角上下の瘤狀突起は光澤ある黑色、胸背に四條の黃線を縱走す、翅は透明、前緣中央の三角紋及び其下方にある小紋は黑色、第一及び第二腹節は

黄色、但し第一節の中央にある二紋は黒色、背線は黄色、脚は黒色、中脛節及び中後の跗節は末端を除き暗黄、體長三分五厘。

經過　未だ判然せず、幼蟲は土中に棲むものゝ如し。

(四)、**くろめくらあぶ**　Chrysops japonicus Wied. (*C. alterinus* Kirby.) (第十圖10)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　全體光澤ある黒色、翅は白色透明にして少しく暗色を帶び、前緣及び中央の大三角紋は黒色、體長三分五厘。

(五)、**ひげながさしあぶ**　Dichelacera japonica Big.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黒褐、觸角は暗黄、末端及び小腮鬚は黒色、白色を裝ふ、腹部は暗黄、基節は赤褐、尾節端は黒色、鱗狀瓣・平均棍及び脛節は暗黄、翅は稍〻透明なり、體長五分。

經過　不詳。

(六)、**こしろふあぶ**　Tabanus annaenus Wk. (*T. trigeminus* Coq.)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は灰黑、複眼は黒褐にして少しく綠色を帶ぶ、顏は灰色、觸角は黒褐、第三節の基部は赤褐、胸背の中央に三個の灰白縱條を走らし、其中央にあるものは細し、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黄褐、前緣は黒褐、鱗狀瓣は暗黄、平均棍は黄色にして末端の大部は黒褐、腹部は黒色、各節の後緣及び三角形の中央紋は灰白、脚は暗黒、脛節は末端を除き黄色、體長(雌雄)五分乃至六分。

(七)、**あかうしあぶ**　Tabanus chrysurus Loew. (第十圖11)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黒褐、頭及び顏は黄色、複眼は暗黒にして少しく綠色を帶び光澤あり、觸角及び小腮鬚は黄色、口吻は黒褐、胸背は中央に二個の黄縱條を走らす、兩側も亦黄色なり、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黄色、腹部は黒褐、各節の後緣は黄色、但し第六節以下は全部黄色、脚は黄色、腿節は末端を除き黒褐、跗節は褐色、體長(雌雄)八分乃至八分五厘、此は最大の虻にして北海道に普通なり。

(八)、**うしあぶ**　Tabanus trigonus Coq. (第十圖12)

被害動物　人畜。

特徴 成蟲 體は灰黑、複眼は黑綠、顏は灰黃、觸角の第一及び第二節は黃褐、第三節は黃色にして末端は黑色、口吻は黑褐、胸背に灰白の五縱條を走らす、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黃褐、前緣脈は褐色、腹部は黑褐、各節の後緣中央の三角紋及び側部は淡黃、脚は黑褐、腿節の末端及び脛節は黃色、體長(雌、雄)八分、中國地方に普通なり、

(九)あかあぶ Tabanus rufidens Big. (第十圖13)

被害動物 人畜。

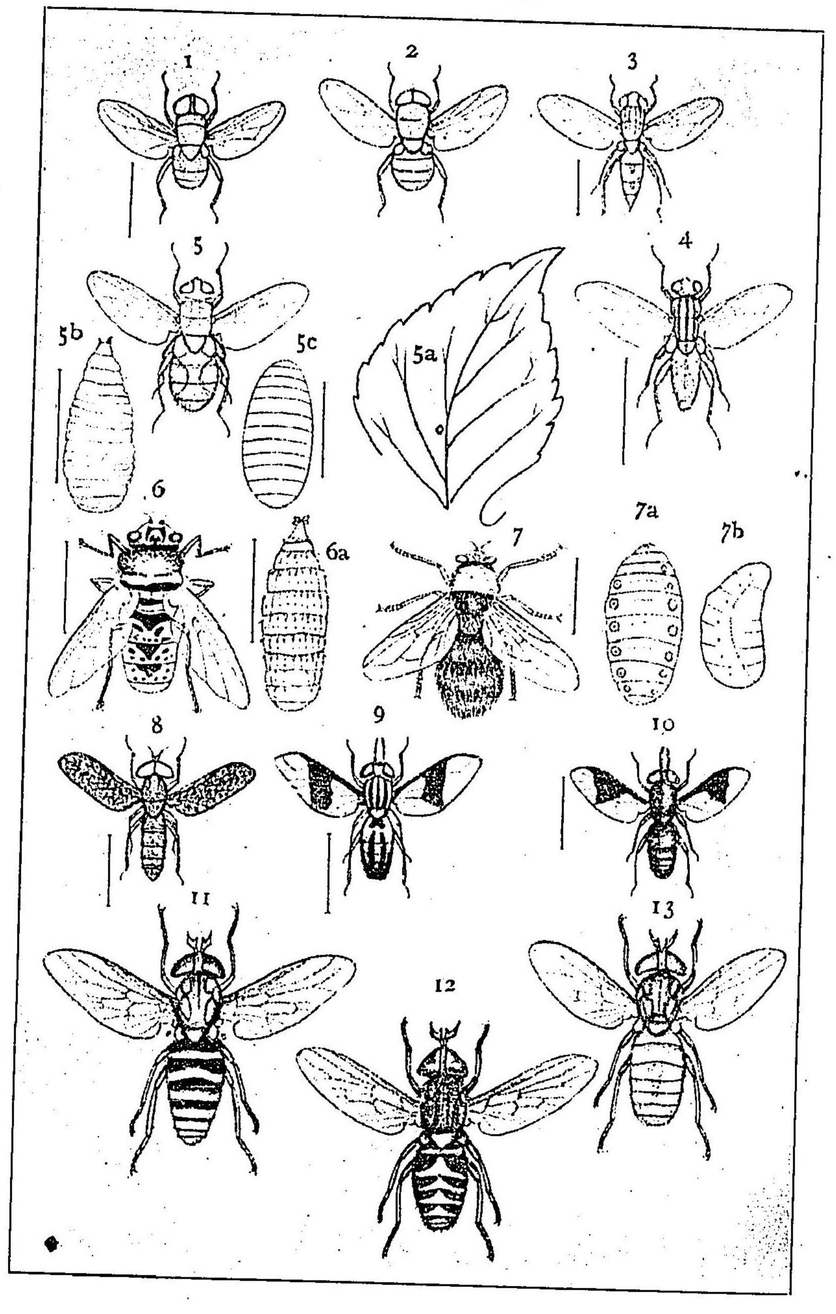
特徴 成蟲 體は暗灰色、灰色の短毛を密生す、複眼は暗黑にして少しく綠色を帶ぶ、顏は淡黃、短毛を密生す、觸角は黃色、第三節は基部及び枝狀突起を除き黃色、口吻は黑褐、胸背には判然せざる三個の暗黑縱條あり、翅は透明にして淡褐を帶び、前緣及び脈は褐色、平均棍は褐色、腹部は赤褐、腹背の中央に黑色の縱條を走らし、其中に更に灰色の判然せざる縱條あり、腹面の中央には黑褐の太き縱條を有すれども尾端に達せず、脚は黑褐、脛節は黃色、體長(雌、雄)七分乃至七分五厘。

(一〇)きばらあぶ Tabanus tropicus Meig.

第拾圖

1. Lucilia dux Esch. をびきんばい (P. 60)
2. Calliphora lata Coq. くろばい (P. 60)
3. Stomoxys calcitrans L. さしばい (P. 61)
4. Sarcophaga carnaria L. しまばい (P. 62)
5. Sturmia (Crossocosmia) sericarine Rond. かいこのうじばい (P. 63)
   a. 卵 b. 幼蟲 c. 蛹
6. Gastrophilus equi F. うまばい (P. 65)
   a. 幼蟲
7. Hypoderma bovis Deg. うしばい (P. 67)
   a. 幼蟲 b. 蛹
8. Haematopota tristis Big. ごまふあぶ (P. 68)
9. Chrysops dispar F. めくらあぶ (P. 69)
10. Chrysops japonicus Wied. くろめくらあぶ (P. 70)
11. Tabanus chrysurus Loew. あかうしあぶ (P. 71)
12. Tabanus trigonus Coq. うしあぶ (P. 71)
13. Tabanus rufidens Big. かあぶ (P. 72)

第拾圖



被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は灰黑、複眼間に光澤ある一個の黑紋あり、觸角は黄色、第三節末端の二分の一若くは三分の二は黑褐、胸背は光澤を有し灰色の三縱條あり、翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ、脈は黄褐、腹部は灰黑、初めの第三・第四節の側面は廣く黄橙色、各節の後緣は細く黄色、脚は黄褐、腿節は末端を除き黑褐、跗節は褐色、體長(雌雄)五分五厘乃至六分、東北地方に普通なり。

(二)きいろあぶ　Tabanus pyrrhus Wk.　(第一圖1)

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黄褐、赤黄の短毛を密生す、複眼に紋條なし、觸角は黄色、小腮鬚は淡黄、口吻は黄褐、胸背には縱條を有せず、翅は透明にして前緣及び脈は黄色、鱗狀瓣及び平均棍は淡黄、腹背は赤黄、中央の短き縱條及び尾端の四節は黑褐、金色の短毛を密生す、脚は黄色、脛節端及び跗節は黑褐、體長(雌雄)四分五厘乃至五分、中國地方に普通なり。

双翅目　水虻科　Stratiomyiidae.

(一)、ひげながみづあぶ Stratiomyia barca Wk. (第十一圖2)

被害植物 苗代の稚稻。

特徴 成蟲 體は黑褐雄の複眼は相密着し、顏に金色の短毛を密生す、雌の後頭及び觸角の上方に各一個の黃色大紋を裝ふ、觸角は黑色にして長く、第三節は大にして紡錘狀をなす、胸背は黑褐、稜狀部に黃色の二棘刺あり、翅は暗色半透明にして脈は黃褐、末端は透明、平均棍は淡黃、腹部は黑色、第一及び第二節の側面幷に第三節の後緣は黃色、尾端の一縱條も亦黃色、脚は黑色、脛節の基部及び跗節は黃色、體長(雌雄)五分、乃至五分五厘。

幼蟲 體は長き紡錘狀、尾端に至るに隨ひ細小となる、暗色にして背上に暗黃色の四縱條を併走す、但し外側にあるものは斷續せり、頭は暗褐にして兩側に弓狀の一縱溝を具へ、其兩側に各一個の單眼あり、尾節は細くして長さ次節に二倍す、體長一寸四五分、俗に之を「なめうじ」と云ふ。

經過 年一回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春泥水其他腐敗水に產卵す、稀に苗代に發生し、苗根を浮上して大害を加ふることあり。

驅除豫防法 早春花上にある蠅を捕獲すべし、苗代にて之を發見したる場合は

水を落し、石炭酸に水を混じ灌注すべし、又石油乳劑の十倍液を注ぐも効あり、又水は時々落して新鮮なるものを入るべし、水腐敗せざれば此害蟲の蕃殖を見ることなし。

長角亞目 Nematocera.

大蚊科 Tipulidae.

(一)、ひめきりうじがゞんぼ Tipula parva Loew. (第十一圖3)

被害植物 稻、麥。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭の中央、前胸、胸側、胸背の細き二縱條、稜狀部及び平均棍は黃色、觸角は淡黃にして末端は少しく暗色を帶ぶ、各節の末端は黑色、二三の剛毛を裝ふ、翅は透明にして少しく暗色を帶び、中央に近く白色の透明紋あり、脈及び緣紋は暗褐、第一及び第二腹節の兩側は淡黃、脚は頗る長く、暗黃、腿節は淡色にして其末端は黑褐、體長三分五厘乃至五分五厘。

幼蟲 體は暗灰色、頭は小にして黑き大腮と觸角とを具へ、圓柱形にして橫皺多く、尾端は截斷狀に終り、其周圍に約十二個の肉狀突起を具へ、中央に二個の

氣門ありて其直下に肛門あり、體長七分五厘。

經過 年二回の發生、普通幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し、六月上旬羽化す、蚊は卵子を苗代に產下す、其數三百內外なり、卵は黑色長楕圓にして一端に三角形の附屬物あり、七月下旬乃至八月上旬蛹化し、約二週間を經て羽化す、其性甚だ遲鈍にして低く飛翔す、幼蟲は粘土濕地又は日蔭を好み、晝間は泥中・地中若くは地物の下に住し、夜に至り稻・麥の根際を嚙み切り大害を加ふ、故に此名あり。

驅除法 蚊は飛翔遲鈍なるを以て、其羽化の時期を見計ひ網を以て捕獲すべし、苗代に蕃殖したる場合は、前述の「ひげながみづあぶ」と同樣の方法を行ふべし、

(二)おほきりうじがゞんぼ Tipula longicauda Mats.

被害植物 稻・麥。

特徵 成蟲 體は灰色、口吻・小腮鬚及び觸角は黃色、第二及び第三節の末端は黑褐、胸背に灰褐の四縱條ありて、中央にあるものは後方に至りて細まる、稜狀部は暗黃、翅は透明にして少しく暗黃を帶び、翅底及び前緣並に緣紋は黃色、脈は褐色、平均棍は黃白、末端の頭狀部は黑褐、腹部は黃色、黑褐の一縱條あり、脚は黃

色、腿節及び脛節の末端並に跗節は黑褐、體長(雌雄)六分五厘乃至八分。

經過 同前。

蚊科 Culicidae.

(一)うすか Culex pallens Coq. (第十一圖4)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 雌の頭は黃褐、口吻黃色、觸角褐色、第一節及び第二節の基部は黃色、胸背は黃褐、側片及び後胸は黃色、稜狀部は灰白、平均棍、腹部及び脚は黃色、但し平均棍の末端は褐色を帶ぶ、翅透明、虹樣の彩色を現はす、雄の雌と異なる重なる點は、其觸角長き旋毛狀を呈し、之に銀白の部分を有するにあり、體長一分五厘乃至二分。

幼蟲 體は暗灰色、頭圓く、二個の單眼を具へ、大腮は割合に大にして內方に曲る、觸角に箒狀毛あり、腹部は大にして尾端に至るに隨ひ次第に細小す、尾節は二個に分れ、各其末端に氣門を開き、其周圍に放線狀の剛毛を裝ふ、體長三分。

經過 年數回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春二百乃至三百の卵子を

溜水若くは潭水に產下す、卵子は罎狀を呈し、互に相固着して船形をなす、數日の後孵化す、幼蟲は動植物性の腐敗物を食ひ、三週間にして約三回の脫皮を終り蛹化す、蛹は活潑にして二個の判然せる角狀突起を裝ひ、其末端に氣門あり、幼蟲の運動する狀恰も棒を振るの觀あるを以て俗に「ぼうふり」と云ふ。

驅除豫防法 幼蟲を驅除するには石油を用ゆ、成蟲の黃昏軒下等に群集せる時期を見計ひ網を以て捕獲するか、又は除蟲菊の粉末を燻蒸すべし、蜻蛉は蚊を食餌となすが故に保護すべし、其幼蟲も亦「ぼうふり」を食とす、「テレビン」油を廣口の罎に入れ、開口したる儘之を室內に置くも効あり。潭水の腐敗する場合には幼蟲の蕃殖する患あるを以て、成るべく新鮮なるものを入れ代ゆるか、然らざれば常に金魚などを入れ置くべし。

(二)くろか Desvoidyia obturbans Wk. (*Culex subalbatus Coq.*)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は暗褐、複眼の後方及び觸角の基部は暗黃、胸背の中央に褐色毛を裝ひ、兩側に白毛を混ず、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は暗褐、同色の鱗狀毛を並列す、平均棍は淡黃、末端は少しく暗色を帶ぶ、腹部は暗褐、脚は暗黑、

後脛節基部の大半は白色、夏日東京地方に普通なり、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

經過 同前。

(三)はまだらか Myzorhynchus (Anopheles) sinensis Wied. (第十一圖5)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は暗灰色、頭小、觸角は細くして暗褐、太さ小腮より短し、胸背には褐色の五縱條を走らし、最も外側にあるものは太し、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃色にして黑褐及び黃色の鱗毛を有し、中央部に近く黑褐色をなせる四五個の鱗毛紋あり、平均棍は灰白、雌の腹部は暗黃、背線は黑褐、雄にては暗褐、金色の長毛及び短毛を混生す、脚は暗黃、跗節の各接合部は黃白なり、體長(雌雄)二分內外。

幼蟲 普通蚊の幼蟲は垂直に浮べども、此類にありては水平に游泳す。

經過 年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、其經過普通蚊と異なることなし、卵子は普通一個宛產下せられ、稍紡錘狀をなす、色は灰黑なり、成蟲の靜止するときは、口吻を前方に突出し、尾端を擧ぐるを以て、容易に識別することを

得べし、此蚊の涎液線中に「プラスモデウム」と稱する下等動物を宿し、其刺螫の都度人類の血液に移り「マラリア」熱病を起す。

驅除豫防法　普通蚊と異なりて、靜止のときは口吻を下方に斜出し、腹端を上方に擧ぐるを以て、容易に區別するを得べし、(播州高砂附近に發生する蚊は大部之なり)普通蚊と同じく黄昏軒、下等に群集する時期を見計ひ網を以て捕獲すべく、幼蟲は普通蚊の幼蟲と異なり、流水に棲息するを以て、注意して掬ひ捕ふべし、又魚を放ちて之れを捕食せしむるも可なり。蜻蛉の幼蟲は好みて之を食す、刺螫せられし場合には、針端にて其局部に穴を穿ち之に石炭酸の五十倍液を注ぐべし。

搖蚊科　Chironomidae.

(一)、ぬかが　Ceratopogon jezoensis Mats.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は暗灰色、觸角黄色、翅は灰白、半透明、緣紋は褐色、其兩側は白色、平均棍は白色、腹面は黄色、體長(雌雄)三厘内外。

幼蟲　未だ判然せざれども、歐洲産のものと同じく樹皮下若くは腐蝕植物下に栖息するもの丶如し。

經過　不明なれども、山間に普通にして、其甚だ微小なるに係らず之に刺螫せら丶ときは甚だしき腫傷を生ず、札幌地方にありては九月頃最も多し。

驅除豫防法　障子には寒冷紗を張り其侵來を防ぐべし、一度室内に入りたるものは除蟲菊の粉末を燻して殺すべし、微小にして認識に苦しめども亦網を以て捕獲し得べし、刺螫せられたる場合は前同樣石炭酸五十倍液を用ふべし、又無臭沃度フォルムを塗抹するも有効なり、燈火に飛來するの性あるを以て誘殺すべし。

(二)、おほぬかが　Ceratopogon arakawae Mats.

被害動物　鷄(人畜?)。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども、形大にして翅は暗色、之に十三四個の白紋あるを以て容易に區別することを得べし、體長五厘。

幼蟲　黄白色、十一節より成り、前半次第に細小し、尾端切斷狀をなす、體長五厘。

經過　未だ判然せざれども、幼蟲は鷄糞中に栖息し、凡二週間位に一代を經過す

るものゝ如し(四國地方にありて)稚鷄に大害を加ふ。

驅除豫防法　室内にありて除蟲菊を燻烟すること、網を以て捕ふること、靜止するものにはアルボース液に五十倍の水を混じて灌注すること、幼蟲は鷄糞中にあるを以て掃除すべし。

(三)いねゆすりか(いねうとか)　Chironomus oryzae Mats.　(第二百七十一圖1・2・3)

被害植物　稻。

特徵　成蟲　體は黑色、雌にては觸角は絲狀をなせども、雄にありては甚だしく羽狀を呈す、翅は暗黃色、體長七厘。

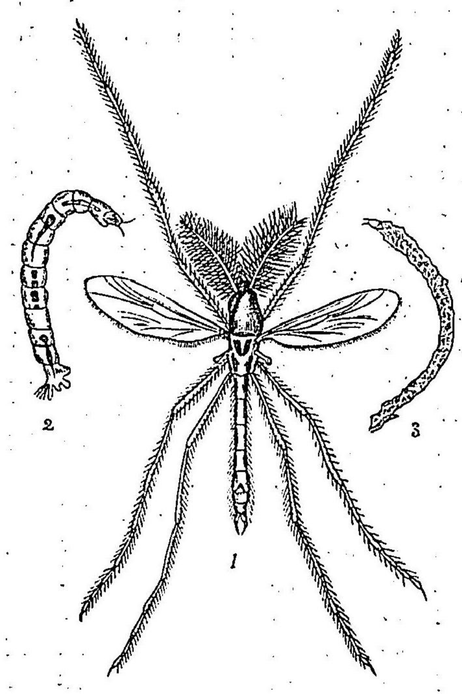
幼蟲　初めは灰色、老熟すれば淡き血色を呈す、頭は褐色にして大腮は甚だしく發達し、四齒あり、尾節(第十二節)に袋狀の四附屬物を具へ、其背上には二本の小突起ありて之より長き硬毛を生ず、體長八厘、常に一分餘の泥筒中に住す。

經過　年四回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春四五月頃水上其他泥地に產卵するものゝ如し、第二回の蚊は六月中旬より七月に亙り、第三回は八月上旬乃至九月、第四回は九月下旬乃至十月下旬、雌の產卵數は百內外、蛹は泥筒中にありて黃色、尾端に長毛を裝ふ、苗代に發生し時に大害を加ふ

ることあり。

驅除法　蚊の發生する時期を見計ひ網を以て捕ふべし、但し群生するの性あるを以て捕殺し易し、幼蟲には石油を用ふべし、一反歩に付苗代なれば八合、本田には一升位の割合。

第二百七十一圖
いねゆすりか
(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 泥筒中にある幼蟲



蚋科　Simuliidae.

(一)きあしぶゆ(ぶよ)　Simulium crassitarsis Macq.　(第十一圖6)

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　體は暗色、金色の短毛多し、觸角は短くして黑色、紡錘狀にして十節より成り、前胸は稍〻球形に膨起す、翅は透明、前緣の三脈は暗黃にして判然すれ

ども、他の脈は淡色にして判然せず、脚は黄褐、雄にては脛節及び跗節膨大す、體長九厘乃至一分二厘。

驅除豫防法 林間を行く場合には西洋蚊帳布を以て袋を造り覆面すべし、火繩を携帶するも亦有効なり、又小川に魚を放ち幼蟲を捕食せしむべく、刺螫せられたる場合には「ぬかが」と同様に石炭酸の五十倍液を塗抹すべし、釣魚家は手袋を用ふるか若しくは蓖麻子油を塗抹するを良しとす。

(二)**あしまだらぶゆ** Simulium colobatezensis Schin.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黑色、黄色の短毛を裝ふ、觸角の基部は黄色、轉節、腿節の基部、脛節の大部(末端を除く)並に第一跗節の基部は白色、平均棍は黄白、他は前種の如し、體長八厘乃至一分。本邦最も普通なる種類にして、何れの地に至るも其發生を見ざるなし、殊に北海道及び樺太に普通なる種類にして、農家に大害を加ふ。

(三)**おほぶゆ** Simulium kawamurae Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黑色、觸角の基部は黄色、前胸背前緣の兩側は黄褐、胸背には金

の短毛を粗生す、光線の工合により前緣及び兩側は白色、翅は透明にして基部は黄色、平均棍は鮮黄色、腹部に暗黄帶あり、脚は黑色、基節、轉節及び腿節の基部は暗黄、脛節及び第一跗節は末端を除き白色、體長一分四厘、九州熊本地方に普通なる種類なり。

(四)**ひめぶゆ** Simulium arakawae Mats.

特徴 成蟲 體は黑色、觸角は短大、脚は黑褐、跗節は暗黄、翅は透明にして前緣の太き脈は暗黄、體長五厘、札幌地方に稀ならざる種類なり。

微翅目 Aphaniptera.

蚤科 Pulicidae.

(一)**のみ(蚤)** Pulex irritans L. (第十一圖7—)

被害動物 人、猿。

特徴 成蟲 體は側扁にして赤褐、頗る光澤あり、觸角、口吻及び脚は淡色、體は後方に傾斜せる剛毛を粗生す、脚は側扁にして大に、後肢は甚だしく發達して跳躍に適す、剛毛多し、體長(雌、雄)三厘五毛乃至九厘。

幼蟲　細長なる圓柱形にして白色、剛毛を粗生す、觸角は短くして二節より成り、口は咀嚼に適す、頭を除き十三節より成り、尾端に二個の尾狀突起を裝ふ、體長一分二厘。

經過　年數回の發生をなす、幼蟲の有樣にて壘下に越年し、翌春蛹化し、次て成蟲となる、蛹は側扁にして尾端に二個の突起を裝ふ、前方の脚鞘は判然す、幼蟲は初めは白色、次第に暗色となり、甚だ活潑なり、塵埃を集めて巢を造り、其内に蛹化す、寒帶及び熱帶には稀なれども、溫帶地方には普通なり。

驅除豫防法　除蟲菊を撒布すべし、壘の下には除蟲菊又は胡桃の葉を挿入し置くべし、壘下は可成清潔になし置くべし。

(二)いぬのみ　Ceratopsyllus canis Deg.

被害動物　人、犬、猫、鼠。(*C. felis Bouch.*)

特徵　成蟲　前種に酷似すれども後頭及び前胸背の前緣に各七個乃至九個の齒狀刺毛を有す、脚は長く、前跗節にては第五節、後跗節にては第一節最も長し、體長八厘乃至一分一厘。

幼蟲　同前。

經過　同前、但し普通蚤の如く甚だしく跳躍せず、猫蚤は從來別種の如く思考せられたれども、近時其同種なること判然せり、此種は又鼠に寄生することあり。

驅除豫防法　除蟲菊をアルボース石鹼水に浸漬し、之を以て洗淨すべし。

(三)いんどのみ　Ctenopsyllus musculi Dug.（第十一圖8）

被害動物　人、鼠。

特徵　成蟲　普通蚤と異なる所は、體甚だしく側扁にして細長きことなり、而して後脛節の刺は一列にして相近接し、頭は稍〻圓錐形に近く、眼を缺き、色は少しく淡色なり、體長六厘乃至七厘、五毛。

幼蟲　未だ判然せざるも、普通蚤と同じく塵埃を食するものならん。

經過　未だ充分の經過を知るを得ざれども、鼠の死後人類に移り來り加害す、若し死鼠より移り來りたるものとせば、其病菌を人類に移植するや明なり、彼のペスト菌の如きは多くは此蚤によりて傳播せらるゝものなり。

驅除法　鼠を驅除すべし、人類に移り來りたるものは、普通の蚤と同じく除蟲菊を用ゆべし。

(四)とりのみ　Xestopsylla gallinacea West.

被害動物 人・猫・犬・馬・家禽等。

特徴 成蟲 普通蚤よりも遙に小形にして形短く、殊に胸部は甚だしく短縮し緊縮あり、下唇鬚及び觸角の第三節に副節なし、小腮鬚は長し、體長五厘。

經過 未だ判然せず、家禽に普通なる種類なれども、時に人畜に移り來り加害することあり、此他左の二種は鼠に寄生するものなるも、往々人類に寄生することあり。

驅除法 油紙若くは油布にて袋を造り、其内に家禽若くは家畜を入れ、後更に青酸加里の二三片を其中に入れ置くべし、然るときは數時間の後全體の蚤を驅除し得べし、但し此袋は頸に縛る樣になすべく、頸以上にある蚤には二硫化炭素若くは除蟲菊「アルボース石鹼水」を加へたるものを塗抹すべし。

(五)ねづみのみ Pulex cheopis Roth.

被害動物 人・鼠。

普通蚤よりは遙に短小なり

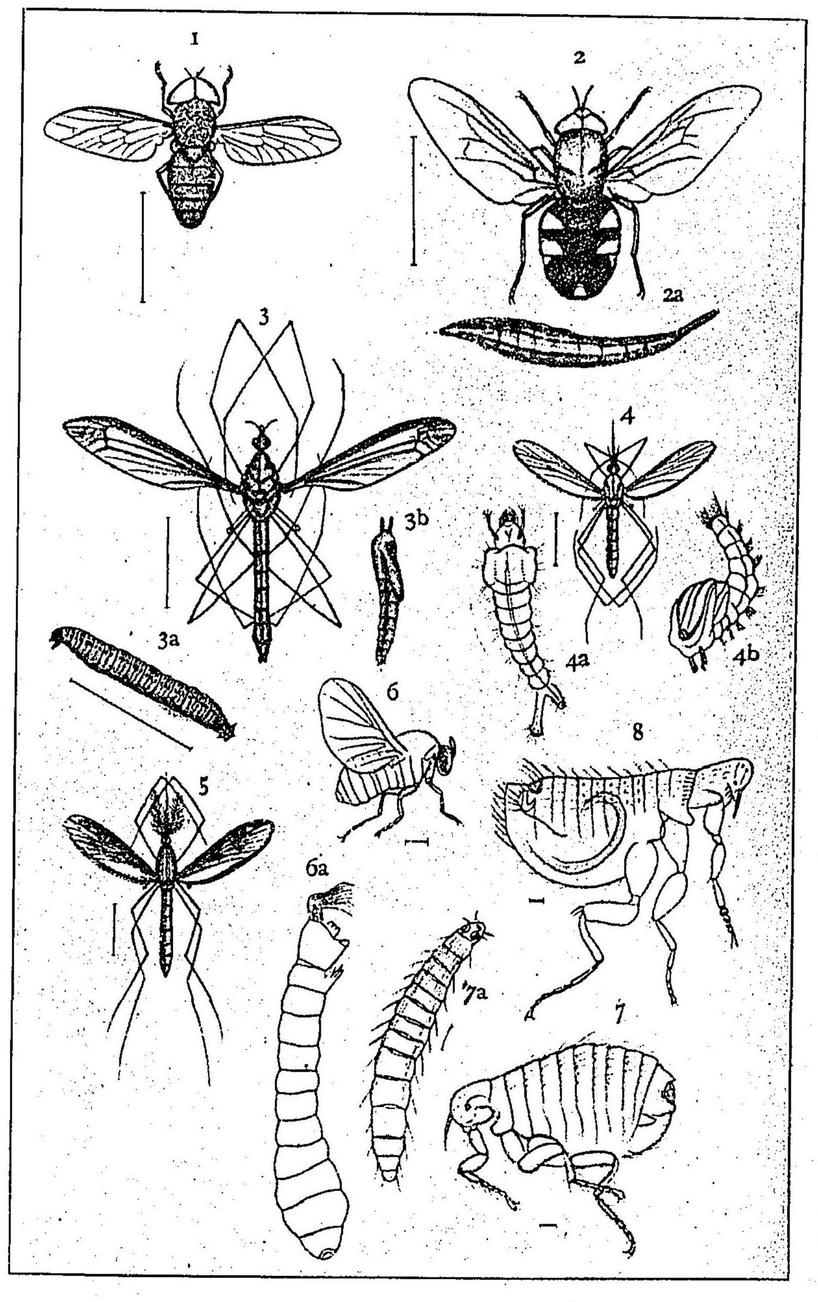
(六)おほねずみのみ Ceratopsyllus fasciatus Bosc.

被害動物 人・鼠。

第拾壹圖

1. Tabanus pyrrhus Wk. きいろあぶ (P. 73)
2. Stratiomyia barca Wk. ひげながみづあぶ (P. 74)
   a. 幼蟲
3. Tipula parva Loew. ひめきりうじかがんぼ (P. 75)
   a. 幼蟲 b. 蛹
4. Culex pallens Coq. うすか (P. 77)
   a. 幼蟲 b. 蛹
5. Myzorhynchus (Anopheles) sinensis Wied. はまだらか (P. 79)
6. Simulium crassitarsis Macq. きあしぶゆ (P. 83)
   a. 幼蟲
7. Pulex irritans L. のみ (P. 85)
   a. 幼蟲
8. Ctenopsyllus musculi Dug. いんどのみ (P. 87)

第拾壹圖



普通蚤よりは遙に大なり。

鞘翅目 Coleoptera.

瓢蟲科 Coccinellidae.

にじゅうやほし(一名てんたうむしだまし) Epilachna 28-maculata Motsch. (第十二圖1)

鞘翅目

被害植物 茄子・馬鈴薯・南瓜・西瓜等。

特徴 成蟲 黄褐、前胸の三紋及び翅鞘の二十八紋は黑色、即ち各翅鞘には2・3・3・3・2・1の六列に排列す、脚及び體下は少しく淡色なり、體長(雌、雄)二分五厘。

幼蟲 灰白、各節に四個乃至六個の分岐せる黑色の刺毛を横列し、其一刺に約十二三の分刺を裝ひ、其分刺には關節あり、頭は灰黑、脚は割合に長く、一個の爪あり。

經過 年一回、稀に二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年す、翌春軟葉を食ひ之に産卵す、卵は黄色、長楕圓形にして兩端細小す、十二三日にて孵化す、一雌の總産卵數は二百内外、卵子より出てたる當時は黄白色、葉綠層を食するを以て網

狀の纖維を殘留す、約三週間にて蛹化す、蛹は黄白色にして頭部に黑紋を裝ふ、物に驚くときは脚の關節より黄色の液汁を滲出す、晩秋に至り軒下朽木下等に入りて越年す。

驅除法 物に驚くときは脚を縮小して地上に落つる性あるを以て、心臟形の網内に拂ひ落すべし、幼蟲には十五倍の石油乳劑を用ふ。

(二)おほにじゆうやほし Epilachna 28-punctata F. (第十二圖2)

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は體の大にして總べて斑紋の遙に大なること、前胸背の三紋は縱に長きこと、體は黑褐なること等なり。體長(雌雄)三分乃至三分五厘。

幼蟲 前種に酷似すれども少しく大なり。

經過 同前。

擬瓢蟲科 Endomycidae.

(一)きいろてんたうむしだまし Saula japonica Gorh. (第十二圖3)

被害植物 樟。

特徴 成蟲 體は黄色乃至黄褐、觸角黑色、基部の三節暗黄、末端の三節太し、頭及び前胸背は黄褐、後者の後兩側は鋭角をなして突出す、兩側に灰色の短毛あり、翅鞘は少しく弓狀に膨起し、灰色の軟毛多く、點刻は細微なるを以て判然せず、脚は黑褐、脛節の基部並に爪は黄褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、年二三回の發生をなすものゝ如し、九州地方にありては四月上旬より現はれ、樟樹の葉を食害す、第二回の成蟲は七月中旬、第三回は八九月出づるものゝ如し、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

金花蟲科 Chrysomeridae.

(一)かめのこはむし Cassida nebulosa L. (第十二圖4)

特徴 成蟲 體は楕圓形、體上は少しく穹狀に膨起し、若きものは灰白、老いたるものは黄褐、體下は光澤ある黑色、前胸背は横楕圓形にして斑紋を缺き、翅鞘には多數の小黑點を散在す、脚は黄色、體長(雌雄)二分五厘内外。

幼蟲　體は黄緑にして平たく、各節の兩側に各一本の太き肉刺を具へ、之に六七個の小刺を裝ふ、小枝には關節を有するものあり、尾端には長き尾狀の附屬物を有し、平時は之を上方に擧げて蟲糞を附着せしめ、以て外患を免るゝもの〻如し、體長三分内外。

經過　年一回の發生をなす、稀に二回の發生をなすことあり、成蟲の儘越年し、翌春甘菜、藜の如き植物に集まりて之を食ひ同時に産卵す、卵子は黄色、長楕圓形にして葉下にありて塊をなす、其成長不整にして大小の幼蟲を混ずるを常とす、數回の脱皮後、葉下に懸垂して蛹化す、蛹は嘗て幼蟲の裝へる脱皮を尾端に附着す、形成蟲に似るも體側に肉樣の突起を有す、前胸背は大、前緣に三個の切目ありて其緣に小刺を列ぬ、蛹期八日内外、甚だしき大害をなさず。

驅除法　同前。

(二)ひめかめのこはむし　Cassida nigroguttata Gorh.（第十二圖5）

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前者に酷似すれども遙に小形なり、前胸背及び翅鞘の兩側は鼈甲樣の黄色、前者の中央にX字形の黑紋を具へ、後者の兩側には甚だしく凹陷せる部分ありて其上に弓狀の太き黑紋及び小黑紋を散在す、縱隆は高く、點刻は大にして深し、脚は黄色、體下は黑色、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

幼蟲　前種に酷似すれども小形なり。

經過　同前。

(三)いねのとげどげ（一名鐵甲龜）　Hispa callicantha Bates.（第十二圖6）

被害植物　稻、甘蔗、粟、稗等。

特徴　成蟲　體は黑藍色、眼、觸角、脚及び體下は黑色、觸角は體の半より長く、末端の棍棒狀をなせる六節は黑褐、前胸背に四分せる指樣の棘狀突起あり、尙其後方に一棘刺あり、翅鞘には點刻多く、各二十内外の棘刺を裝ふ、脚は割合に長く、腿節の末端は赤褐、體長(雌雄)一分五厘内外。

幼蟲　扁平長楕圓形にして白色を呈し、少しく綠色を帶ぶ、淡黄色の太き且低き縱隆起を有し、其兩側には細き數條の縱皺を有す、頭部は細小、第一、二、三の三節は其兩側圓く、他は皆突起を出し、尾節の背上には二つの刺狀突起あり、體長二分内外。

經過　年五回の發生をなし、成蟲の狀態にて越年す、三月上旬より苗代に飛來し

葉の裏面に止まり葉皮を殘して食す、一個宛葉肉內に卵を產下し、其の孵化せる幼蟲は葉肉を食して更に下方に下り約二寸內外に及ぶ頃老熟す、蛹は黃色にして長楕圓形を呈し、前胸背の兩側に短き指樣の四刺あり、又腹部の兩側に小刺を列ね、第五節にあるもの最も大なり、長さ一分六厘、常に稻葉の皮下にあり、臺灣にては有名なる害蟲の一なり。

驅除法　掬網を以て稻葉を掬ひ捕ふべし、幼蟲及び蛹は葉皮下にあるを以て如何なる藥劑を用ふるも効なし、故に一匹宛手にて捕ふるの外なし、但し其幼蟲若くは蛹のある處は白枯せるを以て容易に識別するを得べし。

(四)**かたびろとげどげ**　Hispa suboquadrata Baly.（第十二圖7）

被害植物　櫟、楢及び其他の殼斗科植物。

特徵　成蟲　暗黑色、頭、觸角、前胸背の兩側翅鞘下半部の側緣並に後緣、脚、腹面等は黃色乃至黃褐、前胸背の棘狀突起は黃色にして其突端は黑色、翅鞘には黃褐の斑紋ありて稜狀部の下方にあるものは稍〻X字形をなす、肩部は弓狀に膨脹し、中央の側緣は弓狀に刻らる、側緣の棘狀突起は銳尖なり、鞘上には瘤狀突起及び縱隆起あり、體長一分六七厘。

經過　未だ判然せざれども、成蟲は五六月頃より現はれ櫟、楢其他の殼斗科植物の葉綠層を食す、白色にして稍〻平たし、老熟すれば葉組織內に蛹化すること前種の如し、此害に罹りたるときは葉の表裏共に褐色に變色す、中國及び九州に普通なれども東北地方には稀なり、北海道に產せず。

(五)**だいこのみはむし**　Psylliodes angusticollis Baly.

被害植物　蔬菜類。

特徵　成蟲　體長卵形にして膨起し、地色は黑綠、觸角は暗褐にして體の半に達す、翅鞘には二十餘條の點刻列を縱列し、其列間は殆ど平滑、各脛節は黃褐、後腿節は黑色、體長六厘乃至七厘。

經過　發生の回數未だ判然せざるも、或者は幼蟲の儘越年し、翌春四五月に至りて成蟲となる、植物の稚葉を食ひ、老熟して地中に蛹化す、蛹期は八日乃至十四日間、成蟲は卵子を一個宛葉下に產附し、之より孵化せる幼蟲は葉柄若くは葉脈に潛入して食害す、性甚だ活潑にして、早天に於て其害殊に甚だしく、人之に近づけば忽ち跳躍す。

驅除法　日中は殊に跳躍するの性盛なるを以て、鳥黏に四五割の魚油若くは種

油を混煮せるものを用ひて捕ふべし、早朝夜露の未だ乾かざる前心臟形の受網の内に落し適宜に殺すべし、亞砒酸銅(綠色砒石)或は亞砒酸鉛に百倍の澱粉を混じ、散粉器を以て撒布すれば甚だ有効なり。

(六)**おほだいこのみはむし** Psylliodes punctifrons Baly. (第十二圖8)

被害植物 蔬菜類律草(カナムグラ)。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども稍〻大にして色は濃綠、頭小さく、觸角は暗黃、基節及び脚は黃色、翅鞘の點刻列間に小點刻を密布す、後腿節は甚だしく膨大し黑色を帶ぶ、體長一分。

經過 前種に同じ。

驅除法 同前。

(七)**むぎのみはむし** Chaetocnema cylindrica Baly. (第十二圖9)

被害植物 麥類。

特徴 成蟲 體卵形に近く、光澤ある黑綠色を帶ぶ、觸角暗黑、其基部にある四節及び脚は黃褐、後肢の腿節は甚だ膨大し、黑褐なり、體長八厘乃至九厘。

經過 未だ判然せざれども、早春麥類を害すること大なり。

驅除法 同前。

(八)**むぎのるりのみはむし** Chaetocnema japonicum Jac.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども翅鞘は美麗なる青藍色、觸角は暗黑にして其基節の三四節は黃色、頭及び前胸背に點刻多し、脚は黃色にして腿節は黑褐、體長八厘。

經過 未だ判然せざれども前種に混じて麥の稚葉を食害す、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

(九)**くはのみはむし** Phyllotreta funesta Baly. (第十二圖10)

被害植物 桑。

特徴 成蟲 體は光澤ある黑色、脚は黑褐、觸角の基部に於ける三節及び跗節は赤褐、眼大、前胸背の中央に顆粒狀の小突起と小點刻とあり、兩側にも亦各一個の小突起を裝ふ、翅鞘は前胸より少しく廣く、兩側は稍〻平行し、小點刻を散在す、體長一分乃至一分三厘。

經過 未だ判然せざるも、早春より現はれ稚葉を食害すること大なり、秋田地方

にありて其害大なり、じやうかいぼんは好んで之を捕食す。

驅除法　同前。

(10)きすぢのみはむし　Phyllotreta sinuata Redt.（第十二圖2）

被害植物　蘿蔔・蕪菁・蔓菜其他の十字科植物。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色、頭は前胸よりも小、頭頂に點刻なく額には少數の點刻を具ふ、觸角は絲狀、基節の二三節は暗黃褐、末端は大なり、翅鞘の兩側に各一條の廣き黃色線を裝ひ、其翅底に近き一端は稍〻靴形をなして膨大し、他の一端は少しく內方に曲る、後腿節は膨大す、脛節の基部及び跗節は黃褐、何れも灰白の短毛を粗生す、體長八厘。

幼蟲　形細長にして稍〻圓柱形、尾端細し、色は黃白、頭、第一節及び尾節の硬皮板は暗褐、各節に瘤狀の小突起ありて之より各一本の短毛を生ず、脚は三双、尾脚あれども小なり。

經過　年四五回の發生をなす、成蟲の有樣にて土塊若くは落葉下に越年し、翌春野生十字科植物の葉下に一個宛の卵子を產下す、之より孵化せる幼蟲は其處に一代を終りて成蟲となり、直ちに培養植物に來りて食害するもの〻如し、卵

は葉下の脈に沿うて產附せらる、卵期十日內外、幼蟲は孵化後葉下に潛入して葉綠層を食ふ、凡一週間にて老熟し、地下一寸七八分の處に入りて蛹化す、蛹は裸蛹にして暗黃、蛹期は凡十五日間、普通一代の經過に凡一ヶ月を要す、幼蟲は加害甚だしからざるも成蟲は稚葉を食害すること猖獗なり、殊に旱天に於て然りとす、其性雨露を嫌忌し、日中は性活潑にして盛に跳躍す。

驅除法　同前。

(11)あゐのみはむし　Crepidodera chloris Foudr.（第十二圖12）

被害植物　藍・甘菜。

特徴　成蟲　體は長卵形、光澤ある黑色、觸角黑色、基部の二三節は黃褐、頭は褐色、點刻を有せず、但だ複眼の內側に二三個の小點刻を有す、前胸背には點刻多く、基部には橫溝ありて其終末に各一條の縱溝あり、翅鞘は前胸より廣く、點刻の縱列を連ね、脚は黑色、脛節及び跗節は黃褐、體長七厘乃至九厘。

經過　未だ判然せざるも早春甘菜及び藍畑に現はれ稚葉を食害す。

驅除法　同前。

(12)むぎながのみはむし　Crepidodera japonica Baly.

被害植物　麥類。

特徴　成蟲　體は長楕圓形にして光澤ある黑綠、觸角は黑色にして基部の三四節は黃褐、頭及び前胸背には點刻多く、後者基部の兩側は凹陷し、更に其兩側に短縱溝あり、翅鞘は前胸より少しく廣く、殆ど相平行し、點刻を縱列す、脚は黑褐、脛節及び跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過　早春麥圃に現はれ、稚葉を食し、時に大害を加ふることあり。

驅除法　同前。

(三)**あさのみはむし**　Haltica flavicornis Baly.（第十二圖13）

被害植物　大麻。

特徴　成蟲　體は長卵形にして黑色、少しく綠色を帶ぶ、觸角は黃白、末端は黃褐頭は小にして點刻なく、前胸背には點刻多く、基部には淺溝を橫走す、翅鞘は前胸より廣く、之に不規則なる點刻列あり、體長七厘。

經過　未だ判然せざれども、恐らくは他の植物に卵子を產下するものならんか。

驅除法　同前。

(四)**かみなりはむし**　Haltica coerulescens Baly.

被害植物　赤楊・柳・白楊・稻。

特徴　成蟲　體は黑藍色、頭及び觸角は黑色、第一觸角節の兩端は黃褐、前胸背には點刻を缺き、頗る光澤を有し、後緣に近く一橫溝を裝ふ、翅鞘には點刻多し、然れども劃然たる縱列をなさず、脚及び體下は黑色、後腿節は肥大し跳躍に適す、體長一分五厘乃至二分。

經過　未だ判然せざれども、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は六月上旬、第二回は八月、第三回は九月、臺灣及び沖繩地方にありては年數回の發生をなすものゝ如し、沖繩にありては三月頃より現はれ、幼蟲は葉上にありて葉を食ひ、老熟すれば地中に入りて蛹化す、葉上にありて跳躍する音盛なるを以て此名あり。

(五)**すぢかみなりはむし**　Haltica lateriicostata Jac.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども其異なる主點を擧ぐれば左の如し。

一、翅鞘上にある點刻は微小にして甚だしく判然せず。

二、翅鞘の兩側(前緣)に各一條の縱隆ありて其末端は稍〻翅端に達す。

三、觸角第一節の兩端は黄褐ならず。

四、少しく小形なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過　未だ判然せざれども前種と同樣なるべし、臺灣及び沖繩に産せず、本邦には普通にして前種よりも一層多し。

(六)**こかみなりはむし**　Haltica viridicyanea Baly.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　體は藍色、觸角、稜狀部、脚及び體下は黑色、但し個種により前胸背の黑色なるものあり、翅鞘の點刻は「かみなりはむし」に酷似すれども一層小形なり、體長一分二厘。

經過　不明なれども柳に普通なる種類にして、五月頃より十月迄加害あり、跳躍する性は前種と異ならず。

(七)**くははむし**　Aenidia armata Baly.（第十二圖14）

被害植物　桑苹樹。

特徴　成蟲　形細長、體は黑色、翅鞘は光澤ある黑綠、顏、觸角、其基部の下面、前肢の腿節端、脛節及び跗節は暗黄、觸角は長くして體長の半を超え、暗色を帶ぶ、前胸

背は光澤ある黑藍色、中央に横溝を具へ、別に短淺の縱溝ありて前者と十字形をなす、翅鞘は長方形、稜狀部は黑色、肩部には少しく瘤狀をなせる部分あり、其成熟せるものにありては雌の腹部膨大し尾節を翅鞘端より露出す、體長二分乃至二分三厘。

經過　未だ分明ならざれども蛹の有樣にて地中に越年し、翌春五六月に至り羽化するもの〻如し、其害甚だしからず、性遲鈍にして動搖すれば脚を縮小して地上に落つ、

驅除法　朝露の未だ乾かざる早朝、樹上の成蟲を受網内に落して殺すべし。

附言　拙著害蟲目錄に此學名を Luperus impressicollis Motsch. となせるは誤なり、爰に之を訂正す。

(八)**ふたすぢひめはむし**　Monoleptha nigrobilineata Motsch.

被害植物　荳科植物、稻、甘蔗。

特徴　成蟲　體黄色、頭は黄褐大點刻を裝ふ、觸角は黄褐、絲狀にして體長の半を超え、前胸背は稍〻卵形に近く、翅鞘は胸背より遙に廣く、中央に各一條の黑線を縱走すれども翅端に達せず、體長一分乃至一分二厘。

經過　未だ判然せざれども早春豆科植物殊に大豆の子葉を出せる頃より現はれ、葉面に圓形の孔を穿ちて食害す、臺灣地方にありて稻・甘蔗を害することあれども、其害大ならず、札幌地方に稀なれども、東北地方には多し。

(元)ほたるはむし(一名あゐのうらむし)　Monolepta dichroa Har

被害植物　藍草・棉・蔬菜。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色、口部は褐色、頭・前胸背及び觸角の基部は黃色、觸角は暗褐、翅鞘は隆起し微小の點刻あれども判明ならず且つ縱列をなさず、脚は暗褐、腿節の末端及び脛節の基部は黃色、體長一分二厘乃至一分五厘。

之に變種ありて var. apicipennis Jac. と云ふ、原種と異なる所は翅鞘端の黃色を呈するにあり、本邦にては變種の方多し。

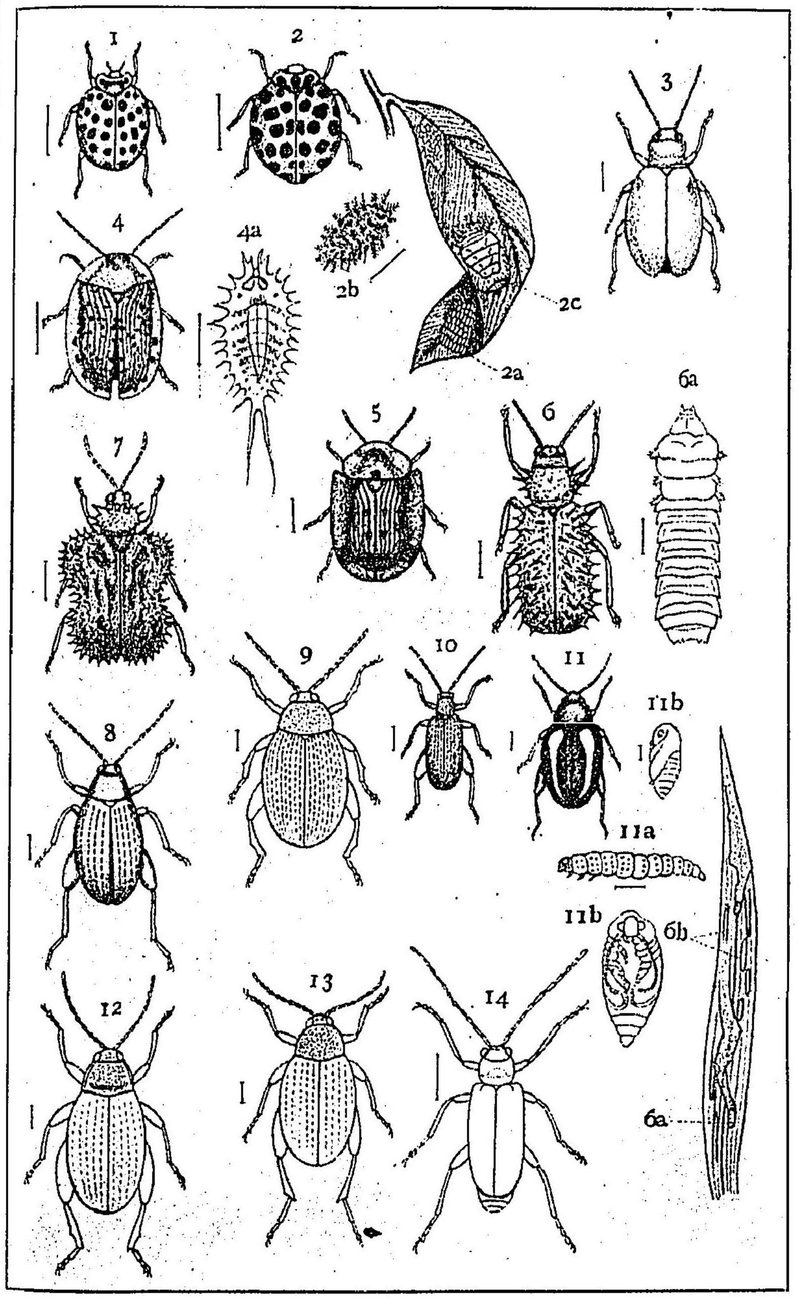
經過　年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年す、第一回は六月中旬乃至下旬、第二回は九月乃至十月、蔬菜其他作物の葉を食ひ、葉面に多數の小孔を穿つ。

幼蟲は常に葉の裏面にあるを以て「うらむし」の名あり、五月下旬蛹となり、次で羽化す、第二回の幼蟲は七月中旬に至りて蛹化す、廣く本邦に播布す。

第拾貳圖

1. Epilachna 28—maculata Motsch.　にじゆうやほし (P. 89)
2. Epilachna 28—punctata F.　おほにじゆうやほし (P. 90)
   a. 卵　b. 幼蟲　b. 蛹
3. Saula japonica Gorh.　きいろてんとうむしだまし (P. 90)
4. Cassida nebulosa L.　かめのこはむし (P. 91)
   a. 幼蟲
5. Cassida nigroguttata Gorh.　ひめかめのこはむし (P. 92)
6. Hispa callicantha Bates.　いねのとげとげ (一名鐵甲龜) (P. 93)
   a. 幼蟲　b. 成蟲加害の狀況
7. Hispa subquadrata Baly.　かたびろとげとげ (P. 94)
8. Psylliodes punctifrons Baly.　おほだいこのみはむし (P. 96)
9. Chaetocnema cylindrica Baly.　むぎのみはむし (P. 96)
10. Phyllotreta funesta Baly.　くはのみはむし (P. 97)
11. Phyllotreta sinuata Redt.　きすぢのみはむし (P. 98)
    a. 幼蟲　b. 蛹
12. Crepidodera chloris Fondr.　あいのみはむし (P. 99)
13. Haltica flavicornis Baly.　あさのみはむし (P. 100)
14. Aenidia armata Baly.　くははむし (P. 102)

第拾貳圖



（第十三圖1）

驅除法　同前。

(三〇)りんごはむし（はんのきはむし）Agelastica alni L. var. cerulea Motsch.

被害植物　苹樹・梨・櫻・桑・赤楊。

特徴　成蟲　地色は紫藍色若くは綠藍色、觸角、稜狀部・腔節及び跗節は黑色、頭頂には圓形の凹陷せる部分あり、觸角は長くして體の半に達す、前胸背は稍〻隆起す、稜狀部は三角形、翅鞘は前胸より廣く、尾端に至るに隨ひ增大す、脚及び觸角には灰黃の短毛を密生す、爪の兩內側に太き疣狀突起あり、體長二分三厘乃至二分五厘。

翅鞘目

幼蟲　黑色、長楕圓形にして扁く、光線の工合にて少しく綠色を帶ぶ、體下は灰黃、頭及び第一節の硬皮板幷に各節に於ける疣狀突起は光澤ある黑色、各背上の突起は長くして橫置せらる、胸部は他節より大きく其兩側膨起し、之に黃色の剛毛數本を生ず、各腹節の兩側も亦膨起し、其中央には各橫溝を具へ、尾端は截斷狀に終る、全體黃色の剛毛多し、脚は三双、黑色にして割合に長く、爪は赤褐にして彎曲す。

經過　年二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、早春出てゝ稚葉を食害す、交

尾後は雌の腹部膨大し尾節は翅鞘端より露出するに至る、卵子は黄色、長楕圓にして二十八星に同じく一塊をなし、葉上に産下せらる、幼蟲は網狀に葉を食害す、札幌地方にて其最も食害する時期は八月上旬なり、四週間内外にして老熟し、食葉を辭して地中に入り、繭様の土窩を造りて其内に蛹化す、蛹は淡黄、大凡二週間にして羽化す、羽化せしものは再び食害を始め、降霜と共に潛伏處を求め爰に越年す、其性遲鈍なり。

驅除法 同前。

(三)くろうりはむしもどき Luperodes nigripennis Motsch.

被害植物 十字科植物・壹科植物・薄荷。

特徴 成蟲 黑色、頭及び前胸背は暗黄、雄にては翅鞘の基部稍圓形をなして暗黄、雌にては翅鞘の全部黑色、觸角の基部は暗黄、體長一分六厘乃至二分五厘。

經過 未だ判然せざれども年一回の發生をなし、卵の有様にて越年するものゝ如し、幼蟲は五月中旬頃より現はれ葉を食害す、老熟すれば地中に入り土窩を造り其内に蛹化す、蛹は約一週間を經て羽化す、成蟲は幼蟲と同じく葉を食ひ大害を加ふ、樺太地方にありては十字科植物を害すること大なりと云ふ、うり

はむしもどき Luperodes discrepens Baly.(第十三圖19)は定めて前種と同種なるべし、試驗の結果によれば暗黄色の翅鞘を有するものと黑色の翅鞘を有するものとあり、而して黑色の翅鞘を有するものは「くろうりはむしもどき」と毫も異なる所あるを見ず、拙著害蟲目錄第六十三頁に Luperodes pallidulus Baly.(たいこのとびはむし)とあるは「うりはむしもどき」の誤なれば爰に訂正す。

(三)あとぼしはむし Aulacophora angulicollis Motsch. (第十三圖2)

被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は淡黄、頭は小にして黄褐、複眼は黑色、前胸背は方形に近く、後緣に接して一條の横溝を有す、翅鞘は淡黄にして小點刻を密布す、翅底内緣に沿うて左右各一個の黑紋を有し、翅を疊むときは合して一紋となる、前緣は黑色、前外緣に近く各一個の大なる黑紋を有す、此紋は外緣の黑線と相接合す、體長一分八厘。

(三)うりはむし(瓜守) Aulacophora femoralis Motsch. (第十三圖3)

被害植物 西瓜・南瓜・胡瓜等。

特徴 成蟲 黄褐にして光澤を有し、眼・上唇・腹部及び中後の兩肢は黑色、觸角及

び前肢の脛節並びに跗節は暗褐なり、觸角絲狀、眼は割合に大にして突出し、前胸背は略正方形にして横溝を有す、翅鞘は前胸より廣く後方に至るに隨ひ膨大す、全面微小の點刻を密布す、雌は黑色の產卵管を具へ、雄の尾節は黃色なり、體長二分四厘乃至二分六厘。

幼蟲　黃色、頭は褐色、圓柱形にして長く、短毛を粗生す、尾端は圓錐形をなして細小なり、脚は三双、體長三分五厘。

經過　年一回發生し、成蟲の有樣にて越年す、幼蟲は地中に在りて根を食害し、翌春出でて葉を網狀に蠶食す、性甚だ活潑にして、外敵に遇へば直ちに飛翔す、日中は地上に落ちて死狀を擬すること少し、七月頃最も猖獗を極む、卵は圓形橙黃色にして根邊若くは地表に產せられ、約三週間にして孵化す、幼蟲期は一ヶ月乃至二ヶ月、廣く全國に分布す。

驅除法　同前。

(二四)**くろうりはむし**(くろうりばい)　Aulacophora nigripennis Motsch.　(第十三圖4)

被害植物　同前。

特徵　成蟲　頭及び前胸は黃色、前胸背には横溝あり、眼、胸片及び脚は黑色、翅鞘は光澤ある黑藍色、體長二分三厘乃至二分五厘。

經過　前種と同じく地中にありて幼蟲期を經過するもの丶如し、成蟲は前種より遲鈍にして其數少く隨つて其害も亦大ならず。

驅除法　同前。

(二五)**いちごはむし**　Galerucella distincta Baly.　(第十三圖5)

被害植物　西洋苺。

特徵　成蟲　暗黃にして短き灰毛を密生す、形は長楕圓形、腹部、頭頂、觸角、基部を除く及び稜狀部は黑色、脚は黃褐、跗節は暗色を帶ぶ、前胸背の中央は三角形に隆起し、其兩側は凹陷す、尙其前緣及び後緣角に各一個の疣狀突起あり、翅鞘は稍〻長方形にして前胸より廣く、之に小點刻を密布す、其兩側に暗色の一縱線ありて基節より起り殆んど翅端に達す、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過　未だ判然せざれども五月中旬より苺圃に出て其葉面を食害す、其害大ならず。

驅除法　同前。

(二六)**やなぎるりはむし**　Plagiodera distincta Baly.

被害植物　草棉・白楊・赤楊。

特徴　成蟲　體は綠藍色、觸角は暗褐、基部は黃褐、脚は暗綠、腿節及び脛節の末端並に跗節は褐色、爪は黃色、前胸背に點刻を缺く、翅鞘には點刻を密布すれども縱溝を有せず、肩部に瘤樣の突起ありて其外方に縱溝あり、體長一分五厘。

「だいこはむし」に酷似すれども、後腿節の膨大せざること及び翅鞘にある點刻の縱列をなさゞること等により容易に區別するを得べし。

經過　未だ判然せず、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は五六月、第二回は七八月、第三回は九十月、幼蟲は黃色にして黑色の疣狀突起を裝ふ、成蟲幼蟲共に葉を食ひ網狀の纖維を殘留す。

(二七)だいこはむし　Phaedon brassicae Baly.（第十三圖6）

被害植物　羅蔔・蕪菁・雲薹其他十字科植物。

特徴　成蟲　體は略半球狀、頭は小、前胸背と共に點刻を密布す、觸角は黑色、額片は五角形をなす、前胸は少しく膨起し、幅は其長さの約二倍あり、後緣は廣し、翅鞘は隆起し、之に十六條の點刻縱線を並列す、尾節に黃色の部分あり、體長一分二厘乃至一分四厘。

幼蟲　體細長扁平にして黑色、各節に六個乃至八個の疣狀紋あり、背上にあるものは長くして横置せられ、之より各褐色の剛毛一、二本を生ず、各節の左右は膨起し、環節の縱皺は多少緊縮す、脚は黑色、體下は灰黃、體長二分內外。

經過　年三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春出てゝ蔬菜類の葉を網狀に食害す、卵は黃色楕圓形、成蟲は葉柄若くは葉面の表皮を破りて一顆宛產卵し、後巧に其上を被ふも表面乾枯するため其局部黑色を呈す、幼蟲の孵化したるものゝ初めは灰色なれども脫皮する每に黑色を增す、三回の脫皮を終へ老熟すれば地中に入り土窩を造り其內に蛹化す、蛹は淡黃、頭・觸角・脚・翅等は判然せり。

驅除法　同前。

(二八)ひめだいこはむし　Phaedon incertum Baly.

被害植物　同前。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども其異なる所は第一着色の綠藍なること、第二前胸背に於ける點刻の小なることおよび其中央に於ける點刻數の少きこと、第三、前胸後緣角の前種より鋭角をなせること、第四、稜狀部の半楕圓形をなせ

ること等なり、但し雌にありては稜狀部に殆んど點刻なし、體長一分乃至一分四厘。

幼蟲　前種と異ならず。

經過　同前。

驅除法　同前。

(二九)**ふぢはむし**　Phytodecta rubripennis Baly.（第十三圖7）

被害植物　藤。

特徴　成蟲　形前種に似たれども、頭胸は黑色、點刻を密布す、翅鞘赤褐にして膨起し、九條の點刻列を縱走す、稜狀部、體下及び脚は黑色、體長一分五厘乃至二分。

驅除法　同前。

(三〇)**とほしはむし**　Phytodecta gracilicornis Kraatz.（第十三圖8）

被害植物　柳・白楊・赤楊。

特徴　成蟲　雄にては體は光澤ある黑色、前胸背は稍〻四角形、兩側に大なる點刻を粗布す、翅鞘は黃色乃至赤色、各翅に五個の黑紋を裝ひ、尾端に近き二紋は普通相癒着して鈎狀をなす、九條の點刻ある縱溝あり、間室には微小の點刻あれども判然せず、觸角は割合に細く、基部の大半は黃色、脚は黑色、腿節端は黑褐、脛節の大部及び跗節は黃褐、雌は黃色、斑紋は判然す、體長二分乃至二分五厘。

經過　五月下旬より現はれ、柳・白楊・赤楊等の葉を網狀に食害す、經過未だ判然せず。

(三一)**どろのきはむし**（どろはむし）　Melasoma populi L.（第十三圖9）

被害植物　白楊・柳。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑藍色、觸角及び兩鬚は黑色、前胸背は兩側に各一條の縱溝を具へ、粗大の點刻を裝ふ、翅鞘は赤黃點刻を密布し、四五條の縱溝あれども判然せず、體下及び脚は黑藍色、跗節は黑色、體長三分五厘。

(三二)**るりはむし**　Melasoma aenea L.（第十三圖10）

被害植物　柳・白楊・赤楊・樺。

特徴　成蟲　體は光澤ある金綠色若くは黑藍色、觸角は黑色、前胸背より少しく長し、頭及び前胸背に點刻を裝ひ、後者は四角形に近く、稍〻平たし、翅鞘には點刻多く、三四條の縱溝あれども判然せず、脚は黑色、光線の工合にて綠色を現はす、體長二分五厘。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春交尾後葉下に黄白の卵子を產下す、一雌の總產數は約百四五十、凡一週間にして孵化す、幼蟲は黄白にして黑色の疣狀突起を裝ふ、約三週間にして老熟し次て葉上に蛹化す、第一回の成蟲は八月下旬乃至九月上旬現はる。

(三)**やなぎはむし**　Melasoma vigintipunctata Scop.（第十三圖11）

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　體は黑藍色、觸角は胸部より少しく長く、棍棒狀にして尖端の半部は黑褐、殘部は黄色、頭は黑色、中央少しく凹陷す、前胸背は少しく黑色にして平たく、兩側は黄色、各翅鞘に十個乃至十一個黑色の縱紋を裝ひ、其中或ものは縱に相癒合す、接合部は細くして黑色、脚は黄色、腿節端は黑藍色、尤も種類により腿節の大部黑藍色なるものあり、體長二分六厘。

經過　未だ判然せず、成蟲は七月上旬發生す、其數多からず。

(四)**はくかはむし**　Chrysomela guttata Gebl.（第十三圖12）

被害植物　薄荷。

特徵　成蟲　體上は黑紫色、體下及び脚は光澤ある紫藍色、觸角は割合に短く、末端は暗黑にして棍棒狀をなし、少しく平たし、前胸背は略〻四角形、前緣及び後緣角は鋭角をなして突出す、翅鞘は穹狀に膨起し、之に平滑なる十條の點紋列を裝ひ、全面に小點刻を密布す、腹面には短き灰白毛を粗生し、跗節には灰褐の軟毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。

(五)**よもぎはむし**　Chrysomela aurichalcea Gebl.

被害植物　菊、其他の菊科植物。

特徵　成蟲　體は黑藍色、觸角、體下及び脚は黑綠、觸角は體の半以上に達し、棍棒狀をなす、頭及び前胸背に少しく點刻を密布す、前胸背は稍〻穹狀に膨大し、前緣角は鋭角をなす、稜狀部割合大にして、其基部に點刻を裝ひ、末端は褐色、翅鞘は點刻を密布すれども判然せる縱列をなさず、溝を缺き、間室は平滑なり、體長二分內外。

經過　未だ明ならず、恐くは菊科植物殊に艾（ヨモギ）の根部を食するものなるべし、成蟲の有樣にて越年し、翌春艾に普通なれども亦菊の葉を食害することあり。

(六)**ばらるりはむし**　Cryptocephalus approximatus Baly.（第十三圖13）

被害植物　薔薇、李、樹梨及び其他薔薇科植物、はしばみ。

特徴 成蟲 體は光澤ある黑藍色、觸角は體より遙かに長くして黑色、基部の四節は黄色、頭は下方に向ひ、前頭は黄色、顆粒多し、頭頂は黑色にして少しく藍色を帶ぶ、前胸背は穹狀に膨起し頗る光澤を存し、點刻は微小なるを以て判然せず、稜狀部は少しく突出し、點刻なし、翅鞘は粗大の點刻縱列を裝ひ、之は稍〻溝をなせども判然せず、脚は黑褐、腿節の基部及び前脛節は黄色、前肢は發達して長し、體長一分五厘内外。

經過 未だ判然せざれども成蟲は五月上旬より現はれ、薔薇及び其他同科植物の葉を食害す、青森以南には普通なれども、未だ北海道に於て捕獲したることなし。

(三二)くろほしはむし Cryptocephalus 6-punctata L. (第十三圖14)

被害植物 苹樹・薔薇・檜樺。

特徴 成蟲 體は黄褐、體下及び頭は黑色、頭の中央にある一點は黄褐、觸角は黑色、基部の三四節は黄色、前胸背は雄にては大部黑色、前緣及び兩側は黄褐、雌にては黄褐、兩側にある括弧樣の紋及び稜狀部上の短縱線は黑色、翅鞘に六個の黑紋あり、其中四個は一列をなして前列に位し、二個は稍〻大にして後列にあり、

脚は黑色、腿節末端は内方に黄白の一紋を裝ふ、體長二分五厘乃至三分。

經過 前種に同じく未だ判然せず、成蟲は四月下旬より現はれ、薔薇科及び殼斗科植物の葉を食害す、中國・九州地方には普通なれども、東北地方及び北海道には產せざるが如し。

(三三)きぼしるりはむし Gynandrophthalma aurita F. (第十三圖15)

被害植物 柳・樺。

特徴 成蟲 體は黑色、脚及び前胸背の兩側は黄色、觸角は黑褐、基部の四節は黄色、頭は光澤ある黑綠色、複眼間に一凹陷を裝ひ縮刻を有す、前胸背は黑色、點刻を缺く、稜狀部は光澤ある黑色、點刻を有せずして少しく膨起す、翅鞘は暗青色、光澤を帶び、點刻を密布す、體長二分乃至三分。

經過 未だ判然せず、五月乃至六月頃より現はれ、柳・樺等の葉を食害す、其數甚だ多からず。

(三四)ぶどうさるはむし Eumolpus obscurus L. (*E. vitis F.*) (第十三圖16)

被害植物 葡萄・蔦。

特徴 成蟲 暗黑、頭は平たくして前胸下に隱れ上方より見ること能はず、觸角

は長く、末端の四節大にして、基部は赤褐、前胸は稍〻球形にして黑色、小黑點を密布す、翅鞘は赤褐、前胸より廣く、肩部突出し、鞘上は少しく凹陷し、十六條の暗色縱線を有し、全面小點刻を裝ふ、脛節の全部及び腿節は赤褐、體長一分六厘。

經過 未だ分明ならざれども、幼蟲は地中にありて根を食害するものゝ如し、成蟲は六月頃現はる、葡萄の新芽及び嫩葉を食ひ大害を加ふることあり。

驅除法 同前。

(四〇)、**りんどのこふきはむし** Leprotes pulverulentus Jac. (第十三圖17)

被害植物 苹樹。

特徵 成蟲 體は暗黑觸角は長くして暗褐、基部の三節は黃色、上唇及び兩鬚は黃色、頭には顆粒を密布し、中央に一縱溝あり、前胸背は圓柱形にして細く、頭に同じく顆粒を密布す、翅鞘は廣くして點刻列を縱走す、各翅に二條の縱溝あり、灰色の短毛を密生す、脚は黑褐、脛節端及び跗節は黃褐、體に白鱗を裝ふ、體長二分五厘。

(四一)、**かさはらはむし** Demotina decorata Baly. (第十三圖18)

被害植物 桑。

特徵 成蟲 體は黃褐、頭は光澤あり、眼は黑くして突出し、觸角は長く、末端の四節少しく膨大す、前胸は圓柱形、前後の兩緣細く、背上には小刻點を散在し、中央に隆條を裝ふ、翅鞘は長方形にして前胸より廣く、肩部は少しく隆起し、點刻の縱線を並行す、全面灰白の短毛を裝ふ、脚は割合に長くして黃色、爪は少しく赤色を帶ぶ、體長一分二厘。

經過 判然せざれども六月上旬より現はれて桑芽を食ひ大害を加ふることあり、之に抵觸するときは脚を縮小して落下す。

驅除法 同前。

附言 從來此の害蟲に Xanthonia placida の學名を用ひ來りたれども、誤謬なるを以て玆に訂正す。

(四二)、**いもさるはむし** Chrysochus chinensis Baly. (第十四圖1)

被害植物 甘藷。

特徵 成蟲 黑銅色、頭は下方に向ひ、觸角は體の半以上に達し、初めの三四節は暗褐、頭及び前胸背の點刻は翅鞘にあるものよりも遙に相近接す、腿節は何れも棍棒狀に膨大す、體長(雌雄)二分內外。

幼蟲　白色、頭は淡褐、横皺多く、細毛を粗生す、脚の爪は黑褐、體長三分。

經過　年一回發生、幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し、次て成蟲となる、成蟲は沖繩及び臺灣地方にては五月中旬より七月下旬に亙りて現はる、葉莖を食ひ大害を加ふることあり、幼蟲は土中にありて球根の表面に寄食す、老熟すれば土中五寸乃至一尺の處に蛹化す、沖繩及び臺灣地方に普通なるものにして、時に大害を加ふることあり。

(四三)**こいもさるはむし**　Chrysochus pretiosus F.

被害植物　甘藷。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども其異なる要點は第一、形少しく小なること、第二、色澤に青色、青藍色、黑銅色の諸色あること、第三、前胸背の小なること、第四、前胸背の點刻遙に小形なること等なり、體長一分六厘乃至二分。

經過　同前。

(四四)**あかがねさるはむし**　Acrothinium gaschkewitschi Motsch.（第十四圖2）

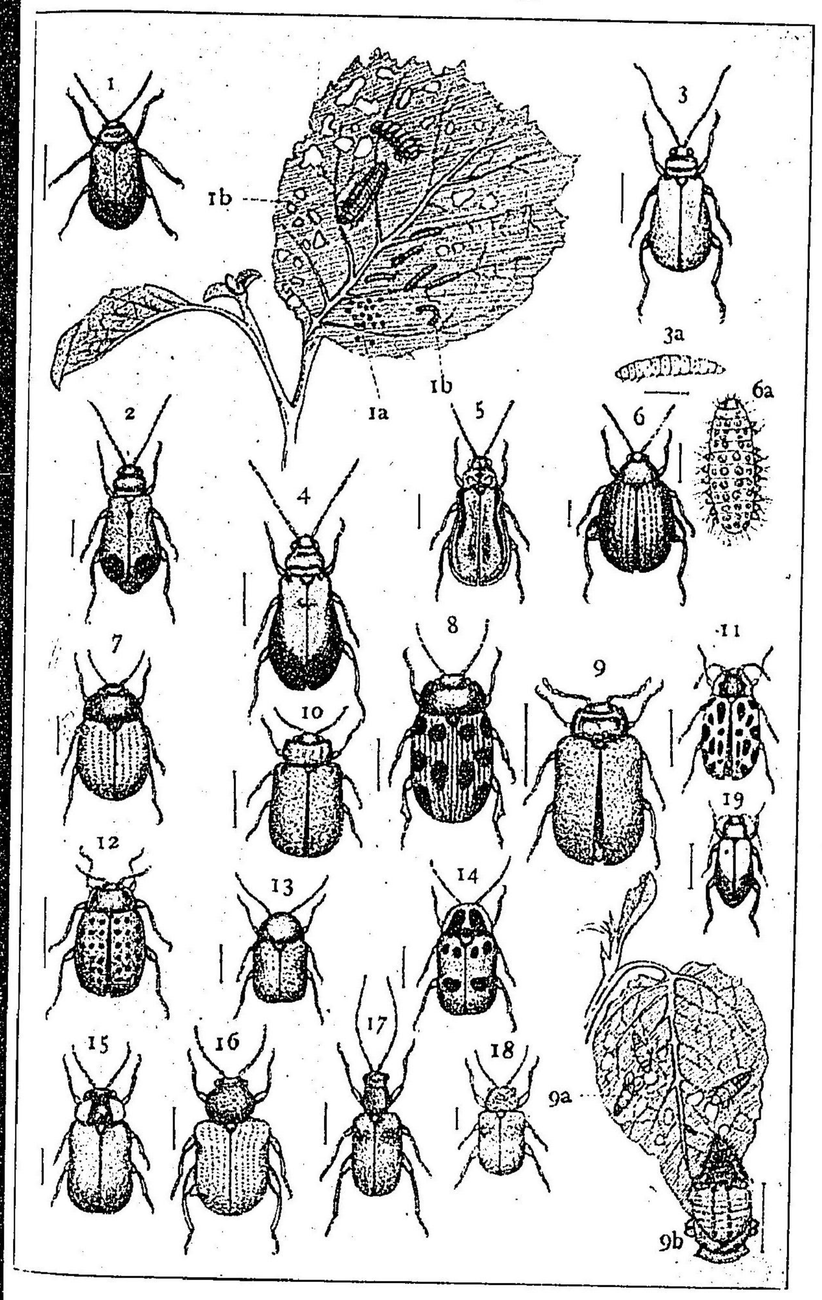
被害植物　葡萄。

特徴　成蟲　體は光澤ある金綠色、觸角は黑色、基部の一二節は黃褐、頭は前胸下

第拾參圖

1. Agelastica alni L. var. coerulea Motsch.　りんごはむし (P. 105)
   a. 卵　b. 幼蟲
2. Aulacophora angulicollis Motsch.　あとぼしはむし (P. 107)
3. Aulacophora femoralis Motsch.　うりはむし(瓜守) (P. 107)
   a. 幼蟲
4. Aulacophora nigripennis Motsch.　くろうりはむし (P. 108)
5. Galerucella distincta Baly.　いちごはむし (P. 109)
6. Phaedon brassicae Baly.　だいこはむし (P. 110)
   a. 幼蟲
7. Phytodecta rubripennis Baly.　ふぢはむし (P. 112)
8. Phytodecta gracilicornis Kraatz.　とほしはむし (P. 112)
9. Melasoma populi L.　どろのきはむし (P. 113)
   a. 幼蟲　b. 蛹
10. Melasoma aenea L.　るりはむし (P. 113)
11. Melasoma vigintipunctata Scop.　やなぎはむし (P. 114)
12. Chrysomela guttata Gebl.　はくかはむし (P. 114)
13. Cryptocephalus approximatus Baly.　ばらるりはむし (P. 115)
14. Cryptocephalus 6—punctata L.　くろぼしはむし (P. 116)
15. Gynandrophthalma aurita F.　きぼしるりはむし (P. 117)
16. Eumolpus vitis F.　ぶだうさるはむし (P. 117)
17. Leprotes pulverulentus Jac.　りんごのこふきはむし (P. 11)
18. Demotina decorata Baly.　かさはらはむし (P. 118)
19. Luperodes discrepens Baly.　うりはむしもどき (P. 107)

第拾參圖



に入りて唯前頭のみを見得べし、前胸背は稍〻圓柱形をなし、點刻を粗布し、灰白の短毛を粗生す、翅鞘は光澤ある赤銅色にして周圍綠色、大なる點刻の縱列あれども溝は判然せず、脚は黑色、腿節は黑藍色、前肢は發達して長し、體長二分五厘。

經過 未だ判然せず、成蟲は五月上旬より現はれ葡萄の葉を食害す、新潟地方にありては其害大なりと云ふ、臺灣地方にありては三四月頃より現はる、幼蟲は地中に棲息するもの〻如し。

翅鞘目

(四)いねどろはむし(泥負蟲) Lema tristis Herbst. (*Lema flavipes Suff.*) (第十四圖4)

被害植物 稻。

特徵 成蟲 形細長、頭、觸角及び眼は黑色、頭は光澤を帶び、觸角の基節は黃褐、胸部は黃色或は黃褐、稍〻圓柱形をなし、後方少しく縊る、翅鞘は青藍色にして點刻を縱列す、肩部には各一個の深き切目あり、體下黑色、脚黃色、又は黃褐、脛節の一部及び跗節は暗色、體長一分五厘乃至一分八厘。

幼蟲 體暗黃褐、稍〻西洋梨形をなし、第五、第六節最も膨起す、頭は黑色、體上に蟲糞を負ふ、此蟲の肛門は殆んど腹背と平行せるを以て之より出づる蟲糞は自

然腹背に集まり、其葉上にあるときは恰も小土塊の觀をなす、各節には六個乃至二十二個の黑色の疣狀突起ありて、初めの三節にあるものは一列をなせども第四節以下にあるものは二列に横走す、何れも一本の短毛を生ず、脚は三双にして黑褐なり、體長二分内外。

經過 年二三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春五六月出て〻苗代に集まり產卵す、卵子は二週間内外にて孵化す、幼蟲は葉脈に沿ひて縱に葉綠層を食ひ表皮を殘留するを以て、被害葉は平行せる數條の白線となる、六月下旬葉上に綿樣の灰白楕圓形の繭を作り其内に蛹化す、蛹は黄色、楕圓形にして兩端細小す、觸角、翅鞘等判然せり、七月上旬乃至中旬羽化す、第二回より其經過不規則にして、或ものは八月中旬に出て、或ものは九月上旬現はる、第三回は九月下旬乃至十月上旬なり、但し札幌地方にては年二回の發生をなす。

驅除法 稻葉の表裏に附着せる土塊樣のものは多くは其幼蟲なるを以て、掬網を以て捕殺すべし、其繭も亦發見するに難からず、成蟲も亦網にて捕殺すべし。

(四二)すげはむし(一名おほねくひはむし) Donacia simplex F. (第十四圖4)

被害植物 稻・莎草。

特徵 成蟲 體細長、頭は小、頭頂に一個の縱溝を有す、複眼は黑色にして割合に大、觸角は黑色にして絲狀、前胸は長方形にして中央に一縱溝あり、翅鞘は金綠色にして胸部より廣く、點刻列を縱走す、腹部は銀白の短毛を以て被はれ、後腿節には微小なる突起を有す、體長二分五厘。

驅除法 成蟲は莎草・蛭藻に棲息するを以て網を以て捕ふべし、又產卵せんが爲め苗代又は本田に來る成蟲を搜索すべし。

(四三)ねくひはむし Donacia lenzi Schönf. (第十四圖5)

被害植物 稻・蛭藻・莎草。

特徵 成蟲 體綠褐、頭小、頭頂に一縱溝あり、複眼は黑色、前胸背は稍〻正方形、中央に一縱溝あり、其前緣角は少しく突起す、翅鞘の背面は平坦にして小點刻を縱列し、肩部は尖り、翅端は切斷狀をなして終り尾節を蔽はず、腹部は銀白色、脚は黄色、後腿節に一突起あり、其外側に黑斑を有す、體長二分内外。

幼蟲 體は長形にして兩端細小す、體上は球狀に膨起し、體下は稍〻平たし、頭は小、尾端に爪樣の附屬物あり、地色は灰白、暗黑の短毛を粗生す、體長二分。

經過 幼蟲は六月より八月に亘りて稻根を食害すれども、成蟲は稻葉に來るこ

となく蛭藻の葉を食ふ、日中は性活潑にして、人之に近づけば忽ち飛散す。

驅除法　同前。

天牛科　Cerambycidae.

(一)るりかみきり　Chreonoma fortunei Thoms.（第十四圖6）

被害植物　梅・杏・李。

特徴　成蟲　體は橙黄色、頭は前胸より稍〻幅廣く、複眼及び觸角は黑色、後者は少しく褐色を帶び、其長さ體長に等し、第一節は長く、第二節は短し、前胸は圓柱形、前緣及び後緣に各一條の横溝あり、翅鞘は光澤ある黑藍色にして不規則の點刻を密布す、脚は短かくして橙黄色、暗色の軟毛を裝ふ、體長三分四厘内外。

幼蟲　黄色、頭は黄褐、老熟すれば四五分に達す。

經過　年一回の發生、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化するもの〻如し、成蟲は五月下旬乃至六月上旬現出す、初めは葉裏の中肋を食ひ、交尾後は幹に孔を穿ち其内に一粒の卵子を産下す、卵は黄白、長さ五厘、數日の後孵化す、初めは表皮を食ひ、次第に皮下に侵入す。

(二)りんごかみきり　Oberea japonica Thunb.（第十四圖7）

被害植物　苹樹。

特徴　成蟲　體は橙黄色、頭、觸角及び腹部の末端は黑色、頭部に粗糙の點刻を散在し、中央に一縱溝あり、前胸に微細の點刻と軟毛を密布す、翅鞘は細長にして、翅底は橙黄色、其他は暗色、中央少しく黄色を帶び、黑色の點刻縱列を具へ、後脛節の末端は稍〻暗色を呈す、體長五分五厘乃至六分。

幼蟲　初めは淡黄にして光澤を有し、成長すれば淡褐となる、頭は長方形にして鋭き大腮を具へ、第一節は大にして平たく、尾端に至るに隨ひて細小す、體長一寸。

經過　成蟲は六七月頃現はれ、嫩枝の外皮を破り木質部に穿孔し、各一個の長楕圓卵子を其内に納め、後前の外皮を以て巧に之を覆ふ、幼蟲は數日の後孵化し、下部より梢上に向ふて食害するの傾あり、嫩枝の髓部を食ふを以て、其局部は枯死し大害を被ることあり、八月下旬に老熟し、次て蛹化す、蛹は淡黄、其儘越年し、翌春羽化す、被害樹枝は褐色の蟲糞を直下の葉上に堆積するを以て容易に其存在を認め得べし。

(三)、**きくすゐかみきり**　Phytoecia ventralis Chevr.（第十四圖8）

被害植物　菊。

特徴　成蟲　全體暗黑、少しく藍色を混ず、頭、胸及び翅鞘に點刻及び短毛を密布す、觸角は暗黑にして體長を越ゆ、頭頂に一縱溝あれども判然せず、前胸背には赤色の楕圓紋あり、各腿節は濃黃色、末端の數腹節は黃色、體長三分內外。

幼蟲　體は黃白、前種の幼蟲に酷似す、體長五六分。

經過　五六月頃菊科植物の莖幹を切斷して大害を加ふ、白色長楕圓形の卵子を一個宛縱に莖中に產下し、之より孵化せる幼蟲は莖中を上下するがため植物を枯死せしむ、秋季老熟し、次で蛹化して其儘越年し翌春羽化す。

(四)、**あさかみきり**　Thyestes gebleri Fald.（第十四圖9）

被害植物　大麻。

特徴　成蟲　體は暗色、灰白の微毛を密生す、頭頂に一縱溝あり、觸角は體と同長、第三節以下の各節端は黑色、前胸は圓柱形、背上に灰黃の三縱條を裝ひ、稜狀部は灰黃、翅鞘の基部に點刻を有し、他部に短毛を密生す、其接合部及び前緣の大半は灰黃、體長雄四分、雌四分五厘乃至五分。

(五)、**ごまだらかみきり**　Mesosa japonica Bat.（第十四圖10）、

被害植物　苹樹、漆、楡。

特徴　成蟲　體は黑色、顆粒狀の點刻を密布す、頭頂に一縱溝あり、其兩側に各一列の黃色毛を列す、觸角の第一節は大にして黑色、第二節は小にして葡萄色を呈す、以下の各節は灰白と葡萄色との斑をなす、前胸背は稍〻正方形、中央に一縱溝と其兩側に黃色斑を有す、翅鞘は前胸よりも遙に廣く、顆粒及び黃斑を散在し、其中後方に近き黃斑は波狀をなす、脚は黑色、各脛節に二個の黃色紋を裝ふ、體長雄四分、雌四分五厘內外。

(六)、**くはかみきり**　Apriona rugicollis Chevr.（第十四圖11）

被害植物　桑、柑橘類、無花果。

特徴　成蟲　體は暗綠、黃毛を裝ふ、頭頂は隆起し、中央に一縱溝あり、複眼は腎臟形、黑色にして少しく紫赤色の光澤を帶ぶ、觸角は體より長く、基節及び各節の末端は黑色、前胸背に橫皺多く、兩側に各一個の棘狀突起あり、翅鞘の基部には黑色の顆粒多く、肩部は突起す、翅端は截斷狀をなし、之より二小刺を出だす、脚は細長、灰白毛を裝ひ、腹部に黃褐毛を密生す、體長雄一寸二分、雌一寸六分。

幼蟲　體は乳白色、少しく黄色を帶ぶ、頭は略ぼ長方形にして平たく、前頭の周圍は黑褐、黑褐の鋭き大腮を有す(第一節は膨大し其氣門は殊に大なり、第二及び第三節は短く、尾節に至るに隨ひ長さを增す、第五節以下の背腹節に瘤狀二突起ありて樹幹の隧道を上下するに便ならしむ、全體黄褐の短毛を粗生す、體長二寸六分内外。

經過　成蟲は八月頃現はれ、樹枝樹幹に孔を穿ちて其内に卵子を藏む、一孔に產下する卵數は七八個を普通とす、一雌の總產卵數は百數十、卵子は白色、長楕圓にして、長徑七八厘、孔は樹皮を以て被はるれども容易に看破することを得べし、其性濕氣を忌むを以て、可成樹液少なき老木を好むの傾あり、產卵の際は其個所より二三寸下方を切斷し樹液の上昇を防ぐ、幼蟲期は約三ヶ年、孵化當時は樹皮下の形成層を食害し、翌年に至り材質部に入る、卵形の大孔を穿ち、之より褐色の蟲糞を排泄す、常に上方に向ひ縱孔を造りて食害す、全く老熟すれば孔内に木屑を集め其内に蛹化す、蛹は黄白、既に成蟲の具有せる觸角及び脚を認め得べし。

(七)**しろすぢかみきり**　Batocera lineolata Chevr.（第十五圖1）

被害植物　枇杷・櫟・椎。

特徵　成蟲　體は灰黑、微細の黄毛を以て被はる、頭頂は膨起し、其中央より顏に亘りて細き一縱溝あり、觸角間は凹陷す、複眼は黑色、額片の下部は瑪瑙色、上唇には四個の剛毛塊を有す、大腮は大にして光澤ある黑色、複眼の後方に一條の太き白條あり、前胸には横皺多く、中央に微細の一縱線を具べ、其兩側に各一個の白斑と棘狀突起とを裝ひ、其下方に各一條の白線あり、稜狀部は白色、翅鞘の基部に黑色の顆粒を密布し、肩部に一刺を出だし、中央には不正の白斑を散在す、中後の兩胸側は白色、各脛節の末端には天鵞絨樣の毛塊あり、體長一寸七分。

幼蟲　前種に酷似すれども遙に大なり、完熟したるものは長さ二寸四分餘、脚は細長にして三節より成る、一本の褐色爪を裝ふ。

經過　同前。

(八)**のこぎりかみきり**　Prionus insularis Motsch.（第十五圖2）

被害植物　松・杉・檜・楡。

特徵　成蟲　體は黑褐、觸角・兩鬚・體下及び脚は黄褐、觸角は兩鋸齒狀にして第三節最も長大、前胸兩側に各三個の齒狀突起ありて中央にあるものは大なり、粗

に點刻を裝ふ、稜狀部稍〻五角形、亦少しく點刻あり、翅鞘は粗糙にして三個の判然せざる大なる縱溝を具へ、縮刻多し、胸下に黃褐の短毛を密生す、體長八分乃至一寸三分。

經過 未だ判然せず、三四年を經て一回の發生をなすものゝ如し、樹幹に產卵せる幼蟲は孵化して材質部に蠹入し食害す、幼蟲は他の天牛と異ならず、黃白にして第一二節は甚だしく膨大し稍〻平たし、頭には褐色の銳齒を裝ふ、其數多しと雖も、多く朽木を食するを以て大害なし、廣く本邦に分布す。

(九)うすばかみきり Aegosoma sinicum Whit. (第十五圖3)

被害植物 白楊・柳。

特徵 成蟲 體は暗褐、頭は中央にて深く凹陷す、上唇に金色毛を密生す、觸角は絲狀にして大に雌にては體の三分の二に達す、前胸背は廣底四角形にして顆粒多く、兩側に棘刺なし、翅鞘に四條の縱隆を具へ、初めの二條は末端に近く合して一條となり、外側の一條は中央より分岐して二條となり、末端に至りて更に相合す、體下及び脚は赤褐、體長一寸一分乃至一寸四分。

經過 此も亦前種の如く經過判然せず、兩三年を經て一回の成蟲を生ずるもの

の如し、成蟲は七月下旬乃至八月上旬に發生するもの多し、白楊の樹幹に蠹入し其材質部を食害すること他の天牛と異ならず、其數多きを以て大害を加ふ、廣く本邦に播布す。

(一〇)くろかみきり Spondylis buprestoides L. (第十四圖12)

被害植物 松・杉・檜・樅等。

特徵 成蟲 體は黑色、長楕圓形、大腮は發達して大なり、觸角は短くして纔かに翅底に達するに過ぎず、前胸背は稍〻球形にして相癒合せる粗大の點刻及び縮刻を粗布す、翅鞘にも亦同樣の縮刻あり、何れも光澤を帶ぶ、後者には二條の判然せる縱條あり、體下は黑褐、體長六分乃至七分。

經過 未だ判然せざれども「のこぎりかみきり」と同樣の經過をなすものゝ如し、其數多からざるを以て甚だしく有害ならざるべし、形狀は一見吉丁蟲に似たる所より其學名あり、九州地方にありては十月上旬發生するもの多し、此幼蟲の他の天牛の幼蟲と異なる所は、頭の突出(大腮の突出)せると、脚割合に長きとにあり、前硬皮板には點刻多く、後硬皮板には顆粒多し、尾節には稍〻圓錐形の二突起あり。

(二)**さびかみきり** Criocephalus rusticus L. (第十四圖13)

被害植物 松・杉・檜。

特徴 成蟲 體は暗褐、少しく平たし、黄色の短毛を密生す、觸角は體より短く、柄節は大にして棍棒狀をなす、兩鬚は黄色、頭の中央に細き縱溝を具へ、前胸背は稍〻圓形、中央に一縱溝を裝ひ、二三個の凹陷あれども甚だしく判然せず、翅鞘には二條の縱隆あり、點刻を密布す、體下は赤褐、體長七分乃至八分。

經過 未だ判然せず、成蟲は松の樹幹に蠹入して材質部を食す、老木若くは新しき倒木に產卵する性あり。

(三)**おほくろかみきり** Megasemum quadricostulatum Kraatz. (第十四圖14)

被害植物 樅・えぞまつ・とどまつ。

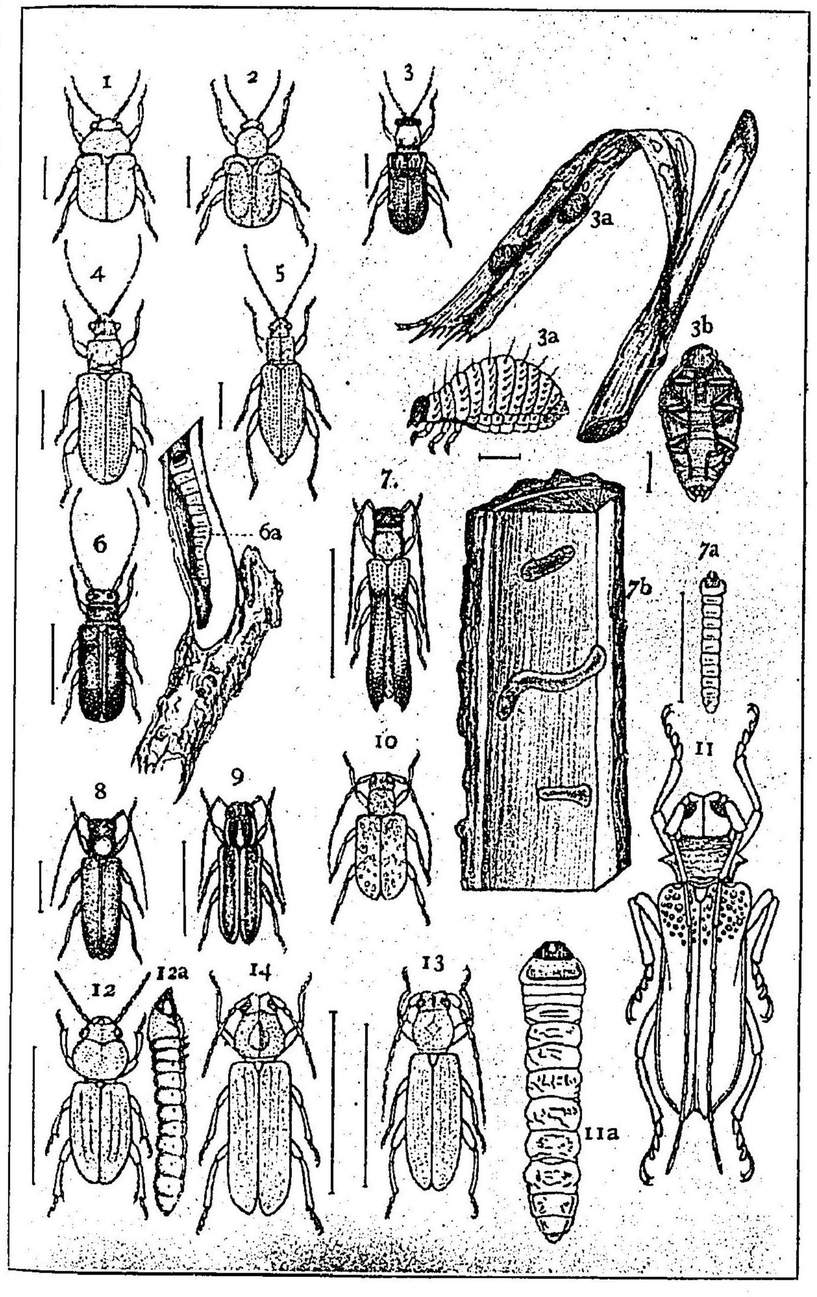
特徴 成蟲 體は黑褐、觸角は雄にては略〻體と同長、雌にては纔かに體の半に達するに過ぎず、前胸背は稍〻球狀、中央は淺く凹陷し、其中央に更に一個の縱溝あり、顆粒及び點刻多し、翅鞘は各二個の縱隆を裝ひ、其間室は粗糙にして縮刻多く、灰色の微小毛あり、體長六分乃至一寸。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、札幌地方にありては七月下旬より八月

第拾四圖

1. Chrysochus chinensis Baly. いもさるはむし (P. 119)
2. Acrothinium gaschkewitschi Motsch. あかがねさるはむし (P. 120)
3. Lema tristis Herbst. (*Lema flavipes* Suff). いねどろはむし (P. 121)
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Donacia simplex F. すげはむし (P. 122)
5. 〃 lenzi Schöf. ねくひはむし (P. 123)
6. Chreonoma fortunei Thoms. るりかみきり (P. 124)
   a. 幼蟲
7. Oberea japonica Thunb. りんごかみきり (P. 125)
   a. 幼蟲 *b.* 被害樹斷面
8. Phytoecia ventralis Chevr. きくすひかみきり (P. 126)
9. Thyestes gebleri Fald. あさかみきり (P. 126)
10. Mesosa japonica Bat. ごまだらかみきり (P. 127)
11. Apriona rugicollis Chevr. くはかみきり (P. 127)
    a. 幼蟲
12. Spondylis buprestoides L. くろかみきり (P. 131)
    a. 幼蟲
13. Criocephalus rusticus L. さびかみきり (P. 132)
14. Megasemum quadricostulatum Kraatz. おほくろかみきり (P. 132)

第拾四圖



上旬に亘りて現はれ「とどまつ」「えぞまつ」の樹幹に蝕入して材質部を食す、多く新伐木に産卵するの性あり「くろかみきり」に酷似すれども、前胸背に大なる凹陷あるを以て容易に識別することを得べし。

(三)まるくびひらたかみきり Asemum amurense Kraatz. (第十五圖4)

被害植物 とどまつ・えぞまつ・松。

特徴 成蟲 體は黑褐色にして灰白毛を密生す、翅鞘は暗黃褐、觸角は短くして總かに體の半に達し、末端は黃褐、頭頂は圓く凹陷す、前胸背は稍圓形にして中央少しく凹陷す、稜狀部は長くして黑褐、翅鞘に判明なる廣き五縱溝ありて其間室は縱隆をなす、前緣に近く横皺あり、脚は短く、尾端は暗褐なり、體長三分五厘乃至四分。

經過 六月上旬乃至七月中旬頃現はれ、新伐木に蝕入す、其數多からず、小形にして觸角短きが爲め一見叩頭蟲の觀あり、札幌地方にては定山溪に普通なり、年一回の發生をなすものゝ如し。

(四)おほまるくびかみきり Asemum striatum L.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども形遙かに大なるを以て容易に區別すること を得べし、前胸背には顆粒狀の小突起多く、中央に廣き一縱溝あり、觸角は黑色、翅鞘に五條の判然せる縱隆あり、間室は網目樣の縮刻をなす、個種により翅鞘の黃褐なるものあり、體長四分五厘乃至六分。

經過 不明、成蟲は六月下旬現はれ、新伐木地に集來して之に產卵す、內地にては稀なる種類なれども、樺太には普通なるが如し、同地にありては七月中旬現はる、年一回の發生をなすものゝ如し。

(五)えぞまつかみきり Tetropium luridum L. (第十五圖5)

被害植物 とどまつ、えぞまつ。

特徴 成蟲 體は黑色にして、黑毛多し、頭及び前胸背は頗る光澤を帶ぶ、觸角は割合に大にして體の半以上に達す、柄節大に、次の三節は小、末端の節は黃褐、頭及び前胸背には點刻を粗布す、前胸背の中央は最も廣く、中央に一縱溝を備へ、後緣には一橫溝あり、翅鞘は光澤を缺き、二縱隆を具へ、短毛を密生す、腿節は大なる棍棒狀をなす、第三跗節及び爪は黃褐、個種により翅鞘、觸角及び跗節の黃褐なるものあり、體長三分三厘乃至四分五厘。

經過 七月上旬より現はれ、新伐木地に集まり來りて爰に產卵す、樺太地方にありては七月中旬現はる、前種と同時なるが如し、其數甚だ多からず、歐洲にては落葉松及び普通松を害す、其加害の甚だしき樹木は六十年乃至百年の星霜を經たるものにして、材質部に一尺六寸乃至二尺餘の蝕痕を有するものあり、年一回の發生にして、幼蟲は晩秋稍〻成長を終り、翌春蛹化し、次て羽化するものゝ如し。

(六)よつぼしかみきり Stenygrinum 4-notatum Bat. (第十五圖6)

被害植物 栗、櫟、楢。

特徴 成蟲 體は黃褐、翅鞘の末端は淡色にして鼈甲樣の光澤を有す、觸角は體より少しく長く、頭及び前胸背に顆粒及び點刻多く、前胸背は稍〻圓柱形にして中央少しく大なり、翅鞘の中央に各二個の黃白紋あり、點刻を粗布し、光澤あり腿節は頗る大に、稍〻球桿狀をなす、體長三分乃至四分。

經過 成蟲は六月乃至八月現はれ、栗其他殼斗科植物の樹幹に產卵す、幼蟲は材質部を食ひて縱孔を穿ち、一方に蟲糞を排出する口を開くを以て容易に其存在を認め得べし、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、幼蟲は黃白

色にして、形狀他の天牛の幼蟲に異ならず、成蟲は栗の開花期に現はれ、其花粉を以て食とするものゝ如し。

(七)**ほそかみきり** Distenia gracilis Bless. (第十五圖7)

被害植物 とどまつ・松。

特徴 成蟲 體は暗褐、細長、頭頂に一縱溝あり、觸角黄褐、體より遙に長く、柄節大なり、前胸背の兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は深き點刻列を縱走し、中央より末端に至るまで點刻なし、灰黑の短毛密生す、脚長し、體長七分乃至八分。

經過 成蟲の發生する時期は一定せず、七月上旬乃至十月現はれ、松柏科の植物幹に蠹入して食害す、其數多からず。

(八)**はひいろかみきり** Allorhagium inquisitor L. (第十五圖8)

被害植物 松・とどまつ・えぞまつ。

特徴 成蟲 體は灰色、觸角は短くして翅底に達するに過ぎず、基部の大半は黄褐、末端は黑褐、前胸背の中央に黑褐の縱條を備へ、兩側に一個の棘狀突起あり、て少しく上方に向ふ、翅鞘は前胸背より甚だ廣く、三個の縱隆ありて黑褐色を呈す、其内に黄色の部分あり、間室には黑褐の隆紋を散在す、全體灰色の短毛を

密生す、體下は黑褐、脚は赤褐、腿節末端は褐色、腹面の中央に一個の縱隆あり、體長五分乃至六分。

經過 未だ判然せざるも年一回發生するものゝ如し、成蟲發生の時期は一ならず、五月より十月に至る間何時にても捕獲し得べし、幼蟲は普通樹皮下にありて食害す、老熟するまでには少なくも一尺乃至一尺四寸の蝕孔を生ず、蝕孔は木屑及び蟲糞を以て常に充實せり、幼蟲の他の天牛と異なる所は頭の一層扁平なること、頭緣の截斷狀なること、及び硬皮板後緣の中央三角形に刻られあることなり。

(九)**あかはなかみきり** Leptura succedanea Lew. (第十五圖9)

被害植物 赤楊。

特徴 成蟲 體は黑色、前胸背・翅鞘及び脚の一部は赤褐、觸角は鋸齒狀にして體より少しく短く、額片は赤黄、後頭は延長して頸狀をなす、前胸背の前後に各一個の黑紋あり、稜狀部は黑色にして黄毛を裝ふ、翅鞘は粗大の點刻を密布し、黄毛を密生す、末端は斜に截斷せられ、其外側に刺あり、前腿節の下方及び前脛節の大部は赤褐、體下は黑褐、黄白の絹樣毛を密生す、體長五分五厘乃至七分。

經過　未だ判然せず、成蟲は八月上旬乃至下旬現はる、幼蟲の他の天牛と異なる所は後頭部の頸狀を呈するにあり、年一回の發生をなすものゝ如し、廣く本邦に播布す、樺太地方にも亦稀ならず。

(二〇)くろすぢはなかみきり　Eustrangalia distenoides Bat.　(第十五圖10)

被害植物　槭。

特徴　成蟲　體は黄色、頭頂、觸角、前胸背の二紋、翅鞘の二縱條及び尾節は黑色、跗節は黑褐、翅端は斜に刳られ、外側に一鋭刺あり、粗大の點刻を散在す、體長四分五厘乃至五分。

經過　未だ判然せず、槭の伐木地に普通なり、雌は産卵管を樹幹に挿入して産卵し、幼蟲は深く材質部に侵入して蝕害す、二年に一回の發生をなすものならんか、甚だ多からざる種類なり。

(二一)くびあかかみきり　Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev.　(第十五圖11)

被害植物　柳、白楊。

特徴　成蟲　體は黑綠、觸角及び脚は黑藍色、前胸背は赤黄、前後の兩端は紺色、觸角は體より遙に長く、頭頂に大なる點刻多し、前胸背の後緣に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘に二縱隆あれども翅端にては判然せず、全面縮刻多し、體下は帶黑綠色、後脛節は腿節より短し、體長八分乃至九分。

經過　幼蟲の壽命は未だ判然せざれども、略〻三四年なるが如し、完熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、七月乃至八月羽化す、兩三年に一回の發生をなすものなれば、年により更に成蟲を見ざることあり、幼蟲は老熟すれば一寸五六分に達す、成蟲は一種固有の香氣を有す。

(二二)おほあをかみきり　Chloridolum thaliodes Bat.　(第十六圖1)

被害植物　柳、白楊。

特徴　成蟲　體は黑綠、前胸背は少しく藍色を帶ぶ、觸角及び脚は黑藍色、前者は絲狀にして體よりも長く、柄節大なり、兩鬚は赤褐乃至黑褐、前胸背に點刻多く、中央に四個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は雌にては腹部より少しく短く、顆粒を密布す、體下は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、後肢頗る長く、脛節は扁平にして少しく彎曲す、體長八分乃至九分。

經過　同前、前種より多し。

(二三)あをかみきり　Chelidonium quadricolle Bat.

被害植物 楡ちやうじやのき・みねばり。

特徴 成蟲 體は綠色、觸角脚及び眼は黑藍色、頭及び前胸背は金光の色澤を帶ぶ、觸角は雌にては體長より少しく短けれども雄にては少しく長し、前胸背の兩側に各一突起を具へ、中央に一縱溝を裝ひ、其兩側に縮刻多し、翅鞘は末端に至るに隨ひ細く且少しく暗色を帶ぶ、二個の縱隆あれども判然せず、腿節は棍棒狀に膨大し、後腿節は側扁、體下は金光色を帶ぶ、個種により全體黑藍色なるものあり、體長七分乃至九分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如しと雖も未だ判然せず、幼蟲は械科植物の幹內にありて縱孔を穿ち食害す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、成蟲は普通六月上旬乃至七月現はる、常に樹幹に蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし、幼蟲老熟すれば一寸六分に達す、大腮は黑色、第一節は稍〻方形をなし、其前半には三個の褐紋を具へ、後半は桃色を帶ぶ。

(三)、くろひらたかみきり *Semanotus chlorizans Solsky.* (第十六圖 2)

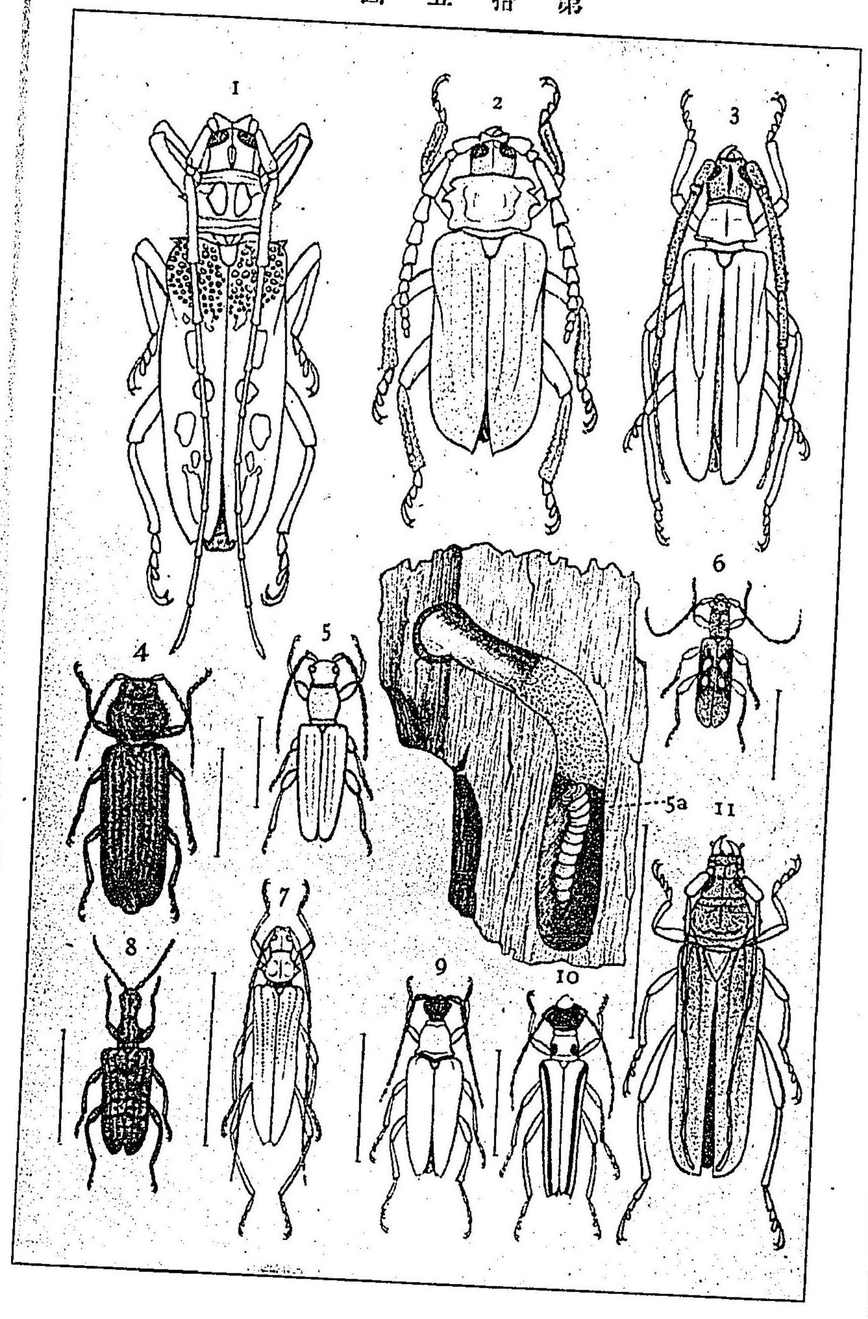
被害植物 楡・赤楊。

特徴 成蟲 體は扁平、黑色にして少しく紺色を帶ぶ、觸角は體より遙に長し、前

第拾五圖

1 Batocera lineolata Chevr. しろすぢかみきり (P. 128)
2. Prionus insularis Motsch. のこぎりかみきり (P. 129)
3. Aegosoma sinicum Whit. うすばかみきり (P. 130)
4. Asemum amurense Krantz. まるくびひらたかみきり (P. 133)
5. Tetropium luridum L. ゐぞまつかみきり (P. 134)
a. 幼蟲
6. Stenygrinum 4—notatum Bat. よつぼしかみきり (P. 135)
7. Distenia gracilis Bless. ほそかみきり (P. 136)
8. Allorhagium inquisitor L. はいいろかみきり (P. 136)
9. Leptura succedanea Lew. あかはなかみきり (P. 137)
10. Eustrangalia distenoides Bat. くろすぢはなかみきり (P. 138)
11. Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev. くびあかかみきり (P. 138)

第拾五圖



胸背は粗糙にして凹凸多く、後緣の兩側は縁る、翅鞘には顆粒突起を散在し、翅底に於て現明なり、腿節は稍〻球桿狀に膨大す、體下及び蹠節は黑褐、體長四分乃至六分。

經過 未だ判然せず、成蟲は六月上旬より現はれ楡の樹幹に産卵す、殊に新伐木地に集來す、兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化すること他の天牛に異ならず。

附言 拙著千蟲圖解第三卷第百四十七頁に記載せる學名 Callidium violaceum L. は誤なるを以て爰に訂正す。

(三五)ほたるかみきり Dere thoracica Whit. (第十五圖3)

被害植物 血櫧(カシ)・合歡(ネム)。

特徴 成蟲 體は黑藍色、觸角は棍棒狀にして黑色、頭に顆粒多し、前胸背は前後の兩端を除き赤色、中央膨起す、翅鞘に顆粒多く、中央は平坦なり、末端は少しく、刻られ、其外側に一刺あり、腿節は甚だしく膨大す、各腹節の後緣は細くして黄色、體長三分內外。

經過 未だ判然せず、成蟲は四五月頃より現はれ、花上に集來する性あり、交尾後

は樹幹に産卵管を挿入して産卵す、年一回の發生なるが如し、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し次て羽化す、其數甚だ多からざるを以て、隨て加害少なし、中國・九州地方に多けれども、北海道には産せず。

(三六)**びろうどかみきり** Monochammus fraudator Bat. (第十六圖4)

被害植物 交讓木(ユズリハ)、其他大戟科植物。

特徴 成蟲 體は褐色、天鵞絨様の光澤あり、額片及び上唇の末端は黄色、頭に點刻を粗布す、觸角は黄褐、各節の末端は少しく濃色、體長の二倍餘あり、前胸背の兩側に上向せる棘狀突起あり、中央に點刻を粗布す、翅鞘には深き點刻を粗布し、灰褐の短毛を密生す、脚短く、腿節太し、體長六分乃至七分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月頃より現はれ、樹幹に産卵す、幼蟲は幹内を縱横に食害す、幼蟲の有様にて越年し、翌春蛹化し、次て羽化す、幼蟲は黄白色にして、頭は褐色、第一節は大にして平たく、中央にコ字形褐紋を裝ひ、其兩側に更に各一個の褐紋あり、老熟すれば一寸一二分に達す、被害樹は常に蟲孔より蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし。

(三七)**せんのかみきり** Monochammus luxuriosus Bat. (第十六圖5)

被害植物 刺楸(一名はりぎり)

特徴 成蟲 體は黑褐、觸角は體の二倍以上ありて黄褐、基部は黑褐、前胸背は兩側に大なる棘狀突起を具へ、粗大の點刻あり、翅鞘は廣くして灰毛を密生し、其基部に顆粒を密布す、二個の判然せざる黑褐の大紋あり(灰色毛の多からざる部分)、脚は赤褐、體長七分五厘乃至一寸三分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は八月下旬乃至九月中旬現はれ、樹幹に産卵管を挿入して産卵す、幼蟲は縱孔を穿ち材質部を食害す、幼蟲の有様にて越年し翌春蛹化す、其成長の度異なるを以て、夏期に於ては殆んど何れの時にても捕獲し得べし、廣く本邦に播布せる種類にして、沖繩地方にも産し、札幌地方には普通なり。

(三八)**ひげながかみきり** Monochammus grandis Whit. (第十六圖6)

被害植物 椴(トド)・えぞまつ・樅。

特徴 成蟲 體は黑色にして、灰色毛あるを以て暗色を呈す、觸角基部の内側に各一個の短き角狀突起あり、頭の中央には縱溝を具へ、縮刻多し、觸角は雄にありては體長の二倍半あり、前胸背には縮刻多く、兩側に棘狀突起ありて、其後方

に灰白毛の縦紋あり、稜狀部には灰白毛を密生す、翅鞘の基部には顆粒を密布し、翅端の三分の二は光澤を帶び、點刻を粗布す、後胸片の兩側に各一個の灰白紋あり、雌にありては觸角は體より少しく長く、第二節乃至第五節の基部は灰色にして少しく藍色を帶ぶ、翅鞘には灰白毛紋を散在す、體長一寸一分乃至一寸六分。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、北海道地方には普通なる種類なれども、深山にあらざれば捕獲し難し、新伐木地に稀ならず、成蟲は樹幹に產卵管を挿入して產卵す、幼蟲は幹內に縱孔を穿ち食害す、其經過未だ全く判然せざれども、大形の種類なれば大害を加ふるものなるべし。

(元)よつぼしひげながかみきり Monochammus sartor F. var. pellio Germ. (第十六圖7)

被害植物 椴(トド)・えぞまつ・樅。

特徵 成蟲 前種に類似すれども、其差異は左の如し。

一、遙に小形なること、體長七分乃至一寸一分。

二、前胸背の兩側に白條を有せず。

三、翅鞘の前半部には粗糙の縮刻及び點刻を裝ひ、翅端には灰黃色の短毛を密生せるを以て斑紋を有する觀あり、判然せざる二三の縱隆あり。

四、後胸片の兩側に灰白紋を缺く。

五、雌にては翅鞘に普通四白紋を裝ふ、時に二個なることあり。

經過 前種と同時に現はれ同樣の害をなす、北海道及び樺太地方に普通なれども經過未だ判然せず、歐洲にありても亦椴類に大害を加ふ。

(三〇)いたやかみきり Mecynippus pubicornis Bat. (第十六圖8)

被害植物 槭。

特徵 成蟲 體は暗褐色にして、黃褐の短毛を密生す、觸角は體よりも遙に長く、赤褐を呈し、灰白毛を密生す、前胸背の兩側に棘狀突起あり、翅鞘の基部には深き點刻を粗布し、中央には廣き灰白の斜帶を走らし、翅端も亦廣くして灰白なり、兩者何れも褐色紋を散在す、脚及び體下は褐色の短毛を密生す、雄にありては翅鞘の灰白帶小にして判然せず、體長六分乃至九分。

經過 未だ判然せざれども、成蟲は七月中旬現はれ槭に產卵するを見る、廣く本邦に播布し、特に九州に多し。

(三一)ひげながごまだらかみきり Apalimna lituraha Bat. (第十六圖9)